

井辺遺跡、神前遺跡

— 都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴う発掘調査報告書 —

2014年10月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



1 神前遺跡 2011-1区 調査地全景(南上空から)



2 井辺遺跡 2011-3区 調査地全景(北西上空から)



1 井辺遺跡 2011-4区 3065・4260 溝北側 遺物出土状況(南から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層 全景(北北東から)

序

和歌山市井辺・神前に所在する井辺遺跡及び神前遺跡は、和歌山県北部を西流する紀の川の流れによって形成された和歌山平野の南東部に位置しています。

両遺跡の北側には、近接して太田・黒田遺跡や秋月遺跡、鳴神地区遺跡群などの弥生時代から古墳時代にかけての集落や低墳丘墓が形成され、東側の福飯ヶ峯の山塊には井辺八幡山古墳を含む井辺前山古墳群が所在しており、発掘調査事例の増加に伴い考古学的なアプローチによる集落と墓域の解明が期待されているところです。また、井辺遺跡、神前遺跡の立地する紀の川南岸平野部には、県内でも著名な河南条里や和田川条里が広がり、古代から中世にかけての開発史の中でも注目される地域の一つに挙げられます。

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴い平成22年度・同23年度に発掘調査を実施しました。調査の結果、弥生時代から古墳時代中期、鎌倉時代にかけての水路遺構や自然流路を発見し、多くの土器や木製品が出土し、往時の景観の変遷を明らかにすることができました。

平成24年度から同26年度に整理作業を進めて参り、このたびその成果をまとめることができましたので、発掘調査報告書として刊行する次第でございます。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いかと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたりご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申しあげます。

平成26年10月

公益財団法人 和歌山県文化財センター
理事長 工 楽 善 通

例言

- 1 本書は、和歌山県和歌山市井辺・神前に所在する井辺遺跡及び神前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴い、平成 22 年度・同 23 年度に井辺遺跡、神前遺跡の発掘調査業務を行い、同 24 年度から同 26 年度に出土遺物等整理業務を実施した。
- 3 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県の委託を受けた財団法人和歌山県文化財センター及び公益財団法人和歌山文化財センターが、和歌山県教育委員会の指導の下に実施した。
- 4 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、和歌山県（海草振興局）が負担した。
- 5 現地調査に際し、海草振興局をはじめ、和歌山市教育委員会・関係機関および隣接する地元の方々から多大なご協力を得た。
- 6 本書は、発掘調査業務担当者と協議のうえ、土井が執筆・編集した。本文中の「付章 第 1 節 井辺遺跡から出土した動物遺存体」は、（公財）京都市埋蔵文化財研究所 丸山真史氏、「第 2 節 井辺遺跡から出土した種実類」は、（株）古環境研究所 金原美奈子氏、「第 3 節 井辺遺跡及び神前遺跡出土遺物の保存処理報告」は、（株）文化財サービス 植村明男氏に執筆して頂いた。
- 7 図版に使用した遺構写真は、調査担当者が撮影し、遺物写真は土井が撮影した。
- 8 発掘調査にあたっては、次の諸氏から多大なご指導・ご教示を賜った。（所属は当時、敬称略）
青柳泰介・中野 咲（奈良県立橿原考古学研究所）、小賀直樹、此松昌彦・海津一郎（国立大学法人和歌山大学）、北野隆亮・井馬好英・藤藪勝則・櫻田小百合（財団法人和歌山市都市整備公社）、中村貞史、額田雅裕・前田敬彦・大木 要（和歌山市教育委員会）、丸山真史・廣瀬 覚（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター）
- 9 発掘調査・出土遺物等整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。
- 10 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は、以下に示すとおりである。

調査組織

事務局	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
事務局 長	田中 洋次	田中 洋次	渋谷 高秀	勝浦 久和	嶋田 文紀
事務局 次長		山本 高照			
管理課 長	富加見泰彦	山本 高照	渋谷 高秀	勝浦 久和	嶋田 文紀
埋蔵文化財課長	村田 弘	村田 弘	村田 弘	井石 好裕	井石 好裕
発掘調査業務担当					
	(技師)				
埋蔵文化財課	田中 元浩	田中 元浩			
		(非常勤専門調査員)			
		山野 晃司			
出土遺物等整理業務担当					
			(主任)	(課長補佐)	
埋蔵文化財課			土井 孝之	土井 孝之	土井 孝之

凡例

- 1 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して行った。
- 2 遺構実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）に基づき、値はm単位で使用している。また、図面に示した北方位は、座標北を示す。
- 3 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.+）表示である。
- 4 発掘調査及び整理作業で使用した調査コードは、以下のとおりである。
10-01・308（2010年度-和歌山市・井辺遺跡）井辺遺跡第1次調査
11-01・308-1（2011年度-和歌山市・井辺遺跡）井辺遺跡第2次調査
11-01・307-1（2011年度-和歌山市・神前遺跡）神前遺跡第3次調査
出土遺物・記録資料の整理に当って、全て上記の調査コードを使用している。
- 5 地区割の詳細については、本文の第Ⅲ章第3節に記述する。
- 6 遺構番号は、2010年度は1番からの通し番号とし、2011年度は神前遺跡2011-1区を1001番から、神前遺跡2011-2区を2001番から、井辺遺跡2011-3区を3001番から、井辺遺跡2011-4区を4001番からの通し番号とし、遺構番号には必要に応じて末尾に種類（性格）を付した。但し、遺構が両地区に跨る場合は、先行して調査を行った地区の遺構番号を付して使用している。
例：3065溝、4259自然流路・・・
- 7 本書の遺構・土層実測図は、特に縮尺を統一していないが、各々に明示している。図の表現で、遺構、任意掘削・掘り残し、攪乱でケバの表現を各々変えている。



- 8 遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。
- 9 遺物実測図の縮尺は、土器類は原則として1/4で、それ以外の場合は必要に応じて縮尺を明示している。遺物写真の縮尺は、特に統一していない。
- 10 調査時の土層の色調・土壌の粒径区分及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（2010年版）を使用した。
土層名で2種類以上の記載のある場合は、前者が主体で、後者が副になることを示す。

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第Ⅱ章 位置と環境	3
第1節 位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 既往の調査	7
第Ⅲ章 発掘調査の方法と資料整理	11
第1節 調査現場の記録作業	11
1 写真撮影作業	11
2 実測図作成作業	11
3 航空写真撮影・基準点測量	11
第2節 出土遺物等資料の整理	12
1 出土遺物応急整理等	12
2 出土遺物等整理業務	12
3 出土遺物の整理方法	15
第3節 調査区の設定と掘削手順	16
1 地区割の方法	16
2 掘削手順	16
3 記録方法	16
第Ⅳ章 調査成果	19
第1節 神前遺跡 2011-1・2区の調査成果	19
1 調査の概要	19
2 基本層序と遺構面	20
3 各遺構の調査成果	21
第2節 井辺遺跡 2010-1・2区の調査成果	33
1 調査の概要	33
2 基本層序と遺構面	34
3 各遺構の調査成果	35
第3節 井辺遺跡 2011-3・4区の調査成果	44
1 調査の概要	44
2 基本層序と遺構面	45
3 各遺構の調査成果	46
第Ⅴ章 まとめ	108
付章	115
第1節 井辺遺跡から出土した動物遺存体	115
第2節 井辺遺跡から出土した種実類	121
第3節 井辺遺跡及び神前遺跡出土遺物の保存処理報告	127
出土遺物実測図	134
出土遺物一覧	206
写真図版 検出遺構・出土遺物	
報告書抄録	

挿図目次

図1 井辺遺跡、神前遺跡と周辺の遺跡……………4	図37 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層遺物出土 状況図……………73・74
図2 地区割模式図(1km区画)……………17	図38 井辺遺跡 2011-3区 3006 土坑・3038~3043 柱穴 実測図……………88
図3 調査地周辺地区割図(100m区画)……………17	図39 井辺遺跡 遺構断面土層図5(2011-3区)……………89
図4 井辺遺跡、神前遺跡 調査地位置図……………18	図40 井辺遺跡 遺構断面土層図6(2011-3・4区)……………90
図5 神前遺跡 2011-1・2区 地区割図(4m区画)……………19	図41 井辺遺跡 遺構断面土層図7(2011-3・4区)……………91
図6 神前遺跡 2011-1・2区の基本層序……………20	図42 井辺遺跡 遺構断面土層図8(2011-3・4区)……………92
図7 神前遺跡 2011-1・2区 遺構全体平面図……………22	図43 井辺遺跡 遺構断面土層図9(2011-3・4区)……………93
図8 神前遺跡 2011-1・2区 各遺構断面位置図……………23	図44 井辺遺跡 遺構断面土層図10(2011-4区)……………94
図9 神前遺跡 遺構断面土層図1(2011-1・2区)……………26	図45 井辺遺跡 遺構断面土層図11(2011-4区)……………95
図10 神前遺跡 遺構断面土層図2(2011-1・2区)……………27	図46 井辺遺跡 遺構断面土層図12(2011-4区)……………96
図11 神前遺跡 遺構断面土層図3(2011-1区)……………28	図47 井辺遺跡 遺構断面土層図13(2011-4区)……………97
図12 神前遺跡 遺構断面土層図4(2011-1・2区)……………29	図48 井辺遺跡 遺構断面土層図14(2011-3・4区)……………98
図13 神前遺跡 遺構断面土層図5(2011-1・2区)……………30	図49 井辺遺跡 遺構断面土層図15(2011-3・4区)……………99
図14 神前遺跡 遺構断面土層図6(2011-1・2区)……………31	図50 井辺遺跡 遺構断面土層図16(2011-4区)……………100
図15 井辺遺跡 2010-1・2区 地区割図(4m区画)……………33	図51 神前遺跡 2011-1・2区 出土遺物実測図……………134
図16 井辺遺跡 2010-1・2区の基本層序……………34	図52 井辺遺跡 2010-2区 出土遺物実測図……………135
図17 井辺遺跡 2010-1・2区 遺構全体平面図……………36	図53 井辺遺跡 2010-1・2区 出土遺物実測図……………136
図18 井辺遺跡 2010-1・2区 各遺構断面位置図……………36	図54 井辺遺跡 2011-3区 出土遺物実測図1……………137
図19 井辺遺跡 遺構断面土層図1(2010-2区)……………39	図55 井辺遺跡 2011-3区 出土遺物実測図2……………138
図20 井辺遺跡 遺構断面土層図2(2010-1区)……………40	図56 井辺遺跡 2011-3区 出土遺物実測図3……………139
図21 井辺遺跡 遺構断面土層図3(2010-2区)……………41	図57 井辺遺跡 2011-4区 出土遺物実測図1……………140
図22 井辺遺跡 遺構断面土層図4(2010-2区)……………42	図58 井辺遺跡 2011-4区 出土遺物実測図2……………141
図23 井辺遺跡 2011-3・4区 地区割図(4m区画)……………44	図59 井辺遺跡 2011-4区 出土遺物実測図3……………142
図24 井辺遺跡 2011-3・4区の基本層序……………45	図60 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図1……………143
図25 井辺遺跡 2011-3・4区 遺構全体平面図……………47・48	図61 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図2……………144
図26 井辺遺跡 2011-3・4区 各遺構断面位置図……………49・50	図62 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図3……………145
図27 井辺遺跡 2011-3区 3001 溝層序別遺物分布図……………51	図63 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図4……………146
図28 井辺遺跡 2011-3・4区 3005 溝層序別遺物分布図 ……………53	図64 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図5……………147
図29 井辺遺跡 2011-3・4区 3065 溝層序別遺物分布図 ……………55	図65 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図6……………148
図30 井辺遺跡 2011-3・4区 3092 溝層序別遺物分布図 ……………58	図66 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図7……………149
図31 井辺遺跡 2011-3・4区 3097・4260 溝層序別遺物 分布図……………60	図67 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図8……………150
図32 井辺遺跡 2011-4区 3065・4260 溝遺物出土状況図 ……………61・62	図68 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図9……………151
図33 井辺遺跡 2011-3・4区 4259 自然流路層序別遺物 分布図……………67	図69 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図10……………152
図34 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層・中層2遺物 出土状況図……………69・70	図70 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図11……………153
図35 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層杭列検出 状況図……………71	図71 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図12……………154
図36 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中層2生贓状遺 構実測図……………72	図72 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図13……………155
	図73 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝出土遺物実測図14……………156
	図74 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路出土遺物 実測図1……………157
	図75 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路出土遺物 実測図2……………158
	図76 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路出土遺物 実測図3……………159

图 77 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 4	160	图 100 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 1	183
图 78 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 5	161	图 101 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 2	184
图 79 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 6	162	图 102 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 3	185
图 80 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 7	163	图 103 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 4	186
图 81 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 8	164	图 104 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 5	187
图 82 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 9	165	图 105 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 6	188
图 83 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 10	166	图 106 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 7	189
图 84 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 11	167	图 107 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 8	190
图 85 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 12	168	图 108 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 9	191
图 86 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 13	169	图 109 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 10	192
图 87 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 14	170	图 110 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 11	193
图 88 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 15	171	图 111 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 12	194
图 89 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 16	172	图 112 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 13	195
图 90 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 17	173	图 113 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 14	196
图 91 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 18	174	图 114 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 15	197
图 92 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 19	175	图 115 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 16	198
图 93 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 20	176	图 116 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 実測図 17	199
图 94 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 21	177	图 117 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土木製品 他実測図	200
图 95 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 22	178	图 118 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 24	201
图 96 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 23	179	图 119 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 25	202
图 97 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路他出土遺物 実測図	180	图 120 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 26	203
图 98 井刃遺跡 2010-2 区・2011-3 区・2011-4 区 石器・ 石製品実測図	181	图 121 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 27	204
图 99 井刃遺跡 2011-3 区・2011-4 区 石器、井刃遺跡 2011-3 区・2011-4 区・神前遺跡 2011-2 区 金属器・ 金属製品実測図	182	图 122 井刃遺跡 2011-4 区 4259 自然流路出土遺物 実測図 28	205

表目次

表1	発掘調査・出土遺物等整理業務工程表	1	表11	井辺遺跡 2011-3・4区 4259 自然流路層序別遺物分布	68
表2	井辺遺跡、神前遺跡と周辺の遺跡地名一覧	5	表12	井辺遺跡 2011-3区 各層序別遺物数量	101
表3	井辺遺跡での既往の調査一覧（和歌山市関係）	8	表13	井辺遺跡 2011-3区 各層序別遺物数量 古墳時代遺物内訳	102
表4	神前遺跡 2011-1・2区 各層序別遺物数量	32	表14	井辺遺跡 2011-4区 各層序別遺物数量	103・104
表5	井辺遺跡 2010-1・2区 各層序別遺物数量	43	表15	井辺遺跡 2011-4区 層序別遺物数量 古墳時代遺物内訳	105・106
表6	井辺遺跡 2011-3区 3001 溝層序別遺物分布	51	表16	井辺遺跡 2011-3・4区 土坑列一覧	107
表7	井辺遺跡 2011-3・4区 3005 溝層序別遺物分布	54			
表8	井辺遺跡 2011-3・4区 3065 溝層序別遺物分布	56			
表9	井辺遺跡 2011-3・4区 3092 溝層序別遺物分布	58			
表10	井辺遺跡 2011-3・4区 3097・4260 溝層序別遺物分布	59			

写真目次

写真1	井辺遺跡 2011-3区 現地公開:検出遺構説明	2	写真10	木製品の洗浄作業	12
写真2	井辺遺跡 2011-3区 現地公開:出土遺物説明	2	写真11	出土遺物（土器）への登録コード注記作業	12
写真3	秋月遺跡出土の弥生土器（市第8次調査）	6	写真12	土器の接合作業1	13
写真4	秋月遺跡の周溝墓（県第9次調査）（西から）	6	写真13	土器の接合作業2	13
写真5	坂田遺跡出土の琴柱形石製品	6	写真14	遺物充填材による補強・復元作業	14
写真6	井辺遺跡出土の弥生土器（市13次調査）	9	写真15	出土遺物の実測図作成（弥生土器）	14
写真7	井辺遺跡（湊神前線）2011-5区 竪穴建物1 （北から）	9	写真16	出土遺物の実測図作成（竪穴建物 柱）	14
写真8	神前遺跡（和歌山橋本線）2011-7・8区 （北東から）	10	写真17	遺物実測図のレイアウト	14
写真9	出土遺物（土器）の洗浄作業	12	写真18	遺構図トレース作業	14
			写真19	遺構写真の整理	14
			写真20	遺物内容登録データ入力	15

付章 表・写真目次

第1節

表1	種名表	115
表2	4259 自然流路出土の動物遺存体集計表	116
表3	4259 自然流路の動物遺存体一覧表	117
写真1	井辺遺跡から出土した動物遺存体1	119
写真2	井辺遺跡から出土した動物遺存体2	120

第2節

表1	井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路から出土した種実類集計	125
写真1	井辺遺跡出土の種実類	126

第3節

表1	金属製品の蛍光X線分析による材質分析	129
写真1	金属製品のX線透過写真	128
写真2	井辺遺跡出土木製品の樹種同定顕微鏡写真1	130
写真3	井辺遺跡出土木製品の樹種同定顕微鏡写真2	131
写真4	主な金属製品・木製品の保存処理前・処理後の状態	132

写真図版目次

巻頭写真図版1

- 1 神前遺跡 2011-1区 調査地全景(南上空から)
- 2 井辺遺跡 2011-3区 調査地全景(北西上空から)

巻頭写真図版2

- 1 井辺遺跡 2011-4区 3065・4260 溝北側 遺物出土状況(南から)
- 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層 全景(北北東から)

写真図版1 神前遺跡 2011-1・2区 調査地全景・調査遺構

神前遺跡 2011-1・2区 調査遺構全景(合成写真:真上から)

写真図版2 神前遺跡 2011-1・2区 調査地全景・調査遺構

- 1 神前遺跡 2011-1区 調査地全景(北上空から)
- 2 神前遺跡 2011-1区 調査遺構全景(北西から)
- 3 神前遺跡 2011-1区 調査遺構全景(北から)

写真図版3 神前遺跡 2011-1区 調査遺構

- 1 神前遺跡 2011-1区 1018・1031・1032 溝(北東から)
- 2 神前遺跡 2011-1区 1036・1038・1031 溝(南西から)
- 3 神前遺跡 2011-1区 1041・1026・1027 溝(北北東から)

写真図版4 神前遺跡 2011-1区 調査遺構

- 1 神前遺跡 2011-1区 1001 土坑断面土層(南から)
- 2 神前遺跡 2011-1区 1002 土坑断面土層(南から)
- 3 神前遺跡 2011-1区 1026 溝断面土層1(南から)
- 4 神前遺跡 2011-1区 1031 溝断面土層4(南西から)
- 5 神前遺跡 2011-1区 1031 溝断面土層(南西から)
- 6 神前遺跡 2011-1区 1032・1031 溝断面土層(南南西から)
- 7 神前遺跡 2011-1区 1037・1017・1036 断面土層(南東から)
- 8 神前遺跡 2011-1区 1038 溝断面土層3(南西から)
- 9 神前遺跡 2011-1区 1041 溝断面土層2(南から)
- 10 神前遺跡 2011-1区 1051・1032 溝断面土層(南西から)

写真図版5 神前遺跡 2011-2区 調査地全景・調査遺構

- 1 神前遺跡 2011-2区 調査地全景(西南西上空から)
- 2 神前遺跡 2011-2区 調査遺構全景(北北西から)
- 3 神前遺跡 2011-2区 調査遺構全景(南南東から)

写真図版6 神前遺跡 2011-2区 調査遺構

- 1 神前遺跡 2011-2区 1017 溝断面土層(南南西から)
- 2 神前遺跡 2011-2区 1033・1051 溝断面土層(南から)
- 3 神前遺跡 2011-2区 1036 溝断面土層1(南から)
- 4 神前遺跡 2011-2区 1036 溝断面土層2(南から)
- 5 神前遺跡 2011-2区 2070 谷状地形上層鋤先出土状況(南から)
- 6 神前遺跡 2011-2区 2070 谷状地形トレンチ1 断面土層(南から)

- 7 神前遺跡 2011-2区 2070 谷状地形トレンチ2 断面土層(南南東から)

写真図版7 井辺遺跡 2010-1・2区 調査地全景・調査遺構

- 1 井辺遺跡 2010-1・2区 調査地全景(合成写真:真上から)
- 2 井辺遺跡 2010-1区 調査地全景(北上空から)
- 3 井辺遺跡 2010-1区 調査遺構全景(南から)
- 4 井辺遺跡 2010-1区 調査区北壁断面土層(南西から)
- 5 井辺遺跡 2010-1区 調査区東壁断面土層(南西から)
- 6 井辺遺跡 2010-1区 下層確認トレンチ1 土器1 出土状況(南西から)
- 7 井辺遺跡 2010-1区 下層確認トレンチ1 南壁断面土層(北東から)

写真図版8 井辺遺跡 2010-2区 調査地全景・調査遺構

- 1 井辺遺跡 2010-2区 調査地全景(北上空から)
- 2 井辺遺跡 2010-2区 南半部(真上から)
- 3 井辺遺跡 2010-2区 北半部(真上から)
- 4 井辺遺跡 2010-2区 調査遺構全景(北から)
- 5 井辺遺跡 2010-2区 2溝・谷状地形(南南東から)
- 6 井辺遺跡 2010-2区 6溝・11溝・谷状地形(北北西から)
- 7 井辺遺跡 2010-2区 4土坑断面土層(北北東から)

写真図版9 井辺遺跡 2010-2区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2010-2区 5土坑断面土層(南から)
- 2 井辺遺跡 2010-2区 7・8小穴断面土層(北西から)
- 3 井辺遺跡 2010-2区 6溝断面土層1(南南東から)
- 4 井辺遺跡 2010-2区 10溝断面土層(北から)
- 5 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形西側部分落ち(南南東から)
- 6 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形土器3出土状況(南東から)
- 7 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形自然木出土状況(南から)
- 8 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ3 土器4 出土状況(北西から)

写真図版10 井辺遺跡 2010-2区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ2 北壁断面土層(南東から)
- 2 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ3 北壁断面土層(南西から)
- 3 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ4 北壁断面土層(南西から)

写真図版11 井辺遺跡 2011-3・4区 調査地全景・調査遺構

井辺遺跡 2011-3・4区 調査遺構全景(合成写真:真上から)

写真図版12 井辺遺跡 2011-3・4区 調査地全景・調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3区 調査地全景(北西上空から)
- 2 井辺遺跡 2011-3区 調査遺構全景(北北東から)
- 3 井辺遺跡 2011-3・4区 調査前の状況(北北西から)

写真図版 13 井辺遺跡 2011-3 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3 区南半部 調査遺構全景(南南西から)
- 2 井辺遺跡 2011-3 区北半部 調査遺構全景(南から)
- 3 井辺遺跡 2011-3 区北半部 調査遺構全景(北東から)

写真図版 14 井辺遺跡 2011-3 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3 区 調査区西壁断面土層(東北東から)
- 2 井辺遺跡 2011-3 区 調査区北壁断面土層(南南東から)
- 3 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝(南から)
- 4 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝断面土層 1(南東から)
- 5 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝断面土層 2(南東から)
- 6 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝断面土層 3(南南東から)
- 7 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝下層遺物 13~15 出土状況(北西から)
- 8 井辺遺跡 2011-3 区 3001 溝上層遺物 1 出土状況(南から)

写真図版 15 井辺遺跡 2011-3 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝(北北東から)
- 2 井辺遺跡 2011-3 区 3005・3084・3065 溝合流部分(北東から)
- 3 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝断面土層 1(南から)
- 4 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝断面土層 3(南から)
- 5 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝断面土層 4(南南西から)
- 6 井辺遺跡 2011-3 区 3084 溝断面土層(南から)
- 7 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝遺物 8~11 出土状況(北から)
- 8 井辺遺跡 2011-3 区 3005 溝遺物 15~17 出土状況(北東から)

写真図版 16 井辺遺跡 2011-3 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3 区 3065・3088 溝断面土層 1(南西から)
- 2 井辺遺跡 2011-3 区 3065 溝断面土層 2(南南西から)
- 3 井辺遺跡 2011-3 区 3092 溝断面土層 2(南南西から)
- 4 井辺遺跡 2011-3 区 3092 溝断面土層 3(南南西から)
- 5 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝断面土層 1(南南西から)
- 6 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝断面土層 2(南南西から)
- 7 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝遺物 1 出土状況(南南西から)
- 8 井辺遺跡 2011-3 区 噴砂の砂脈 A6-i11 付近(北東から)

写真図版 17 井辺遺跡 2011-3 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-3 区 3006 土坑(南東から)
- 2 井辺遺跡 2011-3 区 3006 土坑断面土層(南東から)
- 3 井辺遺跡 2011-3 区 3025~3034 畝状遺構(東南東から)
- 4 井辺遺跡 2011-3 区 3025~3034 畝状遺構(北北東から)
- 5 井辺遺跡 2011-3 区 3025~3034 畝状遺構断面土層(南南西から)
- 6 井辺遺跡 2011-3 区 土坑列 14(3051~3060 土坑)断面土層(南西から)
- 7 井辺遺跡 2011-3 区 土坑列 16(3075~3085 土坑)断面土層(西南西から)

- 8 井辺遺跡 2011-3 区 土坑列 14・15(東南東から)

写真図版 18 井辺遺跡 2011-4 区 調査地全景・調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 調査地全景(南南東上空から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構全景(北北西から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 4271・4260・3065 溝遺物出土状況(北北東から)

写真図版 19 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 A6-d・e14 3065・4260・4271 溝北側遺物出土状況(南から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 3065 溝北側遺物出土状況(南から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 3065 溝トレンチ北遺物出土状況(南南西から)
- 4 井辺遺跡 2011-4 区 3065 溝遺物出土状況(南東から)
- 5 井辺遺跡 2011-4 区 3065 溝遺物出土状況(東から)
- 6 井辺遺跡 2011-4 区 3065 溝断面土層(南南西から)

写真図版 20 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 A6-d・e14 3065・4260・4271 溝北側遺物出土状況(南から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 A6-d・e14 4260 溝北側遺物出土状況(南から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝遺物出土状況(南南西から)

写真図版 21 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(南南東から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 4 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 5 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 6 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 7 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)
- 8 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝北側遺物出土状況(西から)

写真図版 22 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 A6-e20 4260 溝南端遺物出土状況(南から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 A6-e20 4260 溝南端遺物出土状況(北から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝断面土層(南南東から)

写真図版 23 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路下層 全景(北から)
- 2 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路南端下層遺物出土状況全景(北東から)
- 3 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路南端下層遺物出土状況(北から)

写真図版 24 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構

- 1 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路西層下層

- 杭検出状況(東から)
- 2 井辺遺跡 2011-4区 A6-c18 4259 自然流路下層遺物出土状況(東から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層直柄平鋏未成品 1109 出土状況
 - 4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層イノシシ/ブタ下顎骨出土状況(北西から)
- 写真図版 25 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南端中層2遺物出土状況全景(北東から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中層2生糞状遺構(南西から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中層2生糞状遺構(南東から)
 - 4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半中層2腰掛脚部 1153 出土状況
- 写真図版 26 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層遺物出土状況全景(北から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層遺物出土状況全景(北北東から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層遺物出土状況全景(南から)
- 写真図版 27 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層遺物出土状況(北北東から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南端上中層遺物出土状況(北東から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層遺物出土状況(北北東から)
 - 4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層遺物出土状況(北東から)
 - 5 井辺遺跡 2011-4区 A6-c18 4259 自然流路北側上中層遺物出土状況(東から)
 - 6 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層鎗矢装着具 1145 出土状況
 - 7 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層織機 1119 出土状況(北西から)
- 写真図版 28 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層妻壁板 1162・又鋏未成品 1107 出土状況(北北西から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層又鋏未成品 1107 出土状況(北北東から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層妻壁板 1162 出土状況(西から)

- 4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層屋根形木製品 1223 出土状況(南西から)
 - 5 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層垂木 1199 出土状況(北東から)
 - 6 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層水平構造材 1161 出土状況(北北西から)
 - 7 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層建築部材台輪? 1160 出土状況(北東から)
 - 8 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層建築部材台輪? 1159 出土状況(北西から)
 - 9 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層柱 1184 出土状況(西南西から)
 - 10 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層杭材 1226 他打ち込み状況(南西から)
- 写真図版 29 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路トレンチ3断面土層(南東から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路トレンチ4断面土層(南東から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路調査区南壁断面土層(北西から)
- 写真図版 30 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 3031~3034・4139~4149 畝状遺構・土坑列 1~3(真上から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 3031~3034・4139~4149 畝状遺構・土坑列 1~3(西上空から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 4139~4149 畝状遺構断面土層(南南東から)
 - 4 井辺遺跡 2011-4区 4139~4149 畝状遺構断面土層(南南西から)
- 写真図版 31 井辺遺跡 2011-4区 調査遺構
- 1 井辺遺跡 2011-4区 土坑列 1~3・土坑群(北西から)
 - 2 井辺遺跡 2011-4区 土坑列 2(4155~4170 土坑)断面土層(西から)
 - 3 井辺遺跡 2011-4区 土坑列 5(4195~4199 土坑)断面土層(南西から)
 - 4 井辺遺跡 2011-4区 土坑列 8(4213~4220 土坑)断面土層(南西から)
 - 5 井辺遺跡 2011-4区 土坑列 11(4242~4246 土坑)断面土層(南から)
 - 6 井辺遺跡 2011-4区 A6-d11 3層下耳環出土状況(南から)
- 写真図版 32 神前遺跡 2011-1・2区 出土遺物
- 写真図版 33 井辺遺跡 2010-2区 出土遺物
- 写真図版 34 井辺遺跡 2010-1・2区 出土遺物
- 写真図版 35 井辺遺跡 2011-3区 出土遺物 1

写真図版 36	井辺遺跡 2011-3 区	出土遺物 2	写真図版 58	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 21
写真図版 37	井辺遺跡 2011-3 区	出土遺物 3	写真図版 59	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 22
写真図版 38	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 1	写真図版 60	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 23
写真図版 39	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 2	写真図版 61	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 24
写真図版 40	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 3	写真図版 62	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 25
写真図版 41	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 4	写真図版 63	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 26
写真図版 42	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 5	写真図版 64	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 27
写真図版 43	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 6	写真図版 65	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 28
写真図版 44	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 7	写真図版 66	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 29
写真図版 45	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 8	写真図版 67	神前遺跡・井辺遺跡	石器・金属器・金属製品
写真図版 46	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 9	写真図版 68	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 1
写真図版 47	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 10	写真図版 69	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 2
写真図版 48	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 11	写真図版 70	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 3
写真図版 49	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 12	写真図版 71	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 4
写真図版 50	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 13	写真図版 72	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 5
写真図版 51	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 14	写真図版 73	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 6
写真図版 52	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 15	写真図版 74	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 7
写真図版 53	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 16	写真図版 75	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 8
写真図版 54	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 17	写真図版 76	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 9
写真図版 55	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 18	写真図版 77	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 10
写真図版 56	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 19	写真図版 78	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 木製品 11
写真図版 57	井辺遺跡 2011-4 区	出土遺物 20			

託した。また、調査途中、現地作業を休止し、水道管撤去・移設、電柱撤去作業を行った。水道管撤去は株式会社藤宗設備に委託した。調査は当初、分割せず単一の調査区とする予定であったが、水道管移設、排土置場確保のため、調査区を分割し、調査を2工程に分け行った。航空写真測量はラジコンヘリコプターを用い、平成23年1月13日、平成23年2月10日の2回行った。その後埋め戻しつつ、残りの実測作業等を行い、3月4日に現地作業が終了した。この他、発掘調査と併行し、応急整理として遺物の洗浄・登録・注記を行っている。

神前遺跡 2011-1・2区（県3次調査）及び井辺遺跡 2011-3・4区（県2次調査）の現地発掘調査については、平成23年3月29日から平成23年10月5日にかけて実施し、本調査面積は3,940㎡である。発掘調査にかかわる工事は、工事請負方式で実施し、掘削作業等は総合建設業北本組に発注し、基準点測量、航空写真撮影及び航空写真測量は写測エンジニアリング株式会社に委託した。

調査地は、南北2箇所に分かれ、南側の神前遺跡 2011-1・2区（県3次調査）1,273㎡と、北側の井辺遺跡 2011-3・4区（県2次調査）2,677㎡に分かれる。現地調査では、排土置き場の確保から、各調査区を二つに分割し、それぞれ1区・2区・3区・4区として調査を行った。航空写真測量はラジコンヘリコプターを用い、平成23年6月9日、平成23年7月6日、平成23年8月29日の3回行った。しかし、調査終盤で、大規模な自然流路（2011-4区 4259自然流路）を掘削する必要が生じたため、工期を延長し、自然流路の調査を行った。その後、埋め戻しつつ、残りの実測作業等を行い、10月5日に現地作業が終了した。また、発掘調査と併行し、応急整理作業として遺物の洗浄・登録・注記を行っている。

この他、普及活動として、周辺住民の方を対象とした現地公開を平成23年6月5日に行い、189名の参加者を得た（写真1・2）。また、平成23年6月6日には、和歌山市立岡崎小学校6年生69名の見学を受け入れた。さらに、平成24年4月28日には、和歌山市東部コミュニティセンターにおいて「発掘調査報告会 神前遺跡・井辺遺跡の発掘調査成果」と称して、報告会を開催した。



写真1 井辺遺跡 2011-3区 現地公開:検出遺構説明 写真2 井辺遺跡 2011-3区 現地公開:出土遺物説明

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 位置と地理的環境 (図1・表2)

まず、井辺遺跡(308)及び神前遺跡(307)の地理的環境を理解するためには、和歌山平野の中での紀の川の往時の流路変遷を把握することが重要と思われる。弥生時代から古墳時代の紀の川の河口は、東方から西流してきた紀の川は海岸線に形成された大規模な砂丘に沿うように、現在の紀の川の北岸和歌山市楠見遺跡・平井津辺りで南東方へ南下し、和歌山城・吹上和歌山市友田町・吉田津の間を南下すると名草山西麓の和歌の浦に注ぐ。現在の和歌川がかつての紀の川(木御川)として流路変遷の痕跡を留める。この紀の川の流れの方向が、今回の井辺遺跡及び神前遺跡の調査で主体を占める弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての地理的・地形的な景観である。

井辺遺跡は、往時の紀の川南東岸の県内でも最も肥沃で広大な面積を抱える和歌山平野の東部の完新世段丘Ⅱ面に位置する。この井辺遺跡は、岩橋山塊の西端に位置する半独立丘陵的な福飯ヶ峯(標高約102m)の北西側の丘陵裾部から沖積平野部に立地する。また、井辺遺跡の南側に接して位置する神前遺跡は、沖積平野部から遺跡南側を西流する和田川により形成された自然堤防上にかけて立地する。

井辺遺跡の現行の遺跡範囲(『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』2007年)は、北東-南西幅約1,100m・北西-南東幅約500mを測る長楕円形状を呈し、和歌山平野の中でも最も広範囲に展開する遺跡である。調査・研究により、井辺遺跡から神前遺跡にかけては上記する地形立地から集落の成立と共に自然堤防(微高地)・微低地・谷部(湿地)などの微地形を復元することが可能となってきている。

また、神前遺跡は、井辺遺跡と北側で接しており、和歌山市神前に所在し、遺跡の範囲は南北約700m・東西約450mを測る。

両遺跡は、標高約102mの福飯ヶ峯を最高峰とした井辺前山丘陵の山麓に位置し、標高約3~4mの微高地上に立地する。遺跡北西には平野部が展開し、和歌山平野の南東部に位置する。

今回の調査地の内、神前遺跡2011-1・2区(県3次調査)は神前遺跡推定範囲の北東部分に位置している。調査地の現況は水田跡で、調査地の東西には水田が広がっている。調査地南北は宅地化が進み、厚さ50cm程度の盛り土がみられる。井辺遺跡2010-1・2区(県1次調査)は、遺跡推定範囲の南西部分に位置している。調査地の現況は、宅地化が進み、調査地の北側には水田が広がっている。調査地は現水田面より約1m高く、宅地造成時に大規模な盛土が行われたと考えられる。

井辺遺跡2011-3・4区(県2次調査)は、井辺遺跡推定範囲の南中央部分に位置している。調査地の現況は水田で、調査地の南北は宅地となっている。周辺の水田は水捌けが悪く、近代以降に土地改良が進む以前は、湿田であったとされる。

第2節 歴史的環境 (図1・表2)

井辺遺跡及び神前遺跡が所在する岩橋山塊周辺は、縄文時代より多くの遺跡の展開が見られる。以下、周辺の遺跡について概略する。

縄文時代 縄文時代前期から晩期にかけて丘陵裾で貝塚が形成される。周辺には、櫛宜貝塚(図1の範囲外)、吉礼貝塚(298)、岡崎縄文遺跡(309)などが挙げられる。中でも、昭和6年に国の史跡になった鳴神貝塚(317)では、縄文時代中期から晩期および弥生時代前期にかけての遺物が出土して



図1 井辺遺跡、神前遺跡と周辺の遺跡 (1:25,000)

表2 井辺遺跡・神前遺跡と周辺の遺跡地名一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	立地	概要
184	花山古墳群	鳴神・岩橋・栗栖	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳9基、円墳89基からなる
185	岩橋千塚古墳群	岩橋・鳴神・井辺・寺内	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳13基、方墳4基、円墳455基からなる
186	井辺前山古墳群	井辺・岡崎・寺内・神前・西・森小手穂	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳15基、円墳60基からなる
187	寺内古墳群	寺内・森小手穂・吉礼	古墳群	古墳	山腹	円墳33基からなる
188	森小手穂遺跡	森小手穂	散布地	古墳～中世	丘陵	須恵器、土師器、瓦等
189	寺内ナイフ形石器出土地	寺内	出土地	旧石器	丘陵	横刺ナイフ形石器
252・253	千石山古墳群	井戸	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
254	菖蒲谷遺跡	井戸	散布地	弥生～古墳	丘陵	方形周溝墓、台状墓、土師器、須恵器
257～259	井戸古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
260	馬場古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	2基
261	馬場遺跡	相坂	散布地	弥生	丘陵斜面	弥生土器
287	松原Ⅰ遺跡	松原	散布地	古墳?	丘陵端	土師器、須恵器
288	松原Ⅱ遺跡	松原	散布地	古墳?	丘陵	土師器、須恵器
289	薬師谷遺跡	江南	散布地	縄文	丘陵	縄文土器、石鏃
291	曾垣田遺跡	江南	散布地	古墳	丘陵端	土師器(壺、甕、鉢)
292	曾垣田Ⅱ遺跡	江南	散布地	古墳?	丘陵端	土師器
294	城の前Ⅱ遺跡	朝日	散布地	古墳、中世?	丘陵端	須恵器、瓦器
295	城の前Ⅰ遺跡	朝日	散布地	古墳?	丘陵端	土師器
296	大池遺跡	朝日	散布地	中世?	池畔	瓦器、土師器、播鉢、大池の西～南沿岸
297	赤津古墳群	朝日	古墳群	古墳	丘陵	5基からなる
298	吉礼貝塚	吉礼	貝塚	縄文	丘陵麓	貝類(ハマグリ、カキ、ハイ貝等)、縄文土器、土製耳飾、石器(石匙、石鏃、石鏃、石斧)、獣骨
301	和田遺跡	和田	散布地	弥生	沖積地	弥生土器
302	和田岩坪遺跡	和田	散布地	弥生～古墳	沖積地	弥生土器、土鏃、須恵器、土師器
303	和田古墳群	和田	古墳群	古墳	丘陵	4基
305	庵山神社古墳	和田	古墳	古墳	丘陵	円墳
306	坂田地蔵山古墳	坂田	古墳	古墳	丘陵	円墳?、横穴式石室、直刀、須恵器
307	神前遺跡	神前	集落跡 用水路	弥生～江戸	沖積地	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、石器(石鏃、石砲丁、石斧)、紡錘車
308	井辺遺跡	井辺・神前	集落跡 墳墓	弥生～古墳	沖積地	竪穴建物、掘立柱建物、溝、前方後方形墳丘墓、方形墳丘墓、自然流路、弥生土器、土師器、須恵器、各種木製品
309	岡崎縄文遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵端	縄文土器、石器多数
310	森小手穂墳輪窯跡	森小手穂	窯跡	古墳	山麓	墳輪(円筒、形象)
311	大日山Ⅰ遺跡	井辺	集落跡	古墳～奈良	丘陵端	竪穴建物、掘立柱建物、土師器(壺、小型壺、甕、高坏、坏、甗)、須恵器(坏、高坏)、鳥形土器、滑石製勾玉、有孔円板
312	井辺Ⅰ遺跡	井辺	散布地	弥生～古墳	平地	弥生土器、土師器
313	井辺Ⅱ遺跡	井辺	散布地	弥生～古墳	平地	弥生土器、土師器、須恵器
314	鳴神Ⅱ遺跡	鳴神	用水路跡	弥生～平安	平地	弥生土器、土師器、須恵器、木製品
315	鳴神Ⅲ遺跡	鳴神	散布地		平地	土師器、須恵器
316	鳴神Ⅳ遺跡	鳴神	散布地	弥生～江戸	平地	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、土鏃、瓦、製塩土器
317	鳴神貝塚	鳴神	貝塚、墓	縄文～弥生	丘陵麓	縄文土器、骨製品、人骨、弥生土器
318	鳴神Ⅴ遺跡	鳴神	集落跡 墳墓	弥生～平安	平地	竪穴建物、掘立柱建物、方形周溝墓、水田状遺構、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、耳環、硯、滑石製模造品(勾玉、白玉)
319	音浦遺跡	鳴神	集落跡	古墳	平地	竪穴建物、掘立柱建物、溝、土師器(壺、小型壺、甕、高坏、坏、甗)、有孔円板、須恵器(壺、高坏、坏、甗)、石製紡錘車
320	鳴神Ⅵ遺跡	鳴神	散布地	弥生～江戸	平地	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦
321	岩橋遺跡	岩橋	散布地	平安～鎌倉	丘陵端	溝、水田跡、旧河道、土師器、須恵器、黒色土器、灰軸陶器、緑軸陶器
322	栗栖Ⅰ遺跡	栗栖	散布地	古墳	丘陵端	土師器、須恵器
323	栗栖Ⅱ遺跡	栗栖	散布地		丘陵端	瓦
324	高橋神社遺跡	岩橋	散布地		平地	土師器
327	太田・黒田遺跡	太田・黒田	集落跡	弥生～江戸	沖積地	竪穴建物、土器棺、溝、弥生土器(壺、甕、高坏、鉢、器台等多量)、石器(石鏃、石砲丁、石鏃、石斧等)、外縁付紐Ⅰ式四区装裱文銅鐙
328	吉田窯跡	吉田	窯跡	奈良	沖積地	土師器、須恵器
331	秋月遺跡	秋月	墳墓・古墳・ 屋敷地	弥生～江戸	沖積地	前方後円形周溝墓、方形周溝墓、円形周溝墓、土器棺、井戸、土坑、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、滑石製勾玉・白玉、ガラス小玉
332	津秦遺跡	津秦	散布地	弥生	沖積地	弥生土器、サヌカイト
338	アンドの鼻古墳	三葛	古墳	古墳	丘陵	組合式石棺、土師器(壺)
339～342	三田古墳群	三葛	古墳群	古墳	丘陵	4基
343	吉原古墳	吉原	古墳	古墳	丘陵	前方後円墳?
353	興徳時跡	鳴神	寺院跡	中世	花山丘陵の 西南斜面	瓦、宝篋印塔、五輪塔
356	太田城跡	太田	城館跡	安土桃山	沖積地	土壘、堀、土師器、陶磁器、鉄砲弾
361	冬野遺跡	冬野	散布地	中世	丘陵麓	土師器(坏、皿)、土師質土器(カマド、土釜)
367	井辺Ⅲ遺跡	井辺	散布地		丘陵麓	縄文土器
370	朝日石槍出土地	朝日	出土地	弥生	平地	石槍
381	岩橋Ⅱ遺跡	岩橋	散布地	古墳～室町	平地	サヌカイト、土師器、須恵器、瓦器
383	神前Ⅱ遺跡	神前	散布地	古墳～室町	沖積地	土師器、須恵器、土鏃、瓦器、陶磁器
406	友田町遺跡	友田町	集落跡?	弥生～平安	沖積地	溝、須恵器、土師器、黒色土器
407	津秦Ⅱ遺跡	津秦	散布地	古墳～奈良	沖積地	土師器、須恵器
408	和田Ⅱ遺跡	和田	集落跡?	弥生	丘陵	溝状遺構、弥生土器
409	岩橋Ⅲ遺跡	岩橋	散布地	平安、江戸	丘陵端	土坑、小穴群、土師器、黒色土器
412	城ノ前Ⅰ另墳	朝日	古墳	古墳	丘陵	円墳、周溝状遺構、横穴式石室、須恵器、土師器、黒色土器、土釜
420	太田城水攻め堤跡	出水	堤跡	戦国～江戸	沖積地	太田城水攻めの際に築かれた堤
421	木広町遺跡	木広町	散布地	弥生	沖積地	弥生土器(穿孔壺)
422	朝日蔵骨器出土地	朝日	墳墓	奈良	山腹	須恵器壺(蔵骨器)、短頸壺(外容器)
427	岩橋高柳遺跡	岩橋	集落跡 城館跡	弥生～江戸	沖積地	掘立柱建物、土坑、井戸、埋甕、溝、堀状遺構、竪穴式石室、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦、窯道具
435	坂田遺跡	坂田	集落跡	弥生～室町	沖積地	掘立柱建物、土坑、井戸、溝、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、陶磁器、琴柱形石製品、勾玉、有孔円板

遺跡内での調査履歴有り

和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財(埋蔵地)地名表』2007年3月31日発行を一部改変・補筆

おり、縄文時代晩期の土坑墓からは抜歯された女性の伸展葬人骨が発見された。また、鳴神貝塚（317）に隣接する鳴神Ⅳ遺跡（316）では、縄文晩期の土坑墓3基や8体以上の人骨が発見されている。吉礼貝塚（298）では縄文時代前期から後期にわたる土器が出土している。これらの貝塚から出土する貝類は主にハイガイ、ハマグリなどの海水系のものである。

弥生時代 JR和歌山駅東側一帯に広がる太田・黒田遺跡（327）は、和歌山県を代表する弥生時代の大規模集落遺跡である。弥生時代前期末には環濠と考えられる大規模な水路が築かれ、弥生時代中期には集落は最盛期を迎える。集落東部では銅鐸が出土している。

紀の川南岸では、弥生時代前・中期の遺跡として秋月遺跡（331）（写真3）・神前遺跡（307）などがある。

一方、弥生時代中期後葉から弥生時代後期前半にかけては、平野部での遺跡の展開が激減し、丘陵部で滝ヶ峯遺跡や橘谷遺跡（図1の範囲外）などの高地性集落が見られるようになる。弥生時代後期後半になると、再び平野部で集落が見られるようになり、太田・黒田遺跡と井辺遺跡（308）の間には、津秦遺跡（332）・秋月遺跡（331）などが存在する。多くの遺跡では、弥生時代後期後半から終末期にかけて再び遺物・遺構が認められ、古墳時代前期に継続して集落が展開する。

古墳時代 和歌山市東部には、全国的に見ても有数の群集墳である特別史跡・岩橋千塚古墳群（185）があり、4世紀末から7世紀にかけて1000基以上の古墳から構成される。古墳群は大きく10地区に区分され、井辺遺跡（308）南東部に位置する井辺前山丘陵には井辺前山古墳群（井辺前山地区）（186）が存在する。井辺前山古墳群（186）の盟主墳である井辺八幡山古墳では、人物埴輪（力士や武人）等多数の埴輪が出土している。また、秋月遺跡（331）は古墳時代前期の前方後円形周溝墓や、古墳時代中期の周溝墓（写真4）が確認されており、岩橋千塚古墳群（185）との関係も示唆されている。

平野部では、弥生時代に引き続き集落が展開し、鳴神地区遺跡群（314～316・318・320）、音浦遺跡（319）では竪穴建物や掘立柱建物などが検出されている。また、大日山Ⅰ遺跡（311）では水辺の祭祀と考えられる祭祀遺構が検出され



写真3 秋月遺跡出土の弥生土器（市第8次調査）
（出展：2000『秋月遺跡 第8次発掘調査概報』（財）和歌山市文化体育振興事業団）



写真4 秋月遺跡の周溝墓（県第9次調査）（西から）



写真5 坂田遺跡出土の琴柱形石製品

ている。一方、和田川流域では、坂田遺跡（435）（写真5）や、和田岩坪遺跡（302）、和田古墳群（303）、竈山神社古墳（305）などが存在する。

古代 古代には、紀伊一ノ宮とされる日前・国懸神宮が造営された。秋月遺跡（331）では、奈良時代以降の掘立柱建物等が検出され、神宮に関連する遺構と推測される。また日前宮より南の平野部には、条里型地割が現在も確認され、古代より日前宮の神領であったとされる。また、大日山Ⅰ遺跡（311）からは、奈良時代以降のものとして硯蓋が出土し、太田・黒田遺跡（327）では奈良時代の井戸から和同開珎や万年通宝や平櫛などが土器とともに出土している。また鳴神Ⅴ遺跡（318）からは、陶硯・緑釉陶器・土馬などの遺物が出土している。

中世 中世以降にも、太田・黒田遺跡（327）や、秋月遺跡（331）・鳴神地区遺跡群（314～316・318～320）などで遺構や遺物が見られる。太田・黒田遺跡（327）南側には、羽柴秀吉による水攻めで著名な太田城の推定地（356）があり、幅10m、深さ3mを測る16世紀の壕状の遺構が検出された。また、太田城水攻めの堤跡（420）がわずかに残っている。岩橋高柳遺跡（427）では、掘立柱建物2棟と井戸2基の鎌倉時代の屋敷跡や室町時代の堀状遺構が検出されている。一方、室町時代の井辺・神前周辺は、日前・国懸宮の神事や祭事に関係し、雑賀五組の社家郷に属している。

近世 近世に入り、神前周辺は北神前村・南神前村と呼ばれるようになり、神前遺跡地区は南神前村に含まれる。井辺周辺は井辺村と呼ばれるようになるが、井辺遺跡地区の周辺は北神前村の一部と考えられる。太田・黒田遺跡（327）では、太田城の名残とみられる石垣や、耕作地と考えられる鋤溝群が見られる。

第3節 既往の調査（図4）

井辺遺跡及び神前遺跡では、これまでに、和歌山県教育委員会および当センターによる県関連の調査と、和歌山市教育委員会および公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団（旧財団法人和歌山市文化体育振興事業団・旧財団法人和歌山市都市整備公社）による発掘調査が行われている。市関連の調査と県関連の調査との混同を避けるため、和歌山市関連による発掘調査を、市〇次調査、和歌山県関連による発掘調査を、県〇次調査として表記する。これにより、井辺遺跡では、市1次調査～市42次調査、県1次調査～県3次調査まで、神前遺跡では、市1次調査～市9次調査、県1次調査～県5次調査までが行われていることになる（2014年10月時点）。以下、各遺跡の既往の調査について述べる。

井辺遺跡での既往の調査（表3）

井辺遺跡における調査は、昭和39年に市営岡崎団地建設に伴う造成工事・灌漑水路改修工事に際して、大野嶺夫氏が弥生時代後期の土器を採集・紹介したことを契機とする。その後、和歌山市教育委員会と、発掘調査の委託を受けた関西大学考古学研究室による共同調査が行われ、市1次調査となる。市1次調査では東西に延びる2列の土器列および、井戸1基を検出している。土器列はいずれも弥生時代後期後半から終末期の遺物が横倒しになった状態で出土している。断面土層等の情報は不明であるが、本来は削平を受けた2条の溝であり、溝の底面に存在した土器のみが検出されたものと考えられる。井戸は割り抜きの井筒が残存しており、井戸埋土内からは、古墳時代初頭の良好な土器一括資料とともに、片口状木製容器や網代が出土している。

その後、遺跡の西端部の調査である市2次調査では、弥生時代終末期から古墳時代初頭の落ち込みを検出しており、谷状地形の肩部と考えられる。また、同じく遺跡の西部分の市5次調査では、古墳時

表3 井辺遺跡での既往の調査一覧(和歌山市関係)

2014年3月時点

調査 回数	調査年	調査原因 調査面積	検出遺構 出土遺物	調査主体	文献
0	1964年 昭和39年	灌漑用水路改修 A・B・C地点	弥生時代終末期の遺物堆積層、弥生土器	大野嶺夫氏による表面採集	大野嶺夫「和歌山市井辺遺跡の岡崎団地より出土の後期弥生式土器」『古代学研究』第51号 古代学研究会 1968年
1	1964年 昭和39年	宅地造成 約108㎡	弥生時代終末期の土器遺構、古墳時代前期の井戸、弥生土器・土師器・木製品・自然遺物	和歌山市教育委員会 関西大学	『井辺弥生式遺跡発掘調査報告』和歌山市教育委員会 1965年
2	1996年 平成8年	宅地造成 50㎡	弥生時代後期後半から古墳時代の自然地形の落ち込み、弥生土器・土師器	(財)和歌山市文化体育振興事業団	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6ー平成8年(1996)・9年(1997)年度ー』(財)和歌山市文化体育振興事業団 2000年
3	1996年 平成8年	個人住宅建設、浄化槽 2㎡	弥生時代終末期の土坑、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6ー平成8年(1996)・9年(1997)年度ー』(財)和歌山市文化体育振興事業団 2000年
4	1998年 平成10年	宅地造成、防火水槽 25㎡	弥生時代終末期の土坑、弥生土器・土師器	和歌山市教育委員会	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報7ー平成10年度(1998年度)・11年度(1999年度)ー』(財)和歌山市文化体育振興事業団 2002年
5	2005年 平成17年	造成工事 140㎡	古墳時代・鎌倉時代の土坑・溝、土師器・須恵器・瓦器・中世土師器	(財)和歌山市文化体育振興事業団	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成16年度(2004年度)ー』(財)和歌山市都市整備公社 2007年
6	2005年 平成17年	宅地造成 140㎡	弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴建物・井戸・溝、弥生土器・土師器・土製品・石器	(財)和歌山市文化体育振興事業団	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成16年度(2004年度)ー』(財)和歌山市都市整備公社 2007年、『井辺遺跡 第6次発掘調査概報』財団法人和歌山市文化体育振興事業団調査報告書 第39集 (財)和歌山市文化体育振興事業団 2005年
7	2005年 平成17年	マンション建設 108㎡	弥生時代中期の土坑、弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴建物・土坑・溝、弥生土器・土師器・製塩土器・中世土師器	(財)和歌山市文化体育振興事業団	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成17年度(2005年度)ー』(財)和歌山市都市整備公社 2008年、『井辺遺跡 第7次発掘調査概報』財団法人和歌山市文化体育振興事業団調査報告書 第40集 (財)和歌山市文化体育振興事業団 2006年
8	2010年 平成22年	集合住宅建設 約18㎡	弥生時代終末期の遺物包含層、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成22年度ー』和歌山市教育委員会 2012年
9	2010年 平成22年	個人住宅建設 約8㎡	弥生時代終末期の遺物包含層、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成22年度ー』和歌山市教育委員会 2012年
10	2010年 平成22年	集合住宅建設 約31㎡	弥生時代終末期の堅穴建物・溝、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成22年度ー』和歌山市教育委員会 2012年
11	2011年 平成23年	集合住宅建設、 浄化槽 約20㎡	弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物包含層・溝、弥生土器・土師器・瓦器・中世土師器	(財)和歌山市都市整備公社	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成23年度(2011年度)ー』(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団 2014年
12	2011年 平成23年	個人住宅建設 約8㎡	弥生時代後期後半～終末期の自然流路、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年
13	2011年 平成23年	個人住宅建設 約42㎡	弥生時代後期後半～終末期の自然流路、大量の弥生土器	(財)和歌山市都市整備公社	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年、『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成23年度(2011年度)ー』(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団 2014年
14	2011年 平成23年	集合住宅建設 14㎡	弥生時代終末期の土坑・溝・小穴、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年
15	2011年 平成23年	集合住宅建設、 浄化槽 約38㎡	弥生時代終末期の遺物包含層・堅穴建物・井戸・溝・小穴、弥生土器・土製品・石器	(財)和歌山市都市整備公社	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成23年度(2011年度)ー』(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団 2014年
16	2012年 平成24年	店舗建設 約63㎡	弥生時代後期以前の溝・弥生時代終末期以降の堅穴建物・落ち込み	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年
17	2012年 平成24年	店舗建設 140㎡	古墳時代・中世の溝、土師器・須恵器・瓦器・中世土師器・陶磁器	(財)和歌山市都市整備公社	『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報ー平成23年度(2011年度)ー』(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団 2014年
18	2011年 平成23年	集合住宅建設 約58㎡	遺構・遺物包含層なし、極少量の土器片	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年
19	2011年 平成23年	市道建設 約214㎡	弥生時代終末期の土坑・溝、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成23年度ー』和歌山市教育委員会 2013年
20	欠番				
21	2012年 平成24年	宅地造成 約31㎡	弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物包含層・溝・小穴、弥生土器・土師器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成24年度ー』和歌山市教育委員会 2014年
22	2012年 平成24年	宅地造成・市道建設 約761㎡	弥生時代終末期～古墳時代前期の堅穴建物・墳丘墓・井戸、弥生土器・土師器・木製品	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団	菊井佳弥「和歌山市井辺遺跡第22次調査ー前方後方形墳丘墓の調査ー」『近畿弥生の会 第16回集会奈良場所(夏場所)資料集』近畿弥生の会 2013年
23	2012・ 2013年 平成24・ 25年	道路建設 1344㎡	弥生時代終末期の溝・終末期以降の水田・平安時代前期以降の水田、弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・中世土師器	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団のご教示による
24	2012年 平成24年	店舗建設 約8㎡	弥生時代終末期～古墳時代前期の落ち込み・溝、多数の土器片	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成24年度ー』和歌山市教育委員会 2014年
25	2012年 平成24年	店舗建設 約19㎡	弥生時代後期の溝・弥生時代終末期の堅穴建物・古墳時代前期の土坑、弥生土器・土師器・石器	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団のご教示による
26	2012年 平成24年	市道建設 約6㎡	中世以前の溝	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成24年度ー』和歌山市教育委員会 2014年
27	2013年 平成25年	市道建設 約816㎡	弥生時代終末期の溝・土坑・井戸、古墳時代前期の自然流路、畝状遺構、弥生土器・土師器・須恵器・石器・木製品(鋤、鋤未成品)	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団のご教示による
28	2013年 平成25年	集合住宅建設 約24㎡	弥生～古墳時代の遺物包含層、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成24年度ー』和歌山市教育委員会 2014年
29	2012年 平成24年	市道建設 約13㎡	弥生時代終末期の溝、弥生土器	和歌山市教育委員会	『和歌山市内遺跡発掘調査概報ー平成24年度ー』和歌山市教育委員会 2014年
30	2013年 平成25年	市道建設 1249㎡	弥生時代後期の自然流路、弥生時代終末期の溝、古墳時代前期の自然流路・前期以降の溝、奈良時代以前の畝状遺構、弥生土器・土師器・須恵器・石器・木器	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団のご教示による
31	2013年 平成25年	集合住宅建設 約21㎡	古墳時代の溝、土師器・須恵器	和歌山市教育委員会	和歌山市教育委員会のご教示による

代の土坑・溝・ピット、鎌倉時代の溝を検出している。市3次調査・市4次調査では、市1次調査地の北、遺跡中央部の調査が行われている。市3次調査では弥生時代終末期の土坑3基、市4次調査では弥生時代終末期の土坑2基を検出している。市1次調査の成果とともに周辺に居住域が存在するものとみられていた。

市6次調査・市7次調査では、遺跡の北東部分の調査が行われており、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての居住域が検出されている。市6次調査では、弥生時代後期後半の円形竪穴建物1棟・素掘りの井戸1基、弥生時代終末期の方形竪穴建物3棟を検出している。また、市6次調査に隣接する調査地である市7次調査では、市6次調査で検出された弥生時代後期後半の竪穴建物の延長部分と、新たに古墳時代初頭の方形竪穴建物4棟を検出している。

市6次調査・市7次調査の南西部で行われた市12次調査・市13次調査では、福飯ヶ峯の丘陵裾部の調査において自然流路が確認され、自然流路の堆積層内から弥生時代後期末から終末期にかけての大量の弥生土器が出土している（写真6）。当該地は、大野嶺夫氏が土器を採集した地点と隣接し、同様の自然流路によるものと判断される。

市22次調査では、市7次調査の北側で行われており、方形の竪穴建物14棟・多角形の竪穴建物1棟、前方後方形墳丘墓1基・方形（円形）墳丘墓2基が検出され、大量の弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての土器が出土している。墳丘墓は、当該地の居住域の成立と共に墓域の形成に関して重要な位置付けを成すものである。

市23次調査では、弥生時代終末期以降と平安時代前期以降の水田と地震痕跡が検出されている。

県1次調査（2010-1・2区）では、弥生時代後期後半から古墳時代前期までの自然流路と、自然流路に流れ込む溝を検出している。この自然流路は、第2次調査（2011-3・4区）でもその延長部分を検出している。県3次調査（湊神前線）では、今次の調査の西側の隣接地で調査を行っており、南北に延びる細長い微高地上に調査区を東西に配置する。検出した遺構は、竪穴建物3棟（写真7）・掘立柱建物・素掘り井戸・溝・土坑・土坑列・小穴などであり、井辺遺跡西側部分の集落と考えられる。

以上のように井辺遺跡の既往の調査では、西部（市5次調査・県1次調査・県2次調査、県3次調査）、中央部（市1次調査・市3次調査・市4次調査）、東部（市6次調査・市7次調査・市22次調査）の大きく3箇所に住居域が展開すると考えられる。また、西端部分の市2次調査で検出された谷状地形の肩部のように、居住域が立地する微高地の周辺には谷状地形が広がると考えられる。



写真6 井辺遺跡出土の弥生土器（市13次調査）
（出展：2013『和歌山市内遺跡発掘調査概報 -平成23年度-』和歌山市教育委員会）



写真7 井辺遺跡(湊神前線)2011-5区 竪穴建物1(北から)

神前遺跡での既往の調査

神前遺跡は以前より、水田床下げの際に土師器や弥生土器が表採されるなど、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてきた。その出土遺物などは、前田敬彦氏により整理・紹介が行われている。

以後、神前遺跡では、民間開発等により小規模な発掘調査が行われるようになる。市1次調査は、県2次調査の3区の中央部分に重複する宅地開発に伴う発掘調査であり、220㎡の調査が行われている。調査区北端では弥生時代前期末～中期初頭の落ち込み状地形があり、北東には弥生時代後期の溝1条がある。その他、鎌倉時代の石積み井戸1基をはじめ、近世初頭の溝・土坑等が発見され当該期の有力者の屋敷地と考えられている。

市2次調査は、遺跡の西の縁辺にあたる。遺物包含層と溝が検出されたが、遺物が希少であり時期は不明である。市3次調査では、市1次調査の隣接地3箇所で遺跡確認のための調査が行われ、弥生時代前期末から中期にかけての水田と思しき遺構や、中世の掘立柱建物などが検出された。市4次調査は、遺跡範囲の南西部に位置し、古墳時代の遺物散布はみられたものの、集落の縁辺部と考えられている。市5次調査では、弥生時代中期の溝、瓦器や東播系須恵器など鎌倉時代までの遺物が出土した。市6次調査では、自然流路の存在を確認している。市7・8次調査では、中世以前に掘削された可能性のある溝2条が検出され、県4次調査で検出された水路との関係が指摘されている。

県1次調査では、弥生時代と室町時代から江戸時代にかけての遺構が検出された。弥生時代前期から中期の溝や井戸、江戸時代の井戸や柱穴などがみられる。また、これに引き続く県2次調査では、弥生時代前期末から中期初頭の南北方向の溝と、弥生時代中期中葉の溝を検出した。これらの溝は総延長200mにもおよび弥生時代の水路と考えられている。また、調査区北側では、室町時代の溝や、甕ピット、江戸時代の地割溝や石組井戸・溜榭・大型土坑・埋桶などを検出し、石垣に囲まれた屋敷地周辺の状況を明らかにすることができた。出土遺物の中には、焼塩壺や土人形・唐津大皿などが出土している。これらは和歌山城下において出土するような遺物であることから、遺物からも屋敷地の規模を想定することができる。

県4次調査（和歌山橋本線）では、弥生時代前期から江戸時代に渡る遺構と共に、調査区西端の現有水路に重複する位置において平安時代末から鎌倉時代の溝が検出された（写真8）。溝は、幅員約6mの大溝となり、河南条里の方向軸線と一致することから、幹線水路で河南条里と密接に関わる宮井用水の一部と考えられている。

県5次調査は、県4次調査の6～8区の東西隣接地で実施された。この地区は遺跡の南辺部にあたり、明確には弥生時代集落の関連遺構は検出されないが、県4次調査時に検出された弥生時代の溝状遺構の続き及び弥生時代前期・中期の大型土坑が検出されている。また、中世の掘立柱建物が検出されたことで、中世段階においては弥生時代に比べて集落範囲が南へ広がっていることがうかがえる。



写真8 神前遺跡（和歌山橋本線）2011-7・8区（北東から）

第Ⅲ章 発掘調査の方法と資料整理

調査は、原則的に財団法人和歌山県文化財センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）を基準として進めた。発掘調査で使用した調査コードは、10-01・308（2010年度-和歌山市・井辺遺跡）、11-01・307-1（2011年度-和歌山市・神前遺跡）、11-01・308-1（2011年度-和歌山市・井辺遺跡）である。ともに同一年度内で同一遺跡の調査が複数行われたことから、末尾に枝番号を用いてそれぞれの調査を区別している。出土遺物、記録資料はこの調査コードを用い整理・管理している。

第1節 調査現場の記録作業

井辺遺跡及び神前遺跡の調査に伴い、下記に示す記録作業を行った。

1 写真撮影作業

記録保存としての写真撮影作業は、大判カメラ（4×5判：白黒フィルム・カラーポジフィルム）・中判カメラ（67判：白黒フィルム・カラーポジフィルム）・小判カメラ（35mm判：白黒フィルム・カラーポジフィルム）・小型デジタル一眼レフカメラにより、主に発掘調査の状況、検出遺構・遺物の出土状況、断面土層等を撮影した。また、補助的に小型デジタル一眼レフカメラにより発掘調査の作業状況や作業工程をメモ用の記録画像として撮影している。撮影内容は、基本的に写真台帳に調査区・対象・方向・使用フィルムを登録し把握しているほか、デジタル画像データにも内容を記載して保存している。

2 実測図作成作業

記録保存としての実測図作成作業は、各遺構面の検出遺構の遺構位置全体図（縮尺=1/100）・遺構平面実測図（縮尺=1/20）・個別遺構や遺物の出土状況図（縮尺=1/10 or 1/20）・個別遺構の断面土層図（縮尺=1/20）を作成した。

また、調査地区の遺存状態の良好な壁面に対して断面土層図（縮尺=1/20）などを記録として作成した。

3 航空写真撮影・基準点測量

調査地の遺構図面作成や遺物の取上げ等のため、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）により既設の公共基準点を利用して3級基準点・補助点を設置し、各地区内に4級基準点を設置した。併せて、4級基準点にも水準測量を行っている。

発掘調査により検出した遺構は、ラジコンヘリコプターを使用した調査地全体の航空写真撮影及び航空写真測量図化（縮尺=1/50・1/100）を行った。基準点の設置と撮影図化作業を併せて、平成22年度発掘調査では、「井辺遺跡発掘調査に伴う航空写真測量・基準点測量委託業務」として株式会社ウエスコに、平成23年度発掘調査では、「井辺遺跡・神前遺跡発掘調査に伴う航空写真測量・基準点測量委託業務」として写測エンジニアリング株式会社に委託して実施した。

第2節 出土遺物等資料の整理

1 出土遺物応急整理等

応急整理作業

出土遺物については、調査現場の監督員詰所において出土遺物の一部について応急的な洗浄作業を実施した。これは、調査の進捗に伴い、現地調査方法の判断資料として時期決定を行い、調査を円滑に進めていく必要があるため、また、現地公開・説明会において公開する目的をもって行った。

また、出土遺物の総体的な把握と調査報告書作成までの収納・管理を目的とした出土遺物登録台帳の作成作業を行い、ほぼ全てを完了した。しかし、この段階では、出土遺物の詳細な内容登録までは行っていない。

2 出土遺物等整理業務

調査で出土した遺物は、応急的な整理のみであったため、調査報告書作成に伴い一連の整理作業を行うと共に、現地調査の遺構図面・遺構写真などの調査記録資料の整理を行い、資料登録台帳（データのPC入力）などを作成した。

出土遺物の基礎的な整理作業

出土遺物の内、土器類は、通常の遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして499箱ある。その他、木製品385点・金属製品6点・石製品72点である。出土遺物の整理は、『財団法人和歌山県文化財センター 発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して行った。出土遺物は、応急整理済みの物を省いて洗浄作業（写真9・10）・遺物の分別作業・乾燥・遺物の調査コードと出土遺物登録番号の注記作業（写真11）・遺物破片点数の台帳登録集計・接合作業（写真12・13）を行った。

主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材（Qテックス）による補強・復元（写真14）・遺物実測（写真15・16）・実測遺物台帳登録・遺物実測図トレース・レイアウト（写真17）・遺物実測図の整理・保存処理前木製品の写真撮影・保存処理前木製品写真の整理、集計登録データ等入力を行った。



写真9 出土遺物（土器）の洗浄作業



写真10 木製品の洗浄作業



写真11 出土遺物（土器）への登録コード注記作業



写真 12 土器の接合作業 1



写真 13 土器の接合作業 2

遺構図面の整理

現地調査の遺構図面の整理は、台帳登録・報告書用図面の作図を行い、調査報告書に掲載する図面原稿を抽出した。抽出した遺構図面について、トレース（写真 18）・レイアウト作業を行った。また、調査報告書の本文原稿の作成に必要な「検出遺構規模一覧」・「土坑列一覧」（表 16）を作成し、データの PC 入力作業を行った。

遺構写真の整理

調査現場の記録写真には、4×5 白黒・カラー、67 白黒・カラー、35mm 白黒・カラー、デジタル写真画像、ラジコンヘリによる航空写真がある。デジタル写真画像を省く各写真は、年度毎に写真アルバムに収納し、各写真アルバムの背にタイトルを明示した（写真 19）。デジタル写真画像は、調査時に日付毎にフォルダに纏められている。

デジタル写真画像・航空写真を省く写真に対して写真登録番号を付し、航空写真を省く写真に対して写真内容の記録を記載した。一部のデジタル写真画像については、調査報告書に使用する目的で、掲載用の写真画像の抽出を行った。

出土遺物の登録に伴う各層序別遺物数量

出土遺物の登録に伴う遺物破片点数の数量化は、大凡の時代と主要となる土器類・その他の遺物に分けて作業を進めた。土器の種類・器種は、矛盾のない程度に簡素化している（表 4・5・12～15 層序別遺物数量）。また、遺物量の多い主要遺構については、区画別（4m）・層序別遺物分布の算出（表 6～11）を行った。

木製品及び金属製品の保存処理

木製品及び金属製品は、腐朽を防止し、本来の色調と質感を保ち、保存・活用を容易な状態にするために保存処理を専門業者に委託して行った。木製品 115 点は PEG 含浸法及び真空凍結乾燥法による保存処理を、金属製品 4 点はアクリル樹脂減圧含浸による保存処理を行った。なお、保存処理作業に前後して、木製品は保存処理全点の樹種同定を、金属製品は X 線写真撮影を行った。

木製品及び金属製品の保存処理は、「都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴う井辺遺跡及び神前遺跡第 1 次出土遺物等整理業務 保存処理業務」として株式会社文化財サービスに委託して実施した。



写真 14 遺物充填材による補強・復元作業



写真 15 出土遺物の実測図作成（弥生土器）



写真 16 出土遺物の実測図作成（竪穴建物 柱）



写真 17 遺物実測図のレイアウト



写真 18 遺構図トレース作業



写真 19 遺構写真の整理

3 出土遺物の整理方法

今回の遺物整理の中で最も主体を占める遺物群は、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての土器である。調査成果の記述に先立って、時代・時期区分の基準を示しておく。

ここでは、弥生時代後期に続く段階を弥生時代終末期と捉えた。弥生時代終末期は、凡そ庄内式土器に併行する段階と把握し、庄内式併行期と理解して作業を進めた。庄内式併行期は、大きく二分して庄内式併行期古段階・新段階とした。依って、弥生時代終末期の土器を弥生土器と理解した。

それに続く段階を布留式土器に代表される段階と把握し、布留式併行期とした。布留式併行期は、大きく三分して布留式併行期古段階・中段階・新段階とした。布留式併行期新段階は、初期須恵器の共伴する段階と考えた。依って、古墳時代の始まりの土器を布留式併行期の土器とし、土師器と理解した。

基礎的な出土遺物整理作業は、通常の工程で行った。洗浄・乾燥、遺物（土器・石器・金属・木器・種実・骨）の分別作業、調査コードと出土遺物登録番号の注記、接合前段階での遺物破片点数の台帳登録集計、接合作業による異なる取り上げ単位間（層位・区画間）での接合関係の把握、遺物充填材による土器の補強・復元などがある。

出土遺物登録の分類基準は、別表「各層序別遺物数量」「各層序別遺物数量 古墳時代遺物内訳」に示すとおりである。登録したデータは、遺物群を数量的に把握する手段として「各層序別遺物数量」「各層序別遺物数量 古墳時代遺物内訳」（表4・5・12～15）として集計して活用を図った。

時代・時期については、大凡の時代設定を行い 弥生時代前期・中期、弥生時代後期・終末期、古墳時代、奈良・平安時代、平安時代末・鎌倉・室町時代、江戸時代に区分した。

弥生時代前期・中期は、遺物量が極めて僅かであるため大きく区分したのみである。

今回、最も遺物量の多い遺構については、以下の方法によって整理作業を進めた。

井辺遺跡 2011-3・4区 3097・4260 溝の出土遺物 2011-3区の範囲の3097 溝及び2011-4区4260 溝の地点取り上げ土器・土製品については、遺物量が多いため4m区画の取り上げ単位毎（北端区画から南側に向かって）に注記・接合作業及び接合関係の把握・出土遺物登録を行った。

井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路の出土遺物 2011-4区の4259 自然流路は、遺物量が極めて多いため4m区画の取り上げ単位毎（北端区画から南側に向かって）及び層位毎（上層・上中層・中層・下層・下層砂層・最下層）に注記・接合作業及び接合関係の把握・出土遺物登録を行った。

また、遺物の主立った構成内容・接合関係・帰属時期を列記した表を作成した。

土器・土製品の接合作業は、異なる登録番号の土器が接合した場合、同一層位の場合は接合破片の大きい方に帰属させ、異なる層位の場合はより下位層に帰属させた。例：[上層破片と中層破片が接合した場合→中層に帰属]、[下層破片と最下層破片が接合した場合→最下層に帰属]、・・・となる。異なる区画の土器が接合した場合も同様である。土器の接合関係は、「遺物接合関係一覧」を作成した。



写真 20 遺物内容登録データ入力

第3節 調査区の設定と掘削手順

1 地区割の方法

調査現場での実測図作成や遺物取り上げの際に用いた地区割の基準線は、平面直角座標系（世界測地系）第IV系の座標軸を使用し、数値はm単位で表示している。遺構図面の方位は座標北を使用し、標高は東京湾平均海面（T.P.）からのプラス値を使用した。

地区割については、今後の調査の進展状況を勘案し、井辺遺跡及び神前遺跡全域を網羅するよう設定した。この地区割は、井辺遺跡から神前遺跡までを網羅するよう $X=-197.00\text{km}$ 、 $Y=-72.00\text{km}$ に地区割の基点を設け、この基点から西方と南方にそれぞれ1km四方の区画を1単位として大区画を設定した。基点から西方向にはローマ数字のI・IIで、南方向にはアラビア数字の1・2で表記した。これにより、今回の神前遺跡2011-1・2区の調査範囲は大区画I 2区に、井辺遺跡2010-1・2区は大区画I 1区とII 1区に、井辺遺跡2011-3・4区は大区画II 1区に位置することとなる。

この基点から、それぞれ100m四方の区画を1単位とした中区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット大文字でA～Jと、南方向へアラビア数字で1～10と表記した。さらに4m四方の区画を1単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した。遺構図面作成や遺物取り上げの際には原則として、4m四方の小区画で行い、大区画-中区画-小区画を組み合わせて表記し用いた。調査区は、2010年度の井辺遺跡地区を2010-1・2区に、2011年度の神前遺跡地区を2011-1・2区に、井辺遺跡地区を2011-3・4区に区分した。

2 掘削手順

堆積土層の掘削は、県文化遺産課の確認調査の成果を元に、確認調査の現代の盛土及び耕作土盛土（第0層）、近・現代の水田耕作土、床土（第1層）、中世以降の遺物包含層（第2層）までをバックホウによる機械掘削を行った。以下、遺物包含層である第3層から第4層、または、第5層上面までを人力掘削により調査を進めた。遺物包含層掘削後に遺構を検出し、遺構を掘削した。遺構の掘削過程において、必要に応じて堆積土層を確認するための土層観察用畔（セクションベルト）を残して、調査を進めた。

3 記録方法

遺構名・遺構番号 検出遺構はその種類にかかわらず、通し番号で遺構番号を付した。遺構番号の記述は、「3001溝」のように「遺構番号・遺構の種類（性格）」で表記する。遺構番号は、2010年度は1番からの通し番号とし、2011年度は神前遺跡2011-1区を1001番から、神前遺跡2011-2区を2001番から、井辺遺跡2011-3区を3001番から、井辺遺跡2011-4区を4001番からの通し番号とした。但し、遺構が両地区に跨る場合は、先行して調査を行った地区の遺構番号を付して使用している。

遺物の取り上げ 出土遺物については、大区画-中区画-小区画を取り上げ区画、遺物包含層・遺構埋土・攪乱埋土の別に取り上げた。遺物の取り上げ単位（袋・コンテナ）には、井辺遺跡2010-1区を1001番から、2010-2区を2001番から、神前遺跡2011-1区を1001番から、2011-2区を2001番から、井辺遺跡2011-3区を3001番から、井辺遺跡2011-4区を4001番からの通しの登録番号を与え、遺物登録台帳を作成して管理している。また、2011-4区において多量の木製品・骨が出土したため、木製品についてはW1番から、骨についてはB1番からと遺物の種類毎に登録番号を与えた。

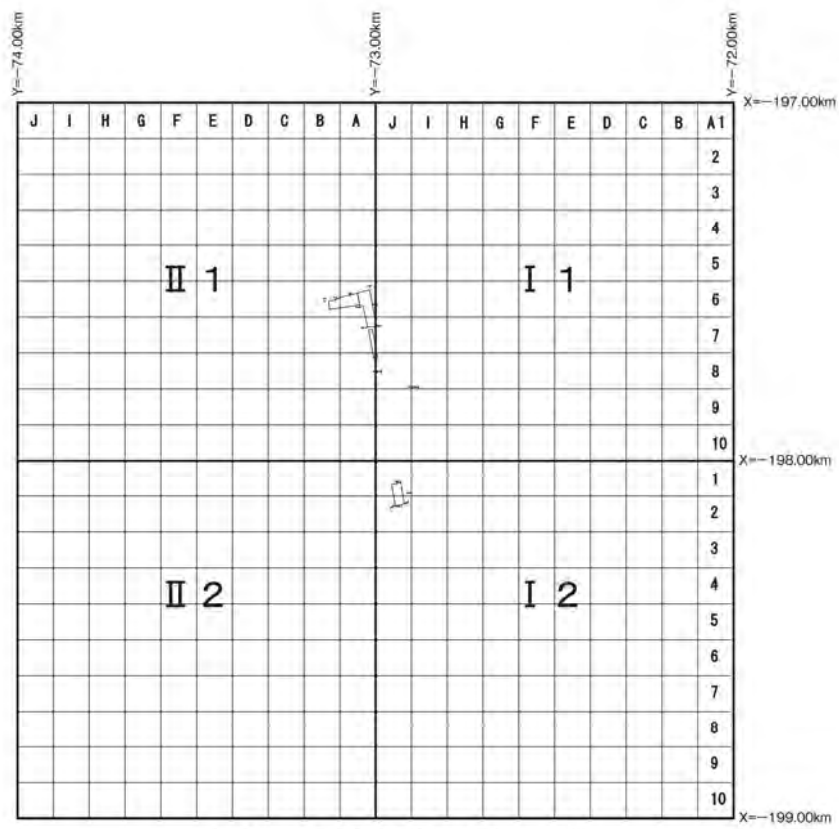


图2 地区割模式图 (1km区画)

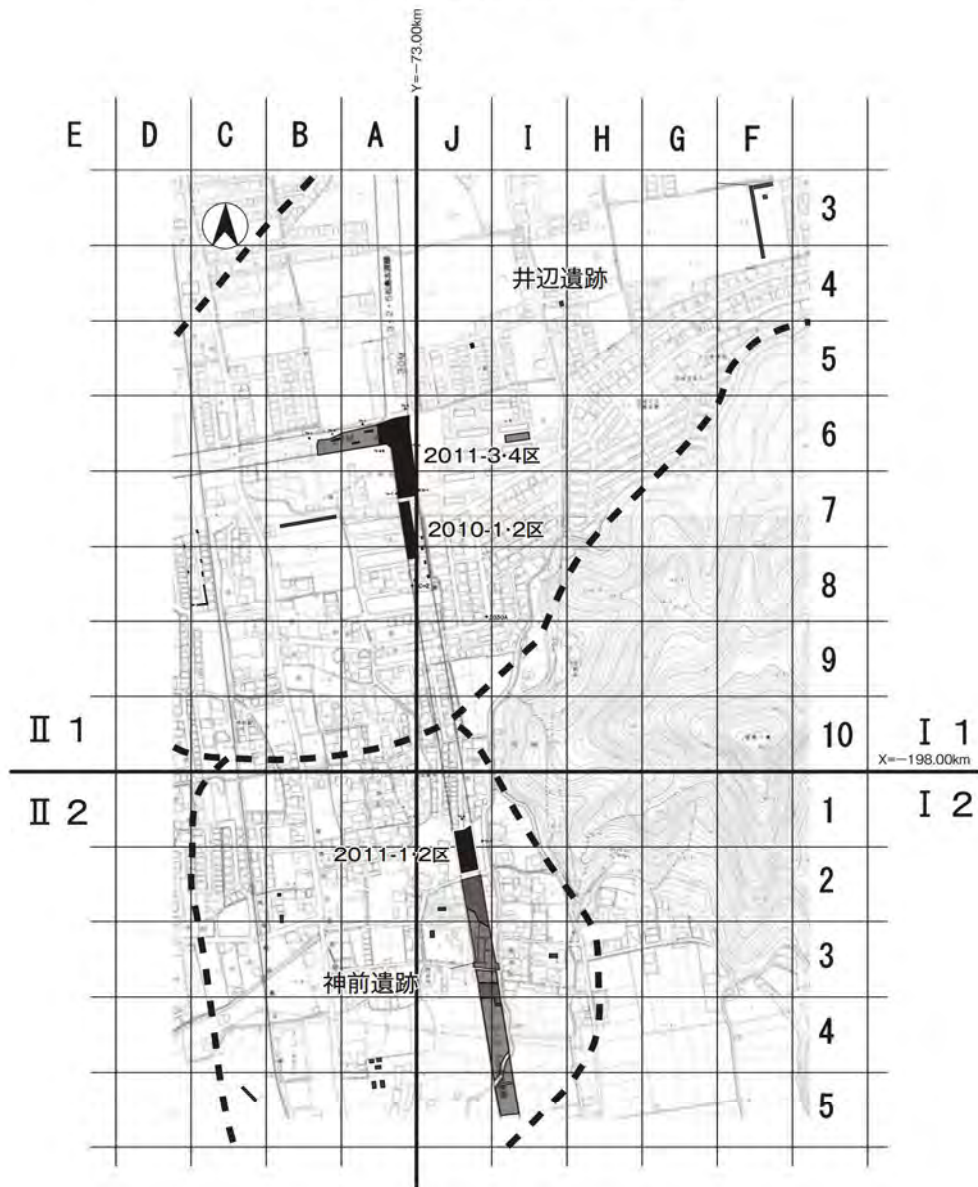


图3 調査地周辺地区割图 (100 m区画)



図4 井辺遺跡、神前遺跡 調査地位置図 (1:5,000)

第IV章 調査成果

第1節 神前遺跡 2011-1・2区の調査成果

1 調査の概要

調査地位置 (図4・5)

神前遺跡 2011-1・2区は、今次の調査地では南に位置する調査区であり、神前遺跡の遺跡範囲に相当する。神前遺跡県1次調査地とは、道路を挟んだ北側に位置し、調査区の東には、現在も利用されている宮井用水中溝水路が流れている。調査区の東付近は福飯ヶ峯が最も西に張り出す箇所にあたり、調査区南西には「中務の築山」と呼ばれる独立丘陵が存在する。

検出遺構の概要 (図7・8)

神前遺跡 2011-1・2区では、弥生時代から古墳時代にかけての溝10数条と谷状地形、鎌倉時代の溝と耕作痕(鋤溝)を検出することができた。弥生時代から古墳時代にかけての溝は調査区北側に存在する谷状地形へとつながるものと考えられ、南側では神前遺跡県1次調査・県2次調査で確認した溝につながるものと考えられる。今回これらの溝の北端を確認したことにより神前遺跡の集落復元にさらに具体的な材料を与えることとなった。

このうち、弥生時代から古墳時代にかけての溝は、溝が互いに重複しながらも北東方向から南西方向へと延びる。溝からの遺物はきわめて少なく、正確な時期が判明するものも少ないが、破片から推定して弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。また、これらの溝は、調査区南側へ延びる溝と、調査区西側へ延びる溝に区別できる。この溝の方向は、調査区南西に位置する独立丘陵を挟んで、独立丘陵の北側を流れ調査区の西側に続く溝と、独立丘陵の東側を流れ調査区の南側に続く溝に対応するも

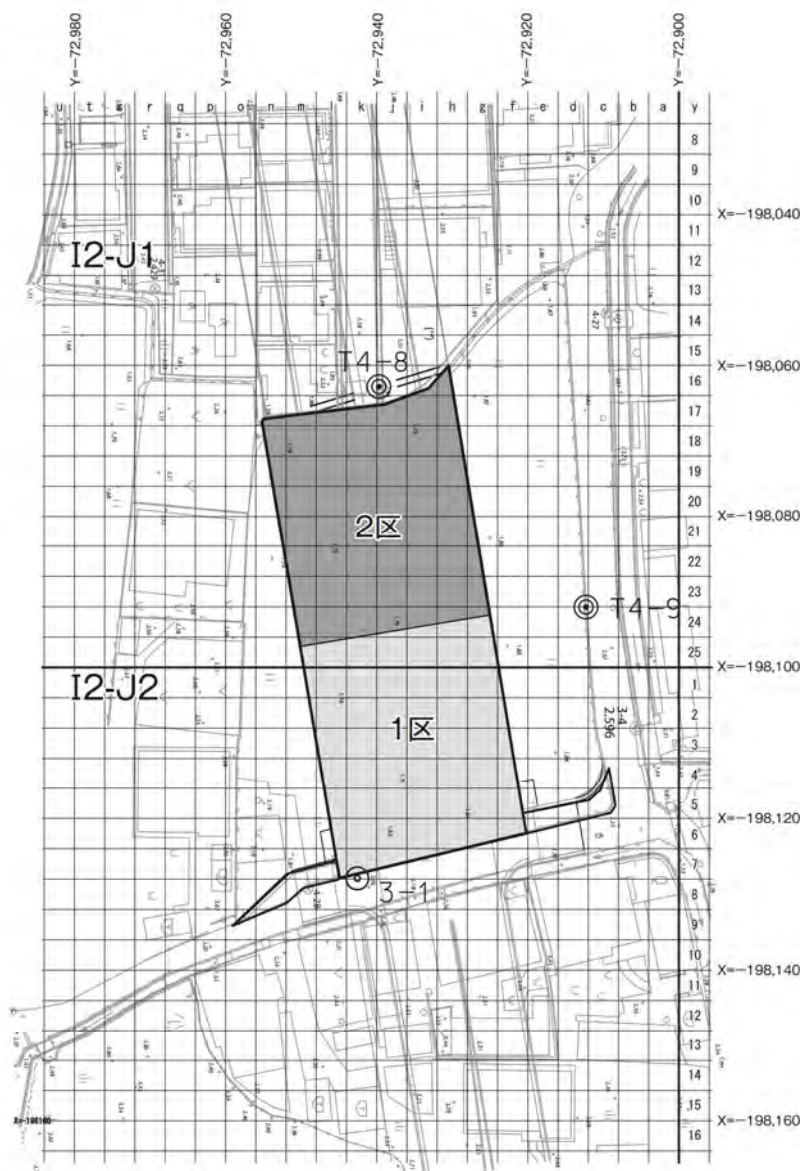


図5 神前遺跡 2011-1・2区 地区割図 (4m区画) (1:1,000)

のと思われる。これらの溝のうち、調査区の南側に延びる溝については、神前遺跡県1次調査・県2次調査で検出した弥生時代及び古墳時代の溝に相当するものと考えられ、これらの溝が今回の調査で確認した谷状地形へとつながるものと考えられる。谷状地形は現状ではさらに北側へと広がることが予想され、こうした神前遺跡北側の谷状地形の存在は、ボーリング調査や踏査などから得られた土地条件図に記載された北神前と南神前との間に位置する旧河道の存在を裏付けることになる。神前遺跡の遺跡推定範囲北はこの谷状地形をもって北端とすべきと考えられる。さらに、今回、独立丘陵の北側を流れ調査区の西側へ延びる溝を数条検出したことから、神前遺跡の生産域及び居住域はさらに西側へと拡大するものとみられ、今後の集落復元に大きな成果を示すこととなった。

一方、今回の調査では、鎌倉時代の溝及び耕作痕を確認できた。弥生時代から古墳時代にかけての溝は、地形の制約を受けN-40°-Eと正方位から大きく傾くものに対し、鎌倉時代の溝は1026溝、1041溝のように、N-6°-Eとわずかな振れにとどまる。谷状地形の埋没後、周辺の土地利用が大きく変化したものとみられる。

2 基本層序と遺構面 (図6)

神前遺跡 2011-1・2 区の現況は、水田跡であり平坦である。調査地周辺は、宅地造成による盛土が厚く堆積し、水田面から約0.6~0.7 m程度の比高が存在する。基本層序は、確認調査の成果を踏まえ、以下の通り把握した。

第1層：第1層は、近現代耕作土であり、暗灰黄シルト～細砂層からなる現代水田耕作土と、灰色のシルト～細砂層からなる近代水田耕作土に細分される。床土は薄く残存箇所も少ない。

第2層：第2層は、中世以降に堆積したと考えられる旧耕作土である。第2層は、鉄分を多く含む淡黄色の細砂～シルトからなる第2 a層、オリーブ灰色シルト層（有機質・植物腐植層を含む）からなる第2 b層、鉄分を含む浅黄色シルトからなる第2 c層、明オリーブ灰色シルト及び浅黄色シルトからなる第2 d層に細分される。調査区中央部分では、第2層に酸化が見られいずれも褐色を呈している。おそらく近現代の水田畦畔による影響と考えられる。出土遺物は、細片化したものが多く、弥生時代後期末～終末期、古墳時代、奈良・平安時代、平安時代末～室町時代、江戸時代と、各時代のものがある。

第3層：第3層は、中世以降に堆積したと考えられる堆積層である。灰白色及び、にぶい黄色シルトからなり直径0.5~1 cmのマンガン斑状を多く含む。出土遺物は、平安時代末から室町時代を主体とする。遺物量が少なく時期は判然としないが、旧耕作土の可能性が高い。

第4層：第4層は、弥生時代後期以前に堆積したと考えられる堆積層で、この上面で遺構を確認したことから基盤層と考えられる。灰白色シルトからなり、部分的に明オリーブ色を呈する。上部に鉄分・

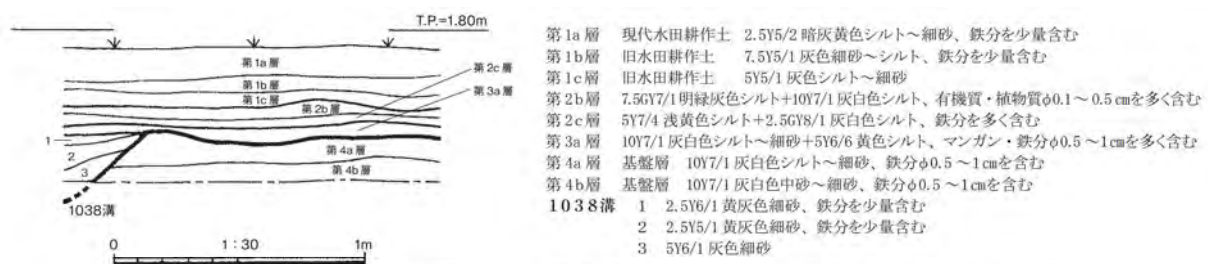


図6 神前遺跡 2011-1・2 区の基本層序 (2011-1 区調査区西壁断面土層)

黄色細砂を含む。上層は比較的均一なシルトであるが、調査区南側では下層は中砂から細砂層となることを確認している。

掘削手順 遺構検出は、第4層上面で行い、主に弥生時代～古墳時代・中世～近現代の遺構を検出した。部分的に近世の整地層が堆積する。また、第4層は、南から北へと緩やかな傾斜が存在し、調査区北半部分にかけては、緩やかな落ち込みがみられ谷状地形を形成する。上層部分から出土した遺物から、谷状地形は古墳時代以降に埋没したものとみられ、以降の土層の堆積はほぼ水平である。

3 各遺構の調査成果 (図6～14・図51・99、表4、写真図版1～6・32・67)

神前遺跡 2011-1・2区では、南から北へと緩やかな傾斜が存在し、調査区北側では、北東方向から南西方向にかけて延びる大規模な谷状地形の南肩を検出した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から庄内式併行期にかけての溝10数条、鎌倉時代の溝3条、土坑、耕作に伴う小溝(鋤溝)、江戸時代の溝、土坑を検出した。いずれの遺構も出土遺物がきわめて少なく詳細な時期は不明である。ここでは、主だった遺構についての説明を加える。

1001土坑 (図8・9、写真図版4-1)

1001土坑は、調査区南側中央I2-J2-i4で検出した土坑である。平面形は、歪な楕円形状を呈し、短軸東西0.88m、長軸南北1.00m、深さ0.14mを測り、断面形は皿形を呈する。1018溝と重複して、溝より後出する。遺物は出土していない。

1002土坑 (図8・9、写真図版4-2)

1002土坑は、調査区南側中央I2-J2-i3で1001土坑に隣接して検出した土坑である。平面形は、歪な円形状を呈し、短軸東西1.00m、長軸南北1.20m、深さ0.15mを測り、断面形は深い皿形を呈する。1018溝と重複して、溝より後出する。遺物は弥生時代後期後半の弥生土器2点が出土した。

1017溝 (図7～10、図51、写真図版6-1・32)

1017溝は、調査区北半I2-J1-h18～I2-J2-j2で検出した溝で、北東から南西方向に緩やかに蛇行して延びる。調査区北東隅で、2067溝と分岐し、調査区外へと延びるが、2070谷状地形へと合流するものとみられる。調査区中央部分で1035溝・1036溝・1038溝と重複して延び、1036溝とは溝の深さと断面形から区別可能であり、1035溝・1036溝より後出する。検出できた溝の延長は38.20mを測る。溝の幅員0.48～0.90m、深さ約0.10～0.22mを測り、溝の断面形は緩やかな皿形を呈する。

溝の埋土は、黄灰色シルトから灰色シルトを呈する。遺物13点の出土は少ないが、弥生土器甕(1)などの出土土器から弥生時代後期後半から庄内式併行期のものと考えられる。

1018溝 (図7・8・10・11)

1018溝は、調査区を北東から南西方向I2-J1-g25～I2-J2-k5に弧を描いて延びる溝で、北東部分は近世の踏込みにより上部が攪拌され、明確に検出できなかったわけではない。1032溝と重複し、1032溝が後出する。溝は、検出延長30.00mを測り、調査区南西側と北東側では溝の幅員・深さが異なり、南西側では幅員1.50～1.90m、深さ0.35～0.36m、北東側では幅員0.65～0.80m、深さ0.10～0.20m、溝の断面形は北側で皿形、南側で浅いU字形を呈する。

遺物5点は鎌倉時代の遺物を含み細片のみの出土であり、溝の所属時期は明確でないが弥生時代後期後半から庄内式併行期と考えられる。

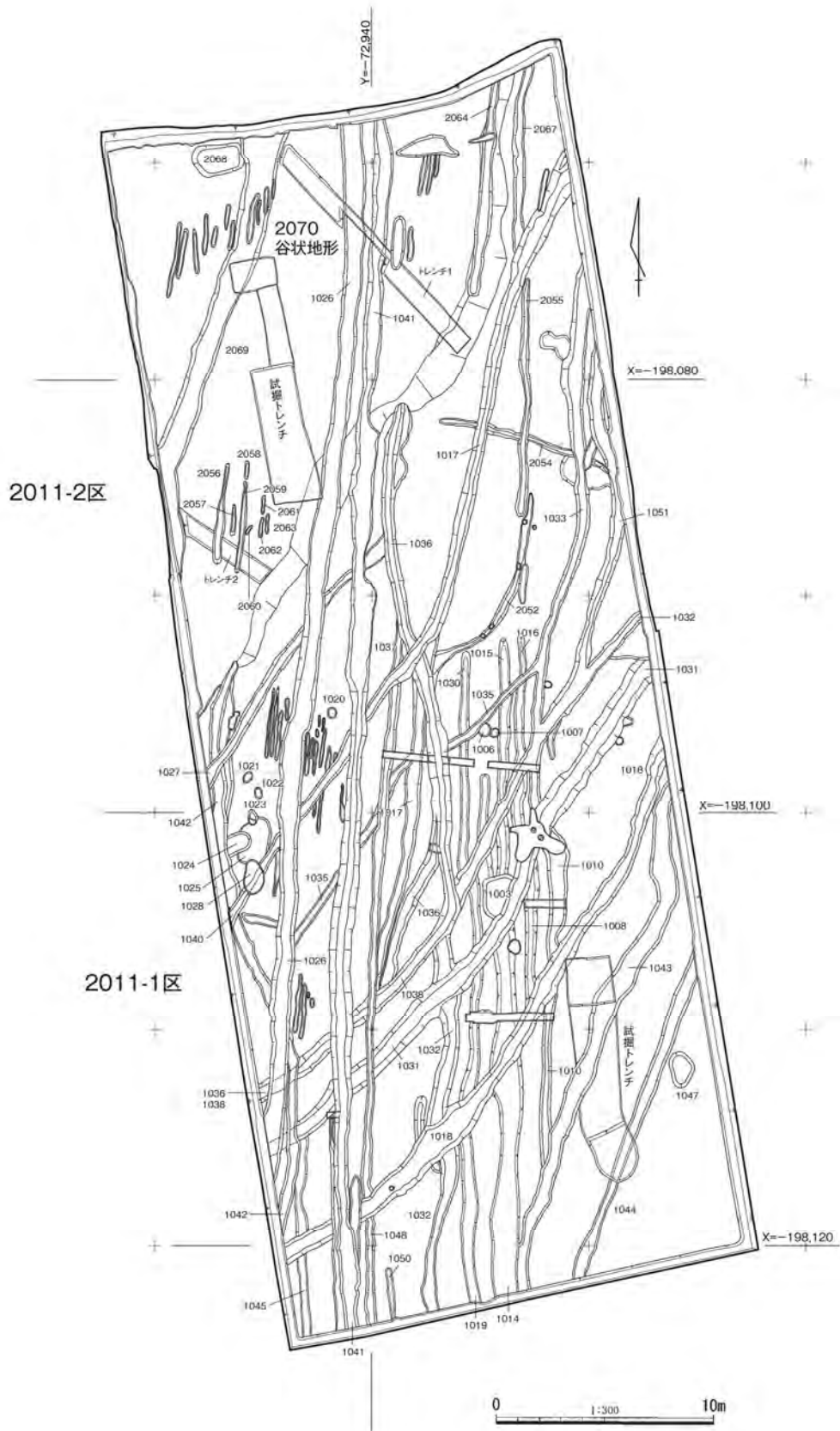


図7 神前遺跡 2011-1・2区 遺構全体平面図 (1:300)

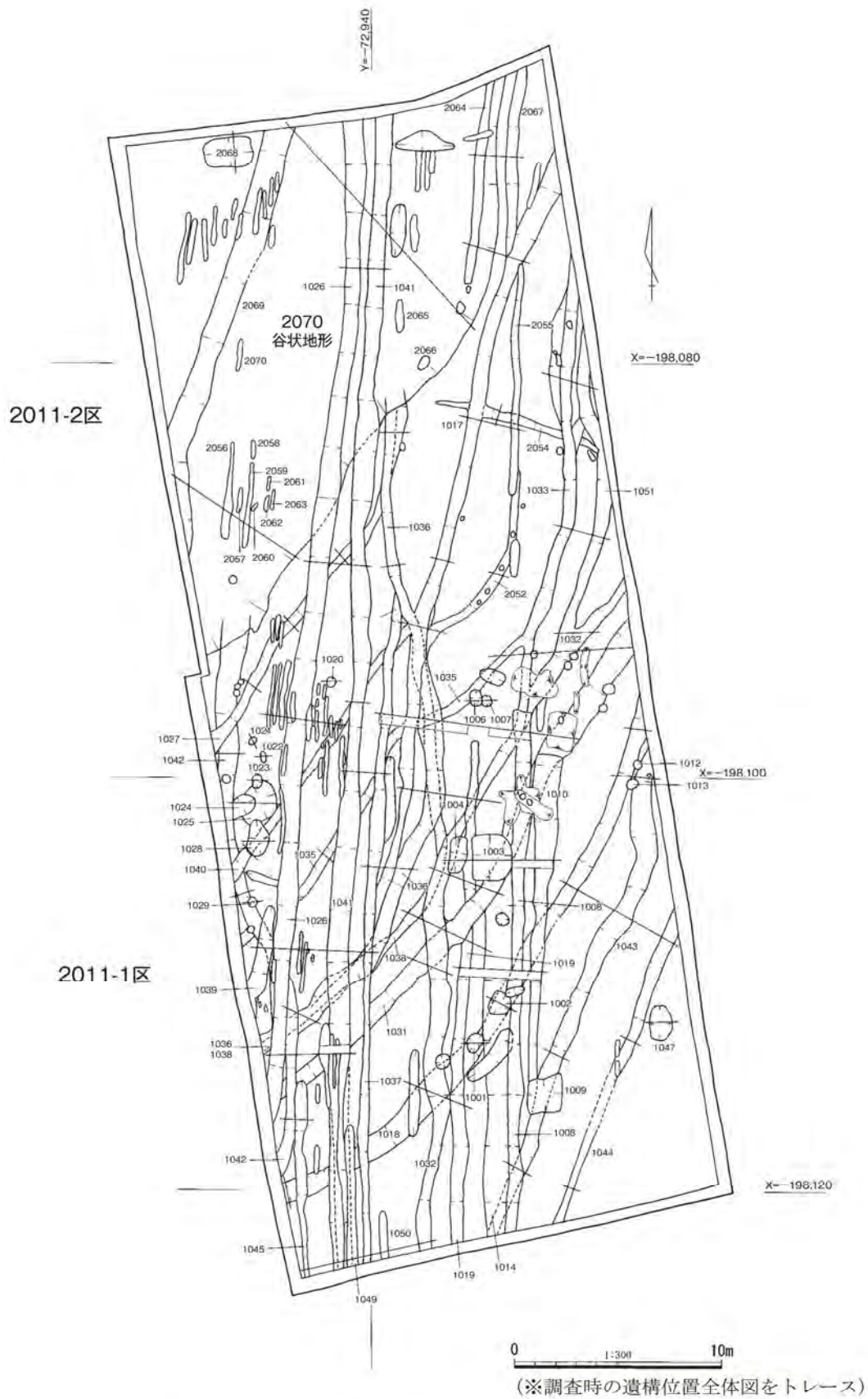


図8 神前遺跡 2011-1・2区 各遺構断面位置図 (1:300)

1031溝 (図7・8・11～13、写真図版4-4～6)

1031溝は、調査区を北東から南西方向I 2-J 1-g 24～I 2-J 2-k 4に緩やかに蛇行して延びる溝である。北東側で1018溝・1043溝・1044溝と並行に延びる。1032溝と重複し、溝の重複関係、溝の深さから区別可能であり、1032溝が後出する。溝は、検出延長29.20m、幅員0.84～1.22m、深さ0.18～0.36mを測り、溝の断面形は二段掘りで一部浅いU字形を呈する。

埋土は黄灰色シルトから灰色シルトからなり、溝最下層(図11-1031溝の土層19・図12-1031溝の土層6)では黄灰色シルトに炭化物を多く含む。溝の北半では近世の攪乱により、溝の残存状況が良くない。遺物14点は鎌倉時代の遺物を含み細片のみの出土であり、溝の所属時期は明確でないと考えられる。

1032溝 (図7・8・11～13、写真図版4-10)

1032溝は、調査区を北東から南方向I 2-J 1-h24～I 2-J 2-j 6に大きく弧を描いて延びる溝である。調査区南で調査区外へ延び、県1次調査で検出した溝の延長部分と考えられるが、県1次調査の北側では近世の攪乱が存在し、その明確な延長は明らかではない。1031溝・1038溝と重複し、溝の重複関係、溝の深さから区別可能であり、1032溝が後出する。途中、1033溝・1051溝が分岐する。溝は、検出延長35.50m、幅員0.44～1.00m、深さ0.16～0.24mを測り、溝の断面形は東端部で逆台形、その他では浅いU字形を呈する。

遺物13点の出土は少ないが、弥生時代後期後半から庄内式併行期のものと考えられる。

1026溝 (図11・12・51、写真図版4-3・32)

1026溝は、調査区を北から南方向I 2-J 1-k18～I 2-J 2-l 5にほぼ直線的に延びる溝である。溝の方向はやや東へ振れN-5°-Eとなる。1041溝・2069溝と同様に谷状地形が埋没した後に掘削された溝である。溝は、検出延長48.00m、幅員0.88～1.06m、深さ0.14～0.22mを測り、溝の断面形は浅いU字形もしくは皿形を呈する。

溝の埋土は灰白色シルトからなり鉄分を多く含む。遺物17点は土師器皿(11・12)・瓦器碗(15)が出土しており、鎌倉時代のものと考えられる。1041溝・2069溝と方向・埋土の状況・出土遺物の時期が類似し、ほぼ同時期に存在した可能性がある。溝の周辺には耕作に伴う小溝(鋤溝)が並行に存在する。

1041溝 (図12～14、写真図版4-9)

1041溝は、調査区を北から南方向I 2-J 1-j 18～I 2-J 2-k 6へほぼ直線的に延びる溝で、1026溝に並行して延びる。溝は、検出延長55.80m、幅員0.52～1.04m、深さ0.08～0.52mを測り、溝の断面形は北側で皿形、南側でU字形を呈する二段掘りである。1018・1027・1031・1035・1036・1038・1040溝と重複して、これらの溝より後出する。

溝の埋土は1026溝と同様に灰白色シルトを呈し、鉄分を多く含む。上層と下層では、土層の堆積が異なるため上下二時期分かれるものと考えられる。出土土器15点から、鎌倉時代のものと考えられる。

2070谷状地形 (図14・51・99、写真図版6-5～7・32・67)

2070谷状地形は、調査区2区北半I 2-J 1-i 17～m 24で検出した大規模な谷状地形であり、調査区北東隅から調査区西の中央にかけて検出している。谷状地形の埋没の最終段階は、古墳時代以降とみられ、鎌倉時代には1026溝・1041溝が掘削されることから、周辺は平坦地となっていたことがうかがえる。また、弥生時代後期後半から庄内式併行期の溝がこの谷状地形へと合流する。

調査において中層以下での遺物の出土はほとんど見られないことから、中層以下については全掘せず、上層部分の掘削と、サブトレンチによる層序の把握に努めた。2070 谷状地形は比較的緩やかに埋没していったとみられ、土層が水平堆積する箇所が見られる。上層は浅黄色シルト～灰色シルト・細砂からなり、弥生土器広口壺（3）（弥生土器・石器 64 点）、古墳時代の土師器・須恵器（5～9）を含む（25 点）。また、中層は、黄灰色シルト～灰細砂からなり、弥生土器甕（4）・庄内式併行期・布留式併行期の土器を含む（7 点）。そのほか両側縁を折り曲げる鋤先鉄製品（図 99-1104）が出土している点が特筆されるが、遺物量はきわめて少ない（小計 115 点）。下層では灰色シルトとなりグライ化した土壌を呈する。2070 谷状地形の基底部分は掘削深度が安全深度を超えるため確認できていないが、最も深い部分で深さ約 2 m になると考えられる。

その他の検出遺構と出土遺物（図 9～14・51、表 4、写真図版 32）

弥生時代後期から古墳時代前期と判断した遺構 1042 溝 I 2-J 1-ℓ 24～I 2-J 2-ℓ 5 から弥生土器高坏（2）、1036 溝 I 2-J 1-j 21～I 2-J 2-ℓ 4 から鎌倉時代の土釜（14）の他、弥生時代後期から古墳時代前期と判断した遺構から小計 86 点の遺物が出土した。当該期の遺構からは、上層遺構からの混在と思われる鎌倉時代を中心とした遺物 25 点を含んでいる。

中世遺構と判断した 2067 溝 I 2-J 1-i 17～19 から弥生土器高坏（10）、1045 溝 I 2-J 2-k 4～6 から鎌倉時代の土師器小皿（13）の他、中世遺構と判断した遺構から小計 177 点の遺物が出土した。

また、遺物包含層 3 層下関係（表 4-層序要素 5）（包含層 3 層下、3 層下掘り下げ、精査 3 層下）からは、縄文時代晩期の壺形土器（16）、飛鳥時代の須恵器坏蓋（17）、奈良時代の須恵器坏蓋（18）、鎌倉時代の瓦質壺（19）など、小計 83 点の遺物が出土した。

遺物包含層 3 層関係（表 4-層序要素 6）（包含層 3 層、3 層上）からは鎌倉時代の瓦器碗（20）など、小計 32 点の遺物が出土した。

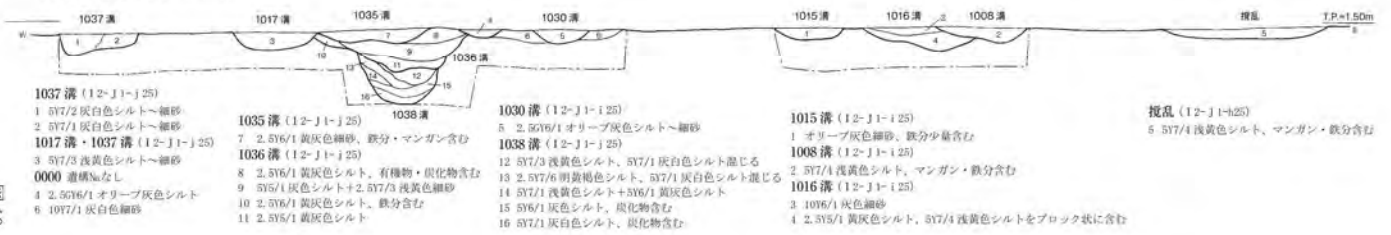
遺物包含層 2 層関係（表 4-層序要素 7）（包含層 2 層、機械掘削 2 層、包含層 2・3 層、機械掘削 2・3 層、東側溝 2～4 層）からは、古墳時代後期の須恵器坏蓋（21）、奈良時代の須恵器坏蓋（22）、鎌倉時代から江戸時代にかけての遺物（23～29）など、小計 259 点が出土した。

遺物包含層 1 層関係（表 4-層序要素 8）（東側溝 1～4 層、機械掘削 1 層、機械掘削 1・2 層、試掘トレンチ埋土）からは、古墳時代の円筒埴輪（30）、室町時代の青磁碗（31・32）、江戸時代の肥前系染付丸碗（33）など、小計 53 点の遺物が出土した。

神前遺跡 2011-1・2 区全体を通じた遺物は、総数 805 点、時代別に見た内訳は弥生時代前期・中期 2 点（0.2%）、弥生時代後期・終末期 219 点（27.2%）、古墳時代 84 点（10.4%）、奈良・平安時代 66 点（8.2%）、平安時代末～室町時代 365 点（45.3%）、江戸時代 64 点（8.0%）、不明 5 点（0.6%）となる。

その内、古墳時代の遺物の内訳は、土師器 12 点（甕 2 点・布留甕 4 点・高坏 1 点・鉢 1 点・竈 1 点・その他不明 3 点）、須恵器 72 点（坏身 19 点・坏蓋 21 点・高坏 4 点・壺 4 点・甕 22 点・その他不明 2 点）である。

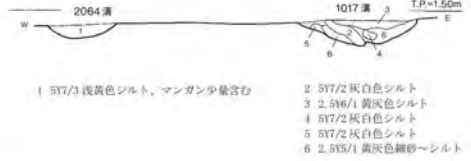
トレンチ1北壁(12-J1-h・i・j区)



1017溝セクション1(12-J2-j1), 1036・1038溝(12-J2-j1)



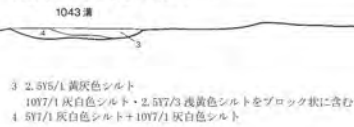
2064溝(12-J1-i19)



1018溝セクション3(12-J2-h2)



1043溝セクション2(12-J2-g・h2)



1044溝セクション1(12-J2-g2)

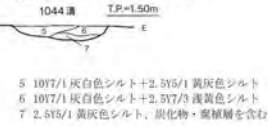




図 11 神前遺跡 遺構断面土層図 3 (2011-1 区)

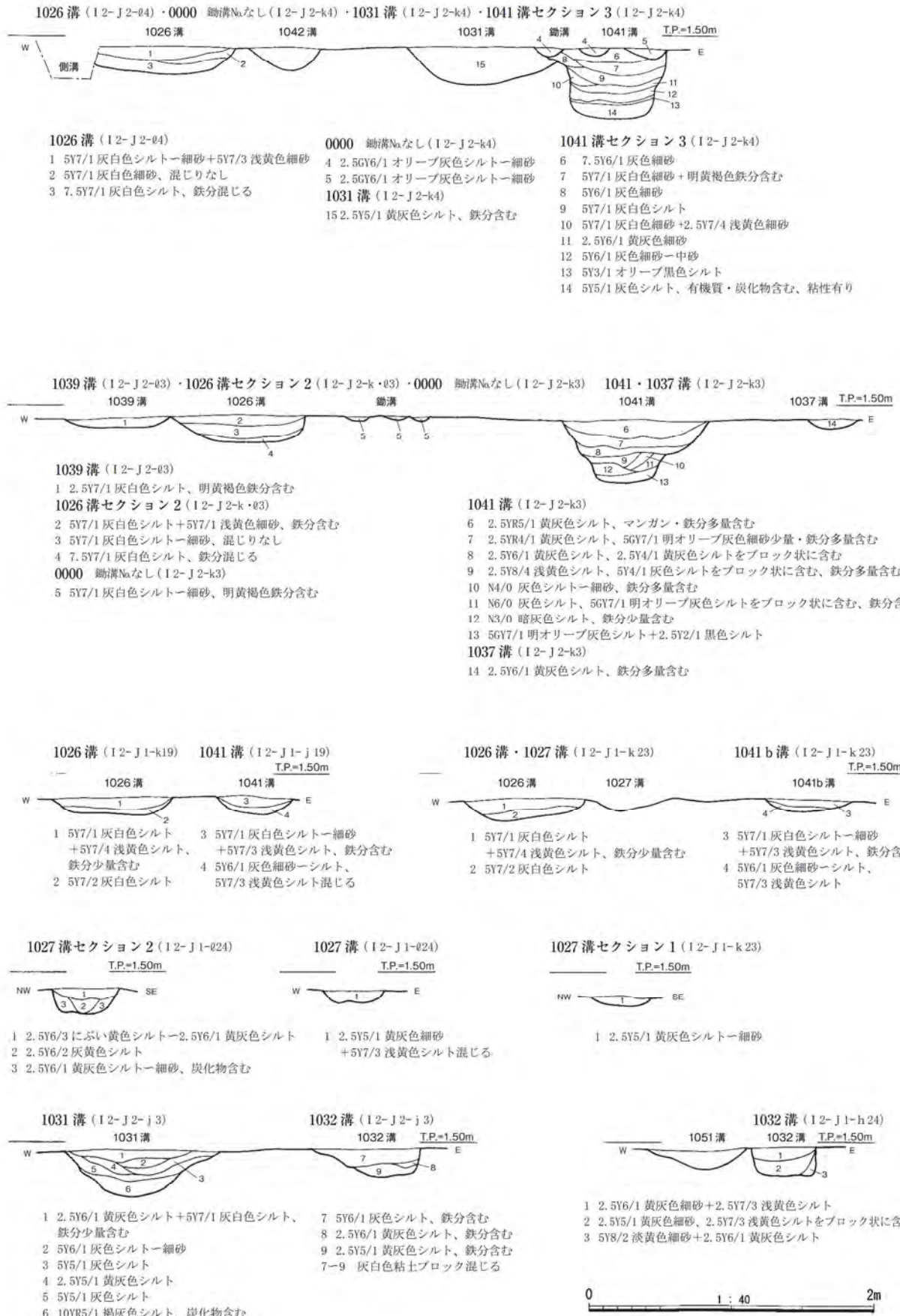


図 12 神前遺跡 遺構断面土層図 4 (2011-1・2 区)

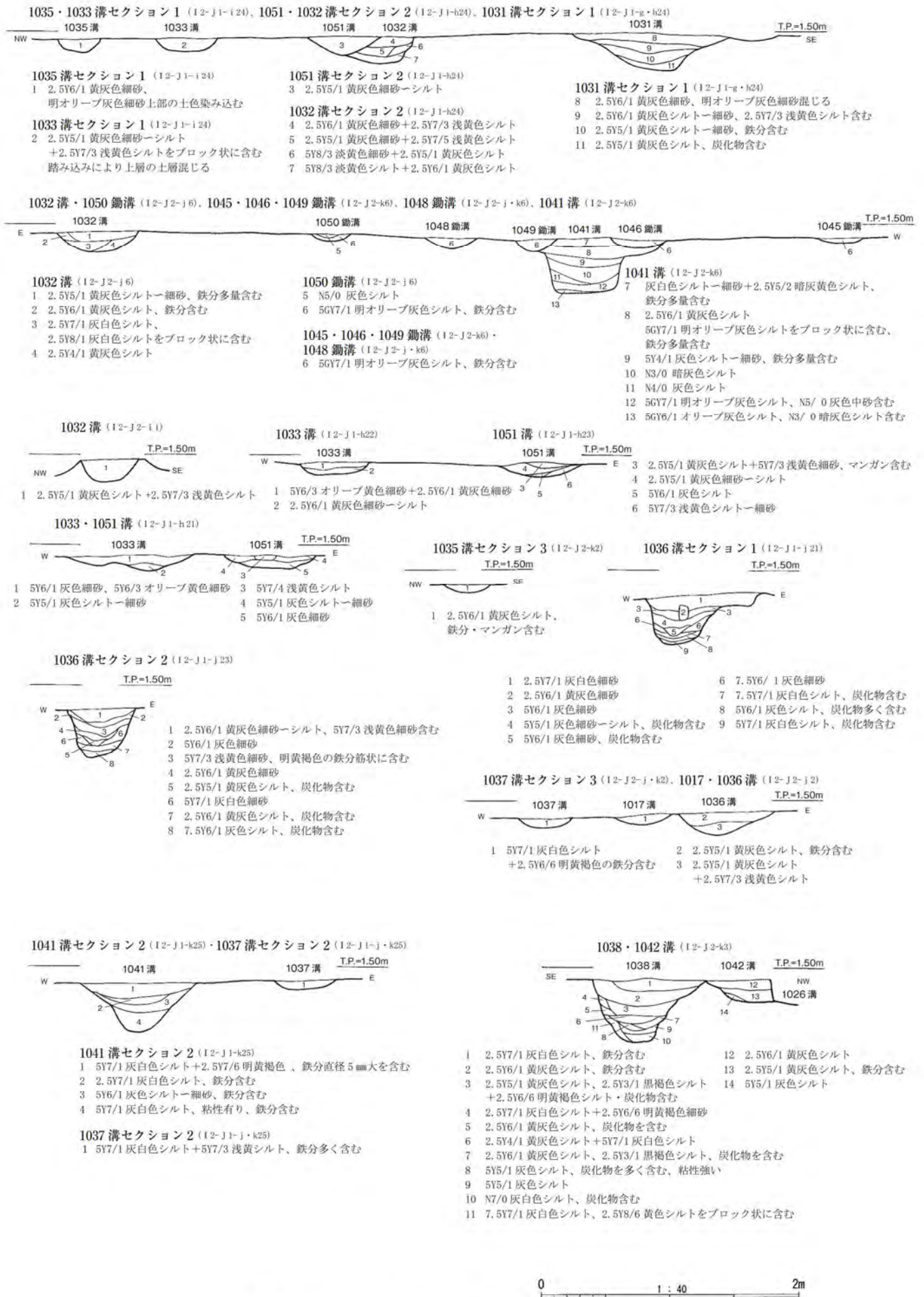


図 13 神前遺跡 遺構断面土層図 5 (2011-1・2 区)

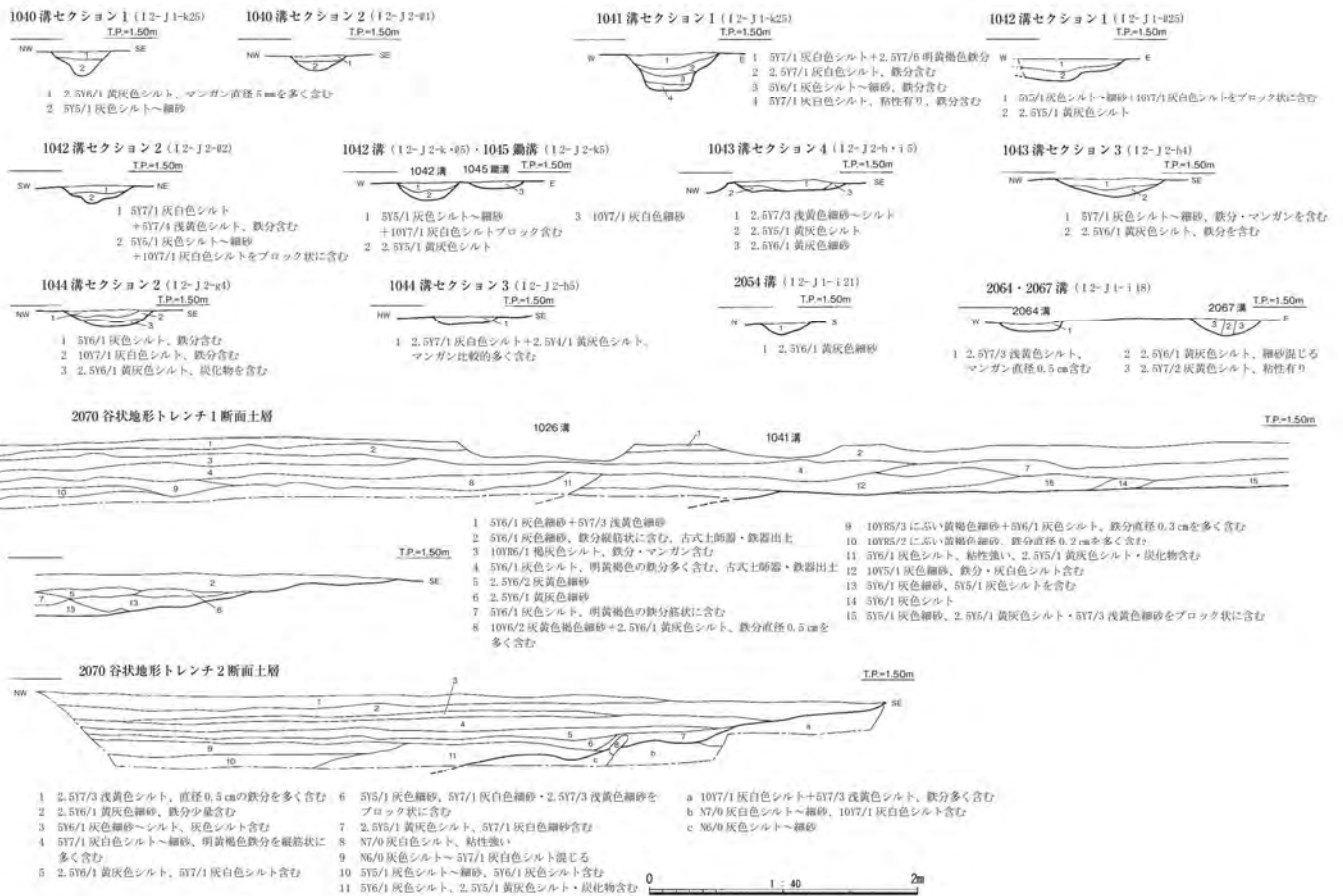


表4 神前遺跡 2011-1区・2区 各層別遺物数量

層序要素	大凡の時代		弥生後期・終末期 (庄内式含む)										古墳 (布留式～)				奈良・平安				平安末・鎌倉・室町				江戸				備考					
	各層序		弥生前・中期			弥生上層							土師器		土器		土師器		瓦		土師器		陶器		その他		本計	合計						
	層序要素 遺構層序 地形層・堆積層	前	中	小計	壺	甕	鉢	鉢	その他・不明	石器・銅片・他	小計	土師器	土器	土師器	土器	土師器	瓦	土	土師器	陶器	その他・不明	小計	土師器	陶器	その他・不明	小計				本計	合計			
																											期	期				期	期	期
1	弥生時代後期～古墳時代前期遺構他	0	0	0	15	11	4	0	0	27	1	58	0	1	0	1	0	2	0	0	2	7	7	4	7	25	0	0	0	0	0	86	層序重複関係・出土遺物内容から当該期と考えられる遺構(直上、上位層の掘り残し有り)	
	小計	0	0	0	15	11	4	0	0	27	1	58	0	1	0	1	0	2	0	0	2	7	7	4	7	25	0	0	0	0	86			
2	2070 谷状地形上層関係	0	0	0	23	21	4	0	1	14	1	64	5	20	0	25	0	2	0	0	2	1	6	2	0	9	0	2	1	3	1	104		
3	2070 谷状地形中層関係	0	0	0	6	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	11			
	小計	0	0	0	29	22	4	0	1	14	1	71	5	20	0	25	0	3	1	0	4	2	7	2	0	11	0	2	1	3	1	115		
4	中世遺構他	1	0	0	1	8	11	3	0	0	20	1	43	4	9	0	13	5	8	2	0	15	50	18	17	19	104	0	0	0	1	177	層序重複関係・出土遺物内容から当該期と考えられる遺構	
	小計	1	0	0	1	8	11	3	0	0	20	1	43	4	9	0	13	5	8	2	0	15	50	18	17	19	104	0	0	0	1	177		
5	遺物包含層3層下関係	1	0	0	1	1	1	0	0	4	0	7	0	9	0	9	4	2	5	0	11	22	22	4	6	54	0	1	0	1	0	83	包含層3層下、3層下掘り下げ、積層3層下	
6	遺物包含層3層関係	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	11	0	11	0	0	1	0	4	5	7	1	2	15	0	0	0	0	0	32	包含層3層、3層上		
7	遺物包含層2層関係	0	0	0	8	7	5	0	1	16	0	37	2	21	0	23	4	8	14	1	27	52	36	29	15	132	1	28	8	37	3	259	包含層2層、機械掘削2層、包含層2・3層、機械掘削2・3層、東相溝2～4層	
8	遺物包含層1層関係	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	3	0	3	7	7	6	4	24	0	16	7	23	0	53	東相溝1～4層、機械掘削1層、機械掘削1・2層、鉄掘トレンチ埋土		
	小計	1	0	0	1	10	8	6	0	2	20	1	47	2	42	1	45	8	10	28	1	45	86	72	40	27	225	1	45	15	61	3	427	
	合計	2	0	0	2	02	52	17	0	3	81	4	219	11	72	1	84	13	23	29	1	66	145	104	63	53	365	1	47	10	64	5	805	

第2節 井辺遺跡 2010-1・2区の調査成果

1 調査の概要

調査地位置 (図4・15)

井辺遺跡 2010-1・2区は、今後の調査では神前遺跡 2011-1・2区と井辺遺跡 2011-3・4区の間であり、井辺遺跡 2011-3・4区とは道路を隔てて南側に位置する。

調査区北から北西にかけて、谷状地形(自然流路)である第4層が広がる。そのため、調査区 2010-1区ではその大部分が谷状地形(自然流路)となり、第4層上面では遺構は検出できていない。一方、調査区 2010-2区では第4層上面及び、谷状地形(自然流路)が存在しない範囲である第5層上面では遺構を検出しており、谷状地形(自然流路)の南から南東にかけて遺構の展開が確認された。

検出遺構の概要 (図17・18)

井辺遺跡 2010-1・2区の調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の土坑・小穴・南北方向の溝、谷状地形(自然流路)を検出した。溝は、数条の溝が谷状地形(自然流路)に向かって流れており、水路または排水溝とみられる。

谷状地形は、グライ化した灰色シルトや黒褐色の有機質層が厚く堆積し、埋土中に自然木等を含んでおり、流水・滞水を繰り返し次第に埋没していく状況がうかがえる。また、谷状地形の下層では流水堆積を示す河砂を検出しており、本来は大規模な自然流路であったとみられる。この河砂の上部からは、弥生時代後期後半から庄内式併行期の土器片が多量に出土しており、この自然流路の時期を示す。谷状地形(自然流路)の埋土中層から上層へは、庄内式併行期・古墳時代前期の遺物が含まれており、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて、この谷状地形の埋没していくことがわかる。谷状地形の最終の埋没時期は、古墳時代前期であり、当該時期には周辺は低湿地として陸地化したものとみられる。

谷状地形(自然流路)の北側肩部の状況については、今回の調査区の北側、井辺遺跡 2011-3・4区の4259自然流路を検出している。また、市2次調査においても谷状地形(自然流路)を検出しており、これらを一連のものとするならば、井辺遺跡南西部にかけて大規模な谷状地形(自然流路)が存在す

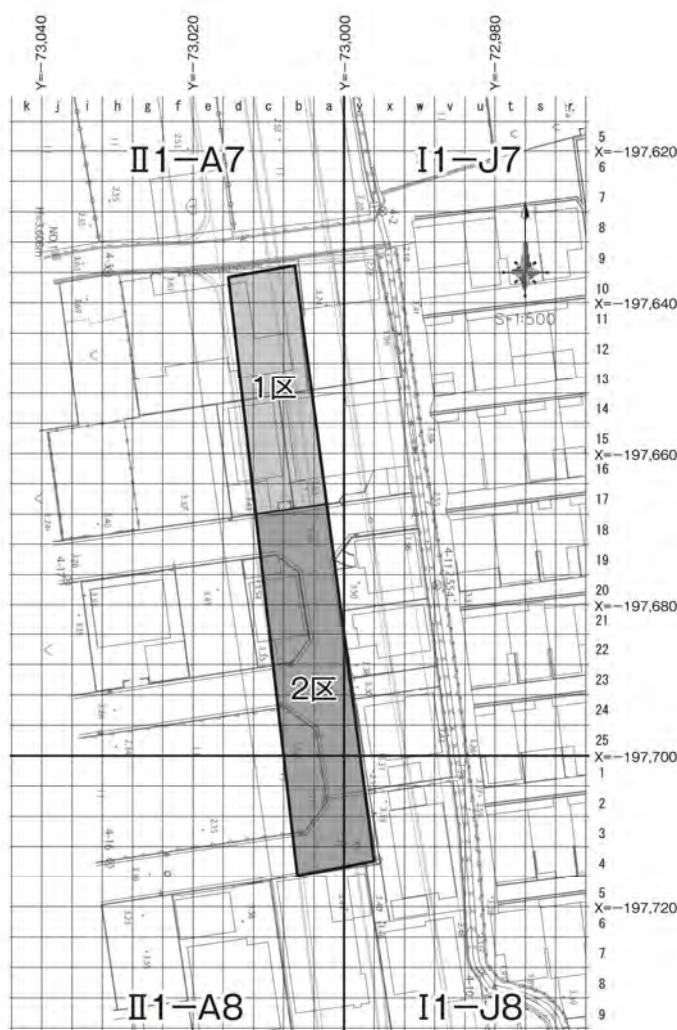


図15 井辺遺跡 2010-1・2区 地区割図 (4 m区画)
(1:1,000)

ると考えられる。

2 基本層序と遺構面 (図 16、写真図版 7-4・5)

井辺遺跡 2010-1・2 区は、北から南へと緩やかな勾配をもつ。調査地の現況は宅地であり、宅地造成時の盛土が厚く存在し、調査地周辺の水田面より約 1.0~1.2 m 程度の比高が存在する。基本層序は確認調査の成果を踏まえ、以下の通り把握した。

第 0 層：現代の造成土で、円礫・角礫を多く含む粗砂層からなり、灰白色～緑灰色のシルトが盛り土の下層に部分的に存在する。地表面にはコンクリート基礎・アスファルトが存在する。

第 1 層：近現代耕作土であり、灰色の細砂～シルト層からなる耕作土と、褐色～明黄褐色細砂の床土に細分される。床土は薄く残存箇所も少ない。現代造成土とは反対に南から北へと勾配をもつ。この地形の勾配は第 1 層以下同様である。

第 2 層：中世以降に堆積したと考えられる旧耕作土である。第 2 層は、灰白色～明オリーブ灰色の細砂～シルトからなる第 2a 層、浅黄色の細砂～シルトからなる第 2b 層、灰色の $\phi 1 \sim 2$ cm の鉄分を含むシルトからなる第 2c 層に細分される。

第 3 層：古墳時代以降に堆積したと考えられる水成堆積層である。灰色細砂～シルトからなるグライ化した 3a 層、灰色シルト及び、明黄褐色の鉄分が多く沈着した 3b 層に細分される。

第 4 層：弥生時代後期以降に堆積したと考えられる水成堆積層で、谷状地形（自然流路）の埋土となる。調査区北～北西にかけて分布し、南～南東にかけて第 3 層下に第 5 層が堆積する。第 4 層上層は灰色細砂～シルトからなるグライ化作用の著しい粘質土であり、上面に鉄分を多く含む。第 4 層中層では、灰色細砂～シルトに混じり、自然木・黒褐色の有機質層を含む。第 4 層下層では河砂と考えられる灰色粗砂層が堆積することから、本来は大規模な自然流路とみられる。

第 5 層：弥生時代後期以前に堆積したと考えられる堆積層で、第 4 層である谷状地形（自然流路）の基盤層と考えられる。グライ化した単一の緑灰色シルトで構成される。第 5 層は、調査区南半で標高約 1.8m、調査区中央付近で標高は約 1.0m、調査区北で深く落ち込み、谷状地形（自然流路）を呈する。

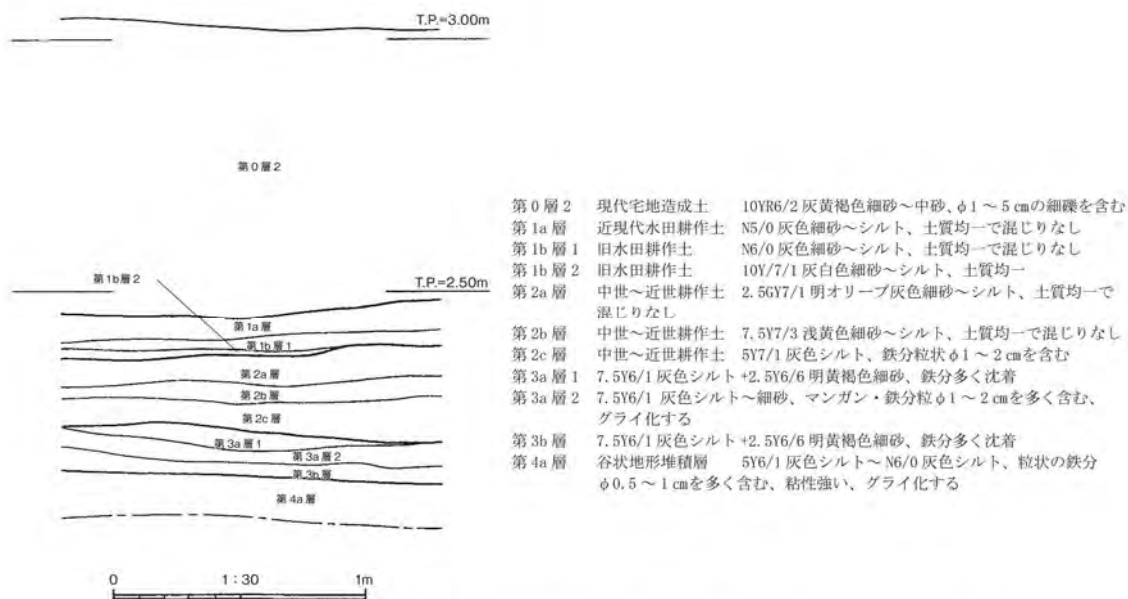


図 16 井辺遺跡 2010-1・2 区の基本層序 (2010-1 区調査区北壁断面土層)

北側部分では基底部は確認できていない。

遺構面は、第4層上面で遺構検出を行った。しかし、調査区の大部分に谷状地形（自然流路）が存在し、第4層が谷状地形（自然流路）の埋土として把握可能であるため、2区では第5層を基盤層として取り扱った。そのため、遺構検出は第4層及び第5層上面で行い、谷状地形（自然流路）については、範囲及び、堆積土層・下層状況の確認のため下層確認トレンチによる調査を行った。

掘削手順 掘削は、県文化遺産課の確認調査の成果を元に、確認調査の現代の宅地造成土及び表土（第0層）、近・現代の水田耕作土、床土（第1層）、中世以降の遺物包含層（第2層）まで機械掘削を行った。以下、遺物包含層である第3層から第4層上面までを人力掘削により調査を進めた。遺物包含層掘削後に遺構を検出し、遺構を掘削した。

しかし、調査の途中、第4層については調査区北側と南側で様相が異なり、北側に谷状地形（自然流路）が存在することから、北側谷状地形（自然流路）を第4層とし、南側の基盤層については第5層として捉え直した。そのため、谷状地形（自然流路）の下層の堆積状況、基底面確認のために、随時、下層確認トレンチを設定し掘削を行った。

3 各遺構の調査成果（図16～22・52・53・98、表5、写真図版7～10・33・34）

調査区北から北西にかけて、谷状地形（自然流路）である第4層が広がる。そのため、調査区2010-1区ではその大部分が谷状地形（自然流路）となり、第4層上面では遺構は検出できていない。一方、調査区2010-2区では第4層上面及び、谷状地形（自然流路）が存在しない範囲である第5層上面では遺構を検出しており、谷状地形（自然流路）の南から南東にかけて遺構の展開を確認した。

検出した遺構の多くは、弥生時代後期後半から古墳時代前期のもので、土坑・小穴・南北方向の溝を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から庄内式併行期のものが主体を占める。時間幅は想定できるものの、谷状地形（自然流路）についても当該時期のものと考えられる。

4 土坑（図17～19、写真図版8-7）

4土坑は、2区の中央北側Ⅱ1-A7-c 22で、谷状地形の埋土の上面で検出した。やや歪な楕円形状を呈し、短軸東西0.70m、長軸南北1.70m、深さ0.09mを測り、断面形は皿形を呈する。遺物は出土していない。

5 土坑（図17～19、写真図版9-1）

5土坑は、2区の中央北側Ⅱ1-A7-c 22・23で、谷状地形の埋土の上面で検出した。やや歪な円形状を呈し、短軸南北0.73m、長軸東西0.80m、深さ0.10mを測り、断面形は皿形を呈する。遺物は出土していない。

7 小穴（図17～19、写真図版9-2）

7小穴は、2区の南側Ⅱ1-A8-a 23で8小穴の隣で検出した。ほぼ円形状を呈し、直径0.45m、深さ0.06mを測り、断面形は皿形を呈する。遺物は出土していない。

8 小穴（図17～19、写真図版9-2）

8小穴は、2区の南側Ⅱ1-A8-a 23で7小穴の隣で検出した。ほぼ円形状を呈し、直径東西0.40m、南北0.45m、深さ0.05mを測り、断面形は皿形を呈する。遺物は出土していない。

2 溝（図17～19、写真図版8-5）

2溝は、2区南西側Ⅱ1-A8-b 1～3で検出した南から北方向に延びる溝である。溝の検出延長4.75

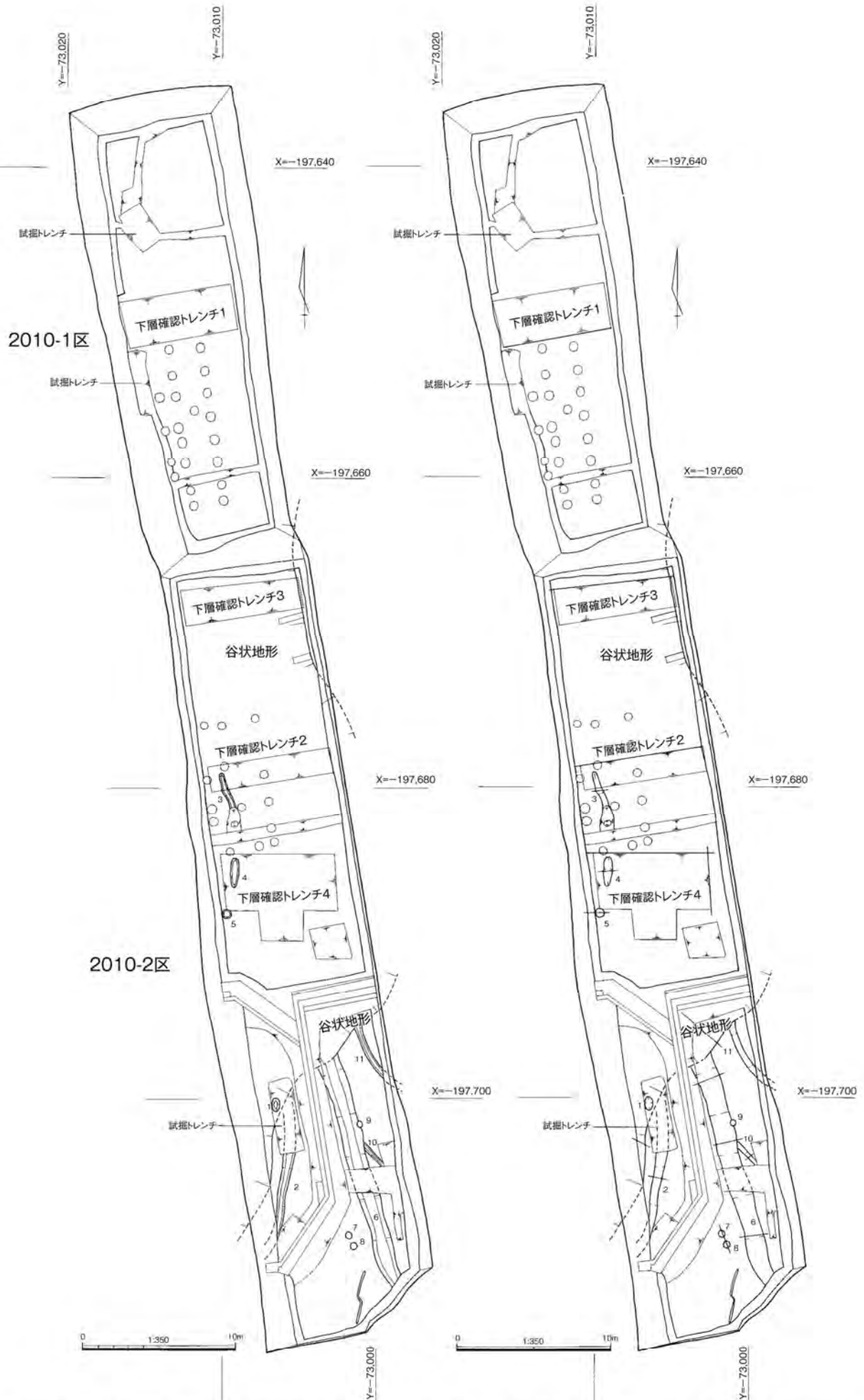


図 17 井辺遺跡 2010-1・2 区 遺構全体平面図(1:350) 図 18 井辺遺跡 2010-1・2 区 各遺構断面位置図(1:350)

m、幅員 0.45～0.55 m、深さ 0.16 m を測り、断面形は浅い U 字形を呈する。

溝の埋土は、灰色の細砂～シルトであり、グライ化が著しい。埋土上面には鉄分が沈着する。出土遺物は、弥生土器高坏 1 点から庄内式併行期のものと考えられる。試掘トレンチに重複しているため、その北側の延長部分は不明であるが谷状地形に流れ込むと考えられる。

6 溝 (図 17～19、写真図版 8-6・9-3)

6 溝は、2 区南東側 I 1-J8-y3～II 1-A7-a 25 で検出した南南東から北北西方向に延びる溝である。溝の検出延長 16.0 m、幅員 0.75～1.45 m、深さ 0.17～0.21 m を測り、断面形は浅い U 字形を呈する。

溝の埋土は 3 層に分かれ、シルトと細砂が交互に堆積する。埋土は灰色を呈し、グライ化が著しい。6 溝北端部分は谷状地形に合流しており、溝の方向から、谷状地形に向かって流れ込んでいたものと考えられる。6 溝中央部では 10 溝が重複し、溝が合流するものと考えられる。6 溝埋土からは、弥生時代後期後半から庄内式併行期の弥生土器壺・甕・不明小計 23 点 (層序要素 1) が出土した。

10 溝 (図 17～19、写真図版 10-4)

10 溝は、2 区南東側 I 1-J8-y 2～II 1-A8-a 1 で検出した南東から北西方向に延びる小溝である。溝の検出延長 1.60 m、幅員 0.25～0.30 m、深さ 0.04 m を測り、断面形は皿形を呈する。溝の北西部分は 6 溝と重複関係にある。遺物は出土していない。

11 溝 (写真図版 8-6)

11 溝は、2 区南東側 I 1-J7-y 25～II 1-A7-a 24 で検出した南南東から北北西方向に延びる小溝である。溝の延長 3.75 m 以上、幅員 0.4 m、深さ 0.11 m を測り、断面形は浅い U 字形を呈する。溝北端部分は谷状地形に合流している。遺物は出土していない。

谷状地形 (自然流路) (図 19・21・22・52・53、写真図版 9-5～8・10・33・34)

1 区から 2 区北西にかけて検出した大規模な谷状地形 (自然流路) である。2 区北東 I 1-J7-y 24、南 II 1-A8-b 2 でも谷状地形 (自然流路) の肩部を検出しており、谷状地形 (自然流路) は調査区外へとさらに広がるものと考えられる。谷状地形 (自然流路) については、人為的に形成された遺構ではないため、完掘は行わず、範囲と堆積状況の確認のため下層確認トレンチを設定した。下層確認トレンチの掘削では、湧水・砂の噴出により谷状地形 (自然流路) の基底部を確認するには至っていない。

谷状地形 (自然流路) の第 4 層上面から約 1.5 m 掘り下げた埋土下層では自然流路の河砂と考えられる灰色粗砂を確認しており、下層は流水堆積を示す。灰色粗砂の上面には弥生時代後期後半から終末期の土器を主体とした 2,801 点 (表 5-層序要素 3・4) が多量に堆積しており、河床に遺物が堆積していたと考えられる。出土遺物は、土器溜りの状況を呈して集中している部分も見受けられた。遺物は、土器溜り・下層 (7・9 層を含む) から出土した弥生土器広口壺 (36～41)、口縁部端面に連続して S 字状の浮文が貼り付けられる広口壺 (42)、口縁部に孔の穿たれた二重口縁壺 (43)、口縁部外面に篋による鋸歯文の描かれた二重口縁壺 (44)、小型短頸壺 (45)、小型丸底土器の可能性のある土器 (46)、甕 (47～59)、手捏ね甕 (61)、高坏 (62～64)、土製支脚 (65)、下層砂層から出土した紀伊 I 様式の弥生土器壺の底部 (66) 等がある。また、下層から出土した広口壺 (67・68)、二重口縁壺 (69・70)、細頸直口壺 (71)、直口壺 (72)、小型丸底土器 (73)、布留式甕の可能性のある土器 (75)、高坏 (76・77)、甌 (78) 等がある。

また、埋土中層から下層にかけては、自然木を含んだ灰色細砂～シルトや、灰白色シルト、灰色中砂、

黒褐色の有機質が互層に堆積し、一部でラミナが発達した箇所も見られることから、流水・滞水を繰り返した堆積状況がうかがえる。埋土中層からは弥生時代終末期から古墳時代前期の土器 225 点（表 5 - 層序要素 5・不明細片は省く）・加工痕をもつ木製品・桃核・種実等が出土した。遺物は、中層から出土した高坏（79）、体部に穿孔のある鉢（80）等がある。

谷状地形（自然流路）の埋土上層は、グライ化の著しい灰色細砂～シルトからなり滞水状況を示す。埋土上層からは弥生時代終末期から古墳時代前期の遺物 190 点（表 5 - 層序要素 6・7）が出土した。遺物は、側溝 4 層から出土した弥生土器広口壺（81）、1・2 層から出土した高坏（82）、上層から出土した高坏（83）、側溝 4 層から出土した高坏（84）、トレンチ 3 上層から出土した鉢（85）等がある。

谷状地形（自然流路）の堆積層の内、表 5 - 層序要素 3（下層確認トレンチ、土器溜り、7 層、9 層）・表 5 - 層序要素 4（下層確認トレンチ、下層・砂層）で把握した弥生時代後期から終末期の遺物 2,785 点（不明は省く）の内訳は、全体の中に占める甕 2,202 点の比率（79.1%）が高く、次いで壺 469 点（16.8%）・高坏 105 点（3.8%）・鉢 6 点（0.2%）、甌 2 点（0.1%）・土製支脚 1 点（0.1% 以下）となる。

以上の堆積状況から、谷状地形は流水が見られる大規模な自然流路が、流水・滞水を繰り返し、次第に埋没し、湿地化した状況を示す。

その他の検出遺構と出土遺物（図 17・18・53・98、表 5、写真図版 33・34）

その他、弥生時代後期後半から終末期と判断した 1 土坑Ⅱ 1-A8-b 1 から弥生土器甕（34・35）が出土した。

また、遺物包含層 4 層関係（表 5 - 層序要素 8）（包含層 4 層、側溝 4 層、包含層 4 層上、精査 4 層上）からは、庄内式併行期古段階の鉢（87）・布留式併行期古段階の小型直口壺（86）、敲石（1091）の他、弥生時代後期後半～終末期を主体とした、小計 124 点の遺物が出土した。

遺物包含層 3 層関係（表 5 - 層序要素 9）（包含層 3 層、側溝 3・4 層、包含層 3・4 層上、精査 3・4 層）からは、古墳時代の須恵器坏身（88）の他、弥生時代後期後半～古墳時代を主体とした、小計 73 点の遺物が出土した。

遺物包含層 1・2 層関係（表 5 - 層序要素 10）（包含層 2・3 層、包含層 1・2 層、機械掘削 0 層）からは平安時代末～室町時代・江戸時代を主体とした、小計 67 点の遺物が出土した。

井辺遺跡 2010-1・2 区全体を通した遺物は、総数 3,612 点、時代別に見た内訳は弥生時代前期 1 点（0.1% 以下）、弥生時代後期・終末期 3,432 点（95.0%）、古墳時代 85 点（2.4%）、平安時代 1 点（0.1% 以下）、平安時代末～室町時代 21 点（0.6%）、江戸時代 33 点（0.9%）、不明 39 点（1.1%）となる。

その内、古墳時代の遺物の内訳は、布留式併行期を主体とした土師器 79 点、須恵器 6 点である。

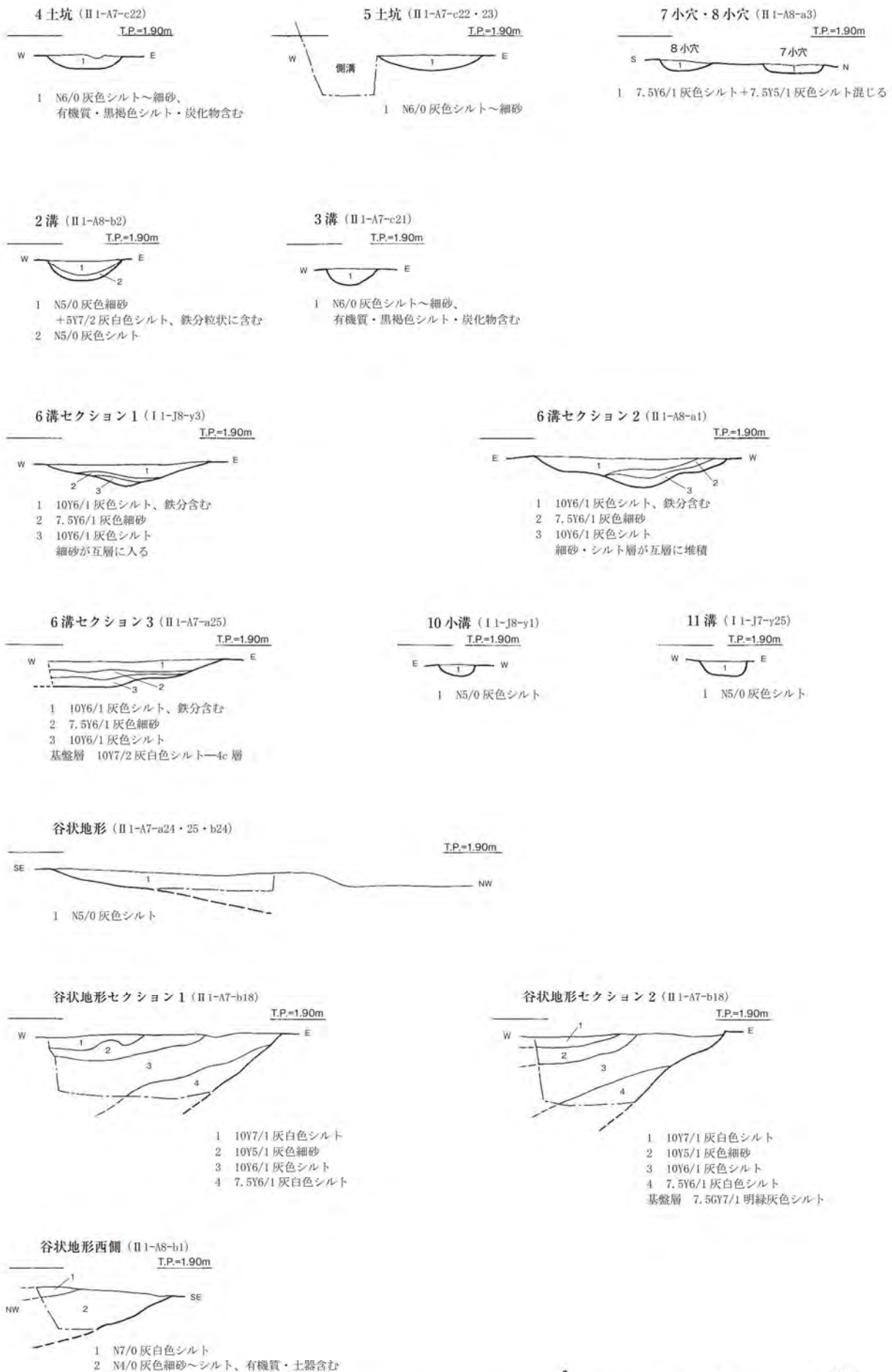
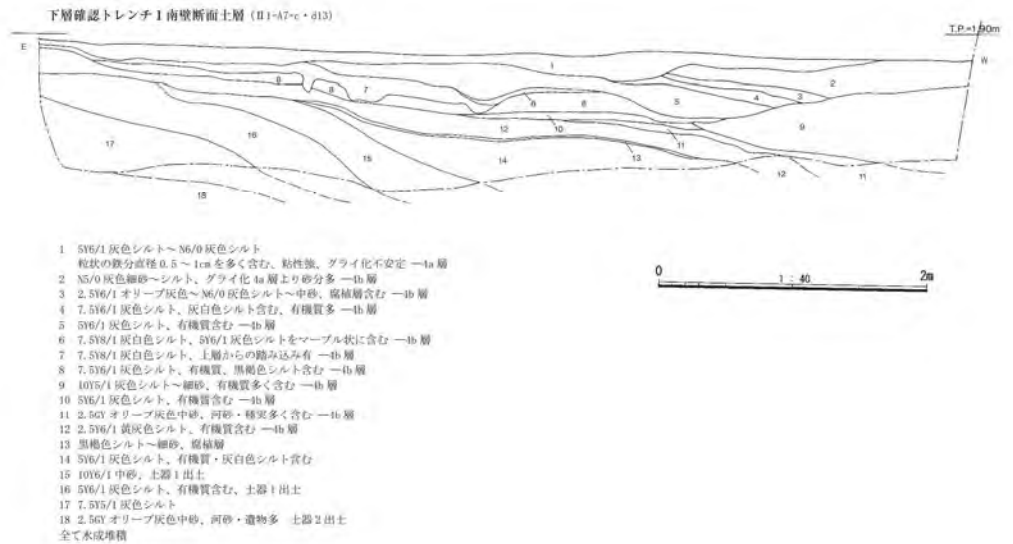


図 19 井辺遺跡 遺構断面土層図 1 (2010-2 区)

図 20 井辺遺跡 遺構断面土層図 2 (2010-1区)

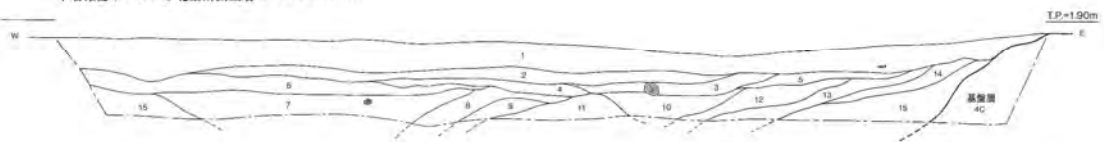


下層確認トレンチ2北壁断面土層 (II1-A1-a・b・c20)



- | | |
|--|------------------------------|
| 1 7.5V7/1 灰色シルト、鉄分多く含む、グライ化 | 9 7.5V3/1 オリーブ黒色シルト |
| 2 7.5V6/1 灰色シルト、細砂混じる | 10 7.5V6/1 灰色シルト、細砂・有機質を多く含む |
| 3 7.5V6/1 灰色シルト～細砂、浅黄色シルトブロック直径0.5～1cmを含む | 11 7.5V5/2 灰オリーブ色シルト |
| 4 7.5V5/1 灰色細砂、有機質を含む | 12 7.5V6/1 灰色シルト |
| 5 7.5V5/1 灰色シルト、7.5V3/1 オリーブ黒色シルト・有機質を多く含む | 13 10V5/1 灰色シルト～細砂 |
| 6 7.5V7/1 灰白色シルト、白いシルト層 | 14 2.50V6/1 オリーブ灰色シルト |
| 7 7.5V5/1 灰色シルト、オリーブ黒色シルト・有機質を多く含む | 15 2.50V6/1 オリーブ灰色シルト |
| 8 10V5/1 灰色シルト～細砂、有機質を多く含む | 16 50V6/1 緑灰色シルト |

下層確認トレンチ3北壁断面土層 (II1-A7-b・c・d17)



- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 7.5V7/1 灰色シルト | 9 2.50V6/1 オリーブ灰色細砂～中砂 |
| 2 5V6/1 灰色シルト | 10 10V6/1 灰色シルト、浅黄色シルトブロック・有機質多く含む |
| 3 5V5/1 灰色シルト、浅黄色シルトブロック・有機質含む | 11 7.5V5/1 灰色シルト、ラミナ有り |
| 4 5V6/1 灰色シルト、オリーブ色シルト・有機質含む | 12 10V6/1 灰色細砂、ラミナ有り |
| 5 7.5V5/1 灰色中砂+5V7/3 浅黄色細砂 | 13 5V5/1 灰色シルト |
| 6 5V5/1 灰色シルト～細砂、シルト・有機質多く混じる | 14 5V6/1 オリーブ黄色中砂 |
| 7 5V6/1 灰色シルト～中砂、シルト～細砂互層、ラミナ発達 | 15 10V6/1 灰色シルト～細砂 |
| 8 10V6/1 灰色シルト、混じり少ない | |

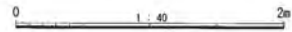
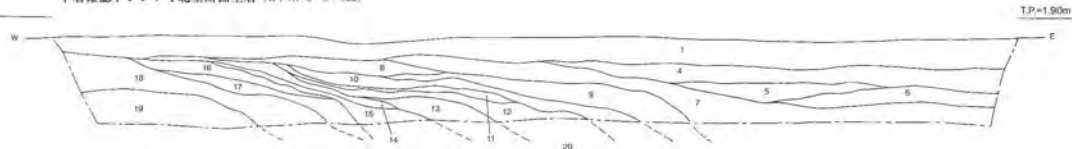


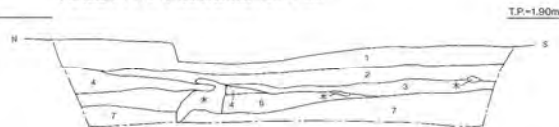
図 21 井辺遺跡 遺構断面土層図 3 (2010-2区)

下層確認トレンチ4北壁断面土層 (H1-A7-a・b・c22)



- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 7.5Y7/1 灰白色シルト～7.5Y6/1 灰色シルト、鉄分粒状を含む—la層 | 11 7.5Y5/1 灰色細砂～中砂、ラミナ有 |
| 2 5Y6/1 灰色シルト、鉄分粒状に少量含む | 12 7.5Y6/1 灰色シルト |
| 3 灰色シルト～細砂、淡黄色シルトブロック・有機質を含む | 13 7.5Y6/1 灰色シルト+7.5Y5/1 灰色細砂～中砂、ラミナ有 |
| 4 7.5Y5/1 灰色シルト、有機質を含む | 14 7.5Y5/1 灰色細砂～中砂+5Y6/3 オリーブ黄色中砂 |
| 5 7.5Y7/1 灰白色シルト、黒褐色有機質を層状に含む | 15 7.5Y6/1 灰色シルト |
| 6 7.5Y6/1 灰色細砂～中砂 | 16 7.5Y5/1 灰色細砂～中砂+5Y6/3 オリーブ黄色中砂 |
| 7 7.5Y6/1 灰色シルト+7.5Y5/1 灰色細砂～中砂、ツミナ発達 | 17 5Y6/1 灰色粗砂、ラミナ有 |
| 8 7.5Y6/1 灰色シルト | ※ 11～17 はラミナ状に砂・シルトが堆積 |
| | 18 5Y7/1 灰白色シルト、波じりなし |
| | 19 5Y5/1 灰色シルト、黒褐色有機質を含む |
| | 20 5Y6/1 灰色粗砂、遺物多、直径0.5～1cmの円礫を多く含む |
| | G.L. 上り-1.90 ～-1.30m |

下層確認トレンチ4東壁断面土層 (H1-A7-a22)



- 上層・土質は北壁に対応する
- | |
|--|
| 1 7.5Y7/1 灰白色シルト～7.5Y6/1 灰色シルト、鉄分粒状を含む—la層 |
| 2 7.5Y6/1 灰色シルト～細砂、鉄分粒状に多く含む |
| 3 7.5Y6/1 灰色シルト～細砂、鉄分粒状に多く含む |
| 4 5Y6/1 灰色シルト、鉄分粒状に少量含む |
| 5 7.5Y5/1 灰色シルト、有機質を含む |
| 6 7.5Y7/1 灰白色シルト、黒褐色有機質を層状に含む |

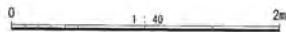


図22 井辺遺跡 遺構断面土層図4 (2010-2区)

表5 井辺遺跡 2010-1・2区 各層序別遺物数量

層序要素 遺物層序 整地層・埋積層	大凡の時代		弥生前期・中期										弥生後期・終末期 (庄内式含む)										古墳 (布留式～)					奈良・平安					平安末・鎌倉・室町					江戸					備 考
	弥生土器		石 器・ 剥片・ 他	弥生土器										土 器	須 恵 器	其 の 他 ・ 不 明	土 師	黒 色 土 器	須 恵 器	其 の 他 ・ 不 明	土 師	瓦 器	土 師	其 の 他 ・ 不 明	土 師	陶 器	其 の 他 ・ 不 明	土 師	陶 器	其 の 他 ・ 不 明	不 明	合 計											
	前 期	中 期		小 計	差 懸	環	鉢	鉢	其 の 他 ・ 不 明	小 計	土 師	須 恵 器	其 の 他 ・ 不 明																				小 計	土 師	黒 色 土 器	須 恵 器	其 の 他 ・ 不 明	小 計	土 師	瓦 器	土 師	其 の 他 ・ 不 明	
1 6溝	0	0	0	5	16	0	0	0	2	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23								
2 遺構1～4他	0	0	0	12	50	13	0	0	6	0	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81									
小計	0	0	0	17	66	13	0	0	8	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104										
3 自然流路土器溜り地	0	0	0	386	1680	79	6	0	1	0	2152	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2154										
4 自然流路下層砂層関係	1	0	0	83	522	26	0	0	15	0	646	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	647										
5 自然流路下層関係	0	0	0	33	113	11	0	0	19	0	176	49	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	27	253												
6 自然流路4層下部係	0	0	0	4	19	1	1	0	1	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	26										
7 自然流路1・2層、4層関係	0	0	0	37	89	4	6	0	25	0	161	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	164										
小計	1	0	0	1543	2423	121	13	0	61	0	3161	54	0	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	1	27	3244													
8 遺物包含層4層関係	0	0	0	16	35	3	1	0	43	1	99	7	0	0	7	0	1	0	0	1	3	1	0	5	9	0	1	0	1	7	124												
9 遺物包含層3層関係	0	0	0	6	10	3	0	0	26	0	45	15	5	0	20	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	2	4	73													
10 遺物包含層1・2層関係	0	0	0	6	3	0	0	0	14	0	23	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	10	2	3	24	29	1	67											
小計	0	0	0	28	48	6	1	0	83	1	167	25	6	0	31	0	1	0	0	1	4	11	0	6	21	2	4	26	32	12	264												
合計	1	0	0	1989	3537	140	14	0	152	1	3432	79	6	0	85	0	1	0	0	1	4	11	0	6	21	2	4	27	33	39	3612												

第3節 井辺遺跡 2011-3・4区の調査成果

1 調査の概要

調査地位置 (図4・23)

井辺遺跡 2011-3・4区は、今次の調査区では北に位置する調査区であり、井辺遺跡の遺跡範囲に相当する。井辺遺跡 2010-1・2区は、道路を挟んで南側に当たり、井辺遺跡県3次調査地(湊神前線)とは西側で接する。

県3次調査地付近から調査区 2011-3区の西側部分にかけては、南北に延びる微高地を形成している。この微高地より南東側は緩やかな傾斜が存在し、微高地部分から調査区南東部分にかけては約0.7~0.8mの比高差が存在し、谷状地形を形成していたとみられる。県3次調査において検出された竪穴建物の状況から、微高地は近世段階に大きく削平を受けており、本来は約1.2m以上の比高差が存在したものとみられる。

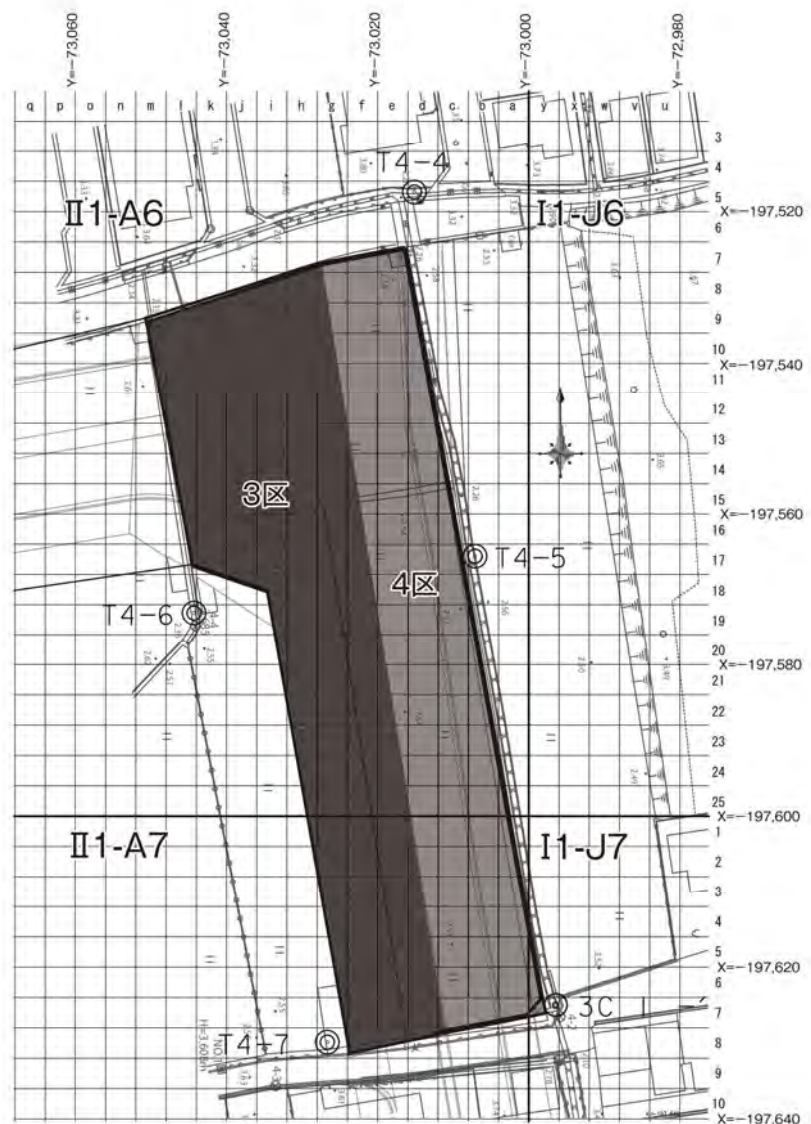


図23 井辺遺跡 2011-3・4区 地区割図(4m区画)(1:1,000)

検出遺構の概要 (図25・26)

井辺遺跡 2011-3・4区では、弥生時代後期から古墳時代前・中期にかけての溝6条および自然流路、古墳時代後期の畑と考えられる畝状遺構及び土坑列を検出した。西側隣接地の井辺遺跡県3次調査(湊神前線)では、竪穴建物3棟以上を検出しており、今回の調査区と合わせて、不明であった井辺遺跡西側部分の集落の様相を明らかにできたといえる。井辺遺跡西側部分の集落では、弥生時代後期後半に集落が出現し、終末期にピークを迎え、古墳時代前期にも継続するという集落の動向を確認している。

竪穴建物と掘立柱建物からなる居住域は、調査区北西から西側に存在する微高地上に位置している。

竪穴建物が存在する居住域からは、南東方向には緩やかな傾斜が存在し、その傾斜変換点付近に 3001 溝が、傾斜裾部分には、3005・3065・3092・3097・4260・4271 溝が掘削されている。3001 溝は、断面形は二段掘りの南北方向に延びる溝で、複数回に渡り再掘削が行われたと考えられる。また、3005・3065・3092・3097・4260・4271 溝は、断面形は緩やかな U 字形を呈する南北方向の溝でほぼ同規模の溝である。これらの溝は平行して延び、途中屈曲し、南西方向へ流れを変える。おそらく、調査区北西側から西側に存在する微高地に沿って延びていたためと考えられる。また、溝の屈曲部分には小溝が接続し、互いの溝をつないでおり、溝間で水流を分岐させていたと考えられる。溝の性格については、居住域の周辺に掘削された用水・排水路と考えられ、複数条が同時期に存在していた可能性が高い。

溝の埋没後、少し時代の下った古墳時代後期以降には、畑跡と考えられる畝状痕跡を検出しており、居住域の存在する微高地周辺の斜面は、畑地として利用されたことがうかがえる。

一方、調査地の南から南東部分では、幅員 10～12 m 前後の 4259 自然流路を検出しており、井辺遺跡 1 次調査においても、この自然流路の延長を検出している。この自然流路は、弥生時代後期後半には、流水状態で機能しており、弥生時代終末期以降に水流が弱まり滞水状況を呈し、徐々に埋没していったことがうかがえる。最終埋没時期から、古墳時代中期以降には湿地となっていったと推定される。この自然流路からは、多量の完存品の土器とともに、木製品・建築部材が出土しており、集落縁辺部における自然流路の水利用について具体的な材料を提供することとなった。

2 基本層序と遺構面 (図 24、写真図版 14-1・2)

井辺遺跡 2011-3・4 区の現況は、水田跡である。調査区周辺には、宅地造成による盛土が厚く存在し、調査地の水田面より約 1.0～1.2 m 程度の比高が存在する。基本層序は、確認調査の成果を踏まえ、以下の通り把握した。

第 0 層：現代の水田耕作土の盛土である。現代の耕作土の上層に部分的に存在する。

第 1 層：現代耕作土であり、灰色の細砂～シルト層からなる耕作土と、褐色～明黄褐色細砂の床土に細分される。床土は薄く残存箇所も少ない。現代造成土とは反対に南から北へと勾配をもつ。この地形の勾配は第 1 層以下同様である。

第 2 層：中世以降に堆積したと考えられる旧耕作土である。第 2 層は、灰白色～明オリーブ灰色の細砂～シルトからなる第 2a 層、浅黄色の細砂～シルトからなる第 2b 層、灰色の ϕ 1～2 cm の鉄分を含むシルトからなる第 2c 層に細分される。

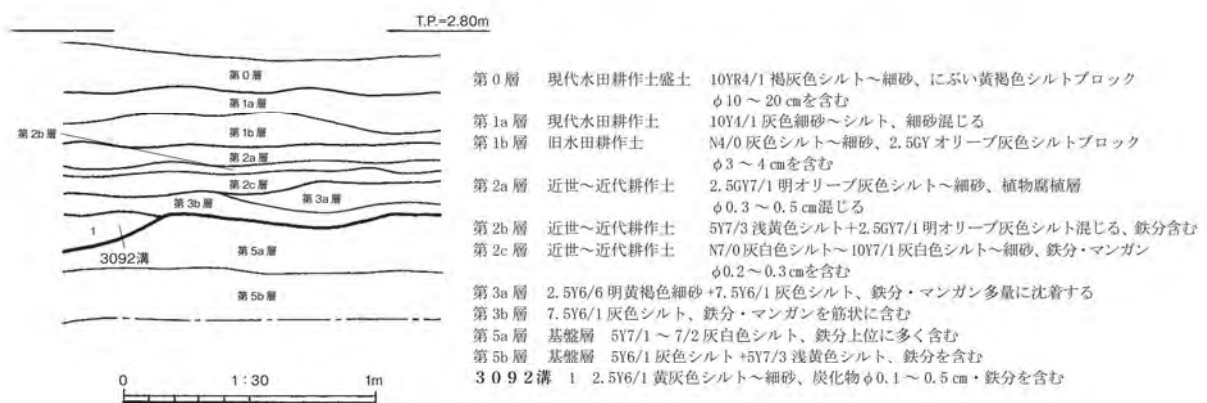


図 24 井辺遺跡 2011-3・4 区の基本層序 (2011-3 区調査区西壁断面土層)

第3層：古墳時代以降に堆積したと考えられる水成堆積層である。灰色細砂～シルトからなるグライ化した第3a層、灰色シルト及び、明黄褐色の鉄分が多く沈着した第3b層に細分される。

第4層：調査区北西部分で認められる堆積層であり、調査区の大半部分では第4層は認められず、第3層下で第5層が認められる。3001溝付近で地形の傾斜が認められ、それより西側では認められない。灰白色及び明黄褐色の細砂からなりマンガン・鉄分を多く含む。

第5層：弥生時代後期以前に堆積したと考えられる堆積層で、基盤層と考えられる。グライ化した単一の緑灰色シルトで構成される。

掘削手順 遺構検出は、第4層上面及び、第4層不在箇所では第5層上面で行った。基盤層である第4層及び第5層は、調査区北西で標高約2.3m、調査区南東付近では標高1.5mを測り、北西から南東へと緩やかな傾斜が存在し、南東部分で谷状地形を呈する。県3次調査の状況から判断して、第4層が存在する範囲に微高地が存在したものと考えられる。南東部分の谷状地形では、最も低い部分で自然流路を検出した。

3 各遺構の調査成果（図24～50・54～122、表6～16、写真図版11～31・35～78）

検出した遺構は、微高地縁辺部分から広がる緩斜面上において検出しており、弥生時代後期後半から古墳時代前・中期にかけての溝6条、土坑、谷状地形を流れる自然流路の他、古墳時代後期の畑と考えられる畝状遺構、土坑列、小溝、土坑、平安時代の井戸、土坑等を検出した。なお、2011-3・4区は、区画の大半がⅡ1区画に所在するため、記述に当たっては「Ⅱ1」を省く場合がある。

3001溝（図25～27・39・55・56、表6・12・13、写真図版14・36・37）

3001溝周辺には第4層が存在しており微高地縁辺部分とみられるが、溝の東側より次第に傾斜が見られ第4層が確認できなくなる。

3001溝は、2011-3区の西端Ⅱ1-A6-k 10～17・ℓ 9～15に位置し、調査区北西端からはほぼ南方向に緩やかに弧を描いて延び、検出延長34.0m、幅員2.10～3.10mを測る。溝の断面形は、緩やかなU字形（西側2段）を呈し、深さ0.68～0.80mを測る。

3001溝は、3002～3004・3135・3136土坑より古い。溝の堆積埋土は、灰白色シルトから黄灰色シルトを呈し、溝基底部にはシルト混じりの黄灰色中砂・灰粗砂層が存在しており、流水状態にあったものと考えられる。堆積埋土は、検出場所により11～17層（最上層・上層・中層・下層・最下層に大別）に区分される（図39）。溝の断面土層観察からは、掘削・再掘削が行われ複数回にわたり溝が機能していたと考えられ、2段の箱掘りから、緩やかなU字形の溝へと変化していく。

遺物は、溝の堆積埋土の下層・中層（地点取り上げ含む）に該当する層位で、比較的多く廃棄された状態で検出された。溝基底部（最下層）での遺物出土量は少ない。このことから溝の機能の喪失に伴って上層の土器が廃棄されたものとみられる。遺物は、図27・表6にみるように、A6-k 14区画に最も多く、A6-k 11・ℓ 11区画～A6-k 16区画に比較的多い状態にある。

2011-3区3001溝の出土遺物は、弥生土器・土師器と僅かな石器・石製品で構成され、最下層・下層（地点取り上げ含む）・中層（地点取り上げ含む）・上層に区分され取り上げられる。遺物の出土量は、比較的多量である。

3001溝の出土遺物は、最下層105点・下層（地点取り上げ含む）1,471点・中層（地点取り上げ含む）1,622点・上層1,065点、合計4,245点、総数4,263点（区画不明分を含む）を数える。

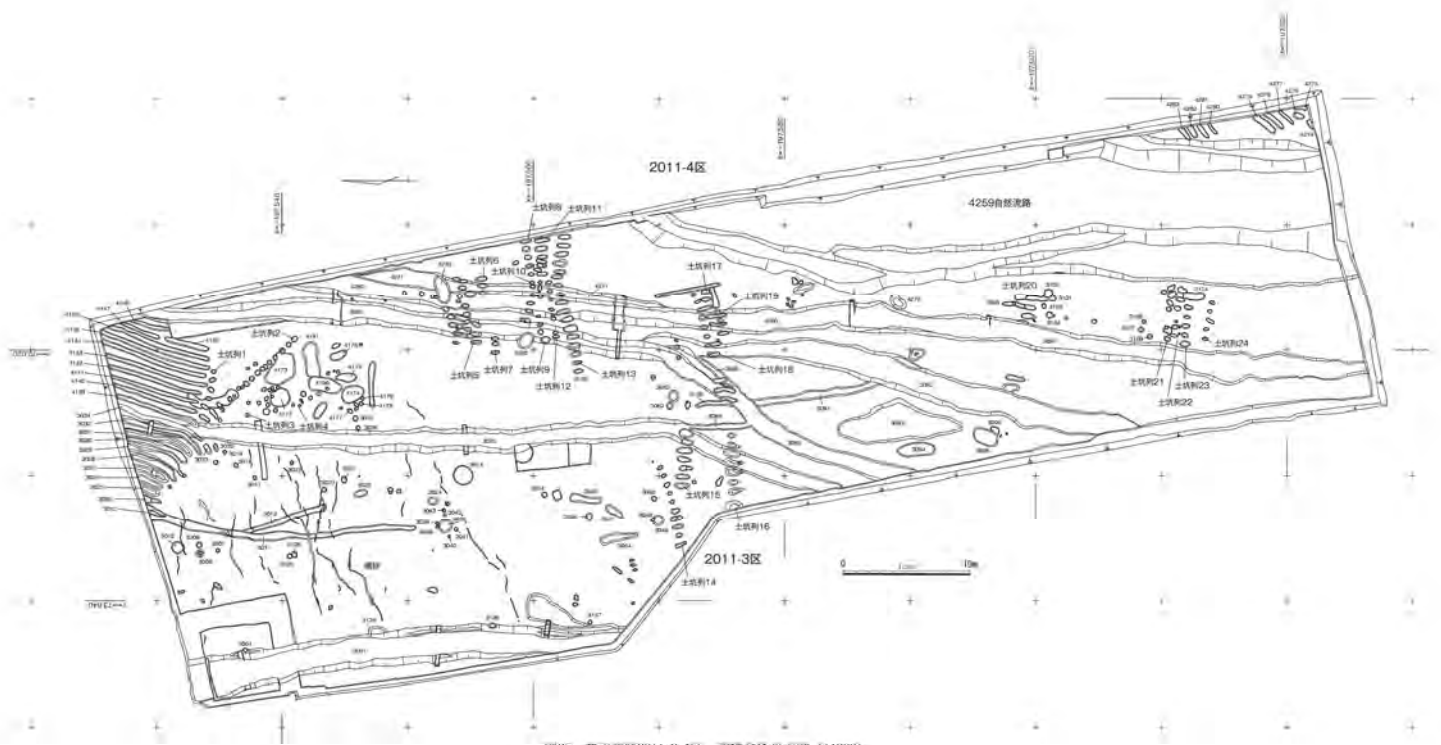


图25 开边道路2011-3·4区 遗址整体平面图 (1:300)

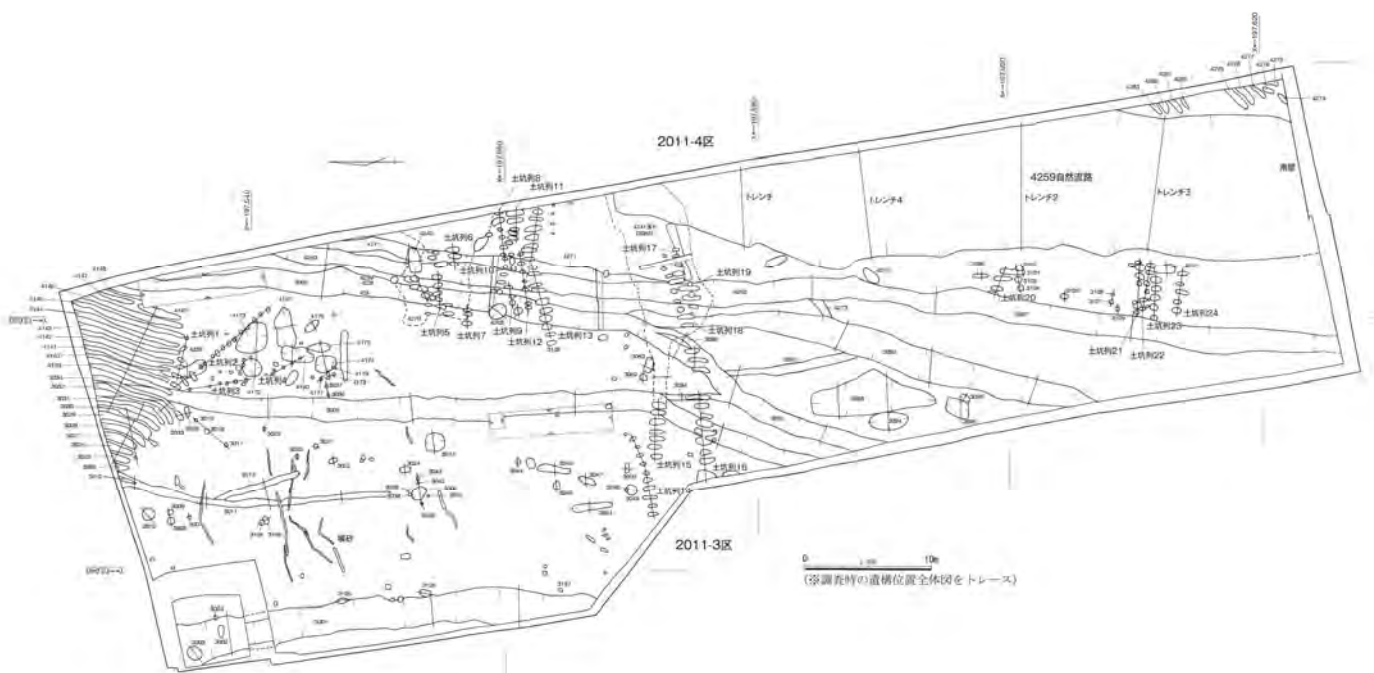


図26 井辺遺跡2011-3・4区 各遺構断面位置図 (1:300)

総数4,263点の内、弥生時代前期（I様式）と判断した土器1点、弥生時代後期～終末期（庄内式併行期）と判断した土器・石器3,417点、古墳時代前期（布留式併行期）～後期と判断した土器843点、平安時代末・鎌倉・室町時代と判断した土器2点である。

遺物（土器）の遺存状態

3001溝の出土遺物（土器）全体に、器面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。特に、上層出土遺物は、器種の不明な細片が多く、より剥離・磨滅の極めて著しい土器である。

遺物（土器）の接合関係

3001溝の地点取り上げ（個別取り上げ）土器は、異なる地点での接合関係（3例）及び異なる層位での接合関係（2例）は極めて少ない。このことから、3001溝遺物は、遺物の遺存状態を含めて考えると、完存度の高い土器と破損度の高い土器の両者が廃棄されたものである。

土器の器種構成（表12・13）

3001溝の出土遺物（土器）の器種構成は、甕（布留式甕含む）・壺・高坏が主要器種となり、それらを補完する鉢・小型丸底土器・器台・小型器台・手焙形土器・手捏ね土器・土製支脚で構成される。

全層位を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器・石器3,417点の内、器種を判断した土器2,831点（土製支脚1点・土錘2点・不明577点、石器6点は省く）全体の中に占める甕1,691点の比率（59.7%）が極めて高く、壺961点（33.9%）・

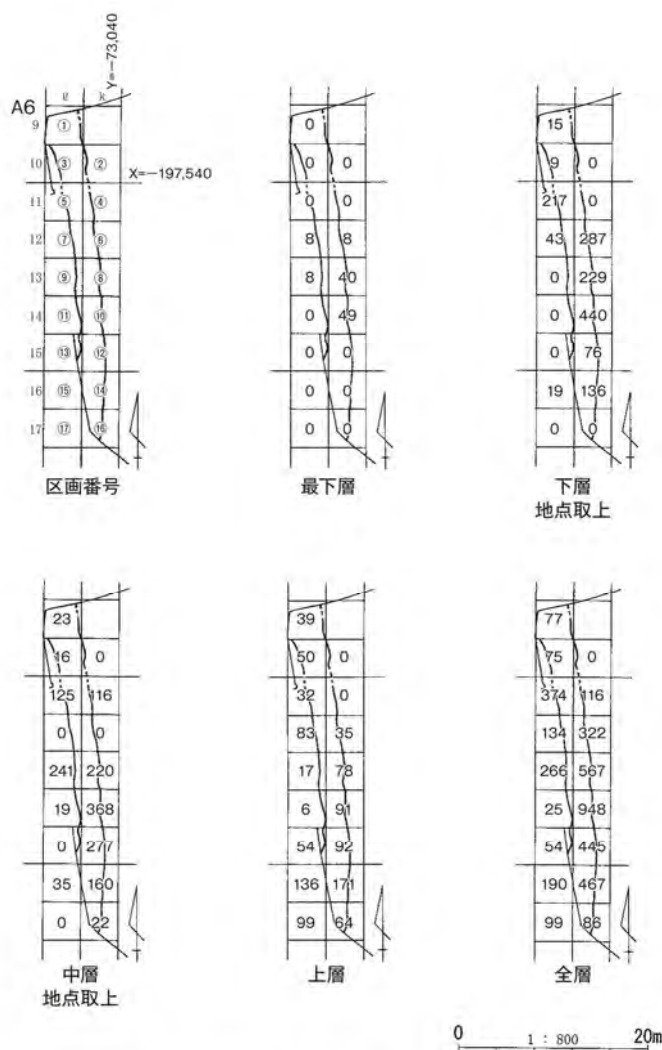


図27 井辺遺跡 2011-3区 3001溝層序別遺物分布図

表6 井辺遺跡 2011-3区 3001溝層序別遺物分布

区画番号	区画	最下層	下層 地点取上	中層 地点取上	上層	全層
1	A 6-l 9	0	15	23	39	77
2	A 6-k 10	0	0	0	0	0
3	A 6-l 10	0	9	16	50	75
4	A 6-k 11	0	0	116	0	116
5	A 6-l 11	0	217	125	32	374
6	A 6-k 12	0	287	0	35	322
7	A 6-l 12	8	43	0	83	134
8	A 6-k 13	40	229	220	78	567
9	A 6-l 13	8	0	241	17	266
10	A 6-k 14	49	440	368	91	948
11	A 6-l 14	0	0	19	6	25
12	A 6-k 15	0	76	277	92	445
13	A 6-l 15	0	0	0	54	54
14	A 6-k 16	0	136	160	171	467
15	A 6-l 16	0	19	35	136	190
16	A 6-k 17	0	0	22	64	86
17	A 6-l 17	0	0	0	99	99
	合計	105	1,471	1,622	1,047	4,245

高坏 158 点 (5.6%)・鉢 17 点 (0.6%)・器台 1 点 (0.1%以下)・手焙形土器 1 点 (0.1%以下)・手捏ね土器 2 点 (0.1%以下) である。

全層位を対象として古墳時代前期～後期と判断した土器 843 点の内、古墳時代前期として器種を判断した 754 点 (不明 28 点・製塩土器 1 点・古墳時代後期の甕 57 点・カマド 2 点・須恵器 1 点は省く) 全体の中に占める甕 395 点の比率 (52.4%) が比較的高く、壺 176 点 (23.3%)・布留式甕 80 点 (10.6%)・高坏 93 点 (12.3%)・小型丸底土器 6 点 (0.8%)・小型器台 4 点 (0.5%) である。

また、胎土・形態的特徴から搬入土器 (生駒山西麓産土器・阿波系土器・大和南西部土器・東海系土器他) と認識できる土器は存在しない。

土器の形態構成

3001 溝の出土遺物 (土器) は、形態を把握できる個体数が少ないこと、最下層及び下層・中層・上層に布留式甕 (130・153・170・171) を含むことから全ての層位を対象として記述する。

壺 (117・118・121～126・137～144・166～168) 壺 72 点 (形態の把握できる母数) は、形態分類から広口壺 15 点 (20.8%)・小型広口壺 11 点 (15.3%)・二重口縁壺 8 点 (11.1%)・直口壺 16 点 (22.2%)・短頸壺 22 点 (30.6%) で構成される。

甕 (128・129・147～151・154・155・169) 甕の形態分類は、行っていない。口縁部形態が受け口を呈する器形は、存在しない。大型・中型の甕では、肩部の張りが左右非対称となる歪な形態が多く認められる。

布留式甕 (130・153・170・171) 布留式甕の口縁端部の肥厚は、比較的大きい形態が主体を占める。胎土に 1mm 前後の砂粒 (結晶片岩・石英・長石) を多量に含む。紀の川下流域の典型的な布留式甕と考えられる一群である。

高坏 (131・156～163) 高坏 28 点 (形態の把握できる母数) は、調査区西壁出土の V-4 様式と判断した高坏 (172) は省いて考える。坏部形態が、有稜口縁 27 点と有段口縁 1 点に二分される。高坏 (157～163) の坏部及び脚台部外面には、非常に細かく丁寧な回転を伴うヘラミガキ調整で整えられることを通例とする。

出土遺物の時期

3001 溝の最下層遺物 (土器) は、直口壺 (117・118) 等に弥生時代後期後半の特徴をもつものの、概ね弥生時代後期末～終末期と判断した。

下層遺物 (土器) は、布留式甕 (130) を含むものの、広口壺 (121～123)、直口壺 (124)、二重口縁壺 (125・126)、土製支脚 (136) 等の弥生時代後期末～終末期と判断した土器が主体を成す。

中層遺物 (土器) は、弥生時代後期末～終末期と判断した土器を多く含むものの、布留式甕の存在 (口縁端部の形状)・有稜高坏・小型器台等の形態的諸特徴から布留式併行期古段階の様相を示しつつも概ね布留式併行期中段階に位置付けられる遺物群である。

上層遺物 (土器) は、細片が多く接合率が低い。大半が庄内式併行期新段階～布留式併行期中段階に位置付けられるが、僅かに布留式併行期新段階の様相を示す布留式甕 (171) (口縁端部の形状) を含むことから、3001 溝の最終埋没が布留式併行期新段階にあったものと考えられる。明確に古墳時代後期の土器と認識できるもの (土師器甕・カマド・須恵器) は、重複遺構の掘り残しがあったものと考えられるのが妥当である。

3005溝 (図25・26・28・40・54、表7・12～15、写真図版15・35)

2011-3・4区3005溝は、2011-4区の北西端から2011-3区の中央西端Ⅱ1-A6-g7～20・h19～22に位置し、調査区北端から南方向に直線的に延び、南側A6-g18～20・h19～20でやや屈曲する。屈曲部分では3084小溝が取りつき南へ延びる。この小溝は3005溝に並行して延びる3065溝にも取りつくことから、3005溝から3065溝へと分水する溝の役割を果たしていたと考えられる。3005溝は、検出延長57.5m、幅員1.42～1.76mを測る。溝の断面形は、U字形を呈し、深さ0.36～0.57mを測る。

3005溝は、3032・3034・4139畝状遺構・3079・3080・3086・3087・3089・3090土坑・4241落ち込み(3066溝状遺構)より古い。溝の堆積埋土は、黄灰色細砂から灰白色シルトを呈し、埋土の堆積も水平で比較的緩やかな流れであったと推定される。堆積埋土は、検出場所により3～6層(上層・中層・下層に大別)に区分される(図40)。

遺物は、溝の堆積埋土の中層(地点取り上げを含む)・上層に該当する層位で、比較的多く廃棄された状態で検出された。溝基底部(下層)での遺物出土量は少ない。このことから溝の機能の喪失に伴って上層の土器が廃棄されたものとみられる。遺物は、図28・表7にみるように、中層ではA6-g10区画に最も多く、上層ではA6-g15区画に比較的多い状態にある。

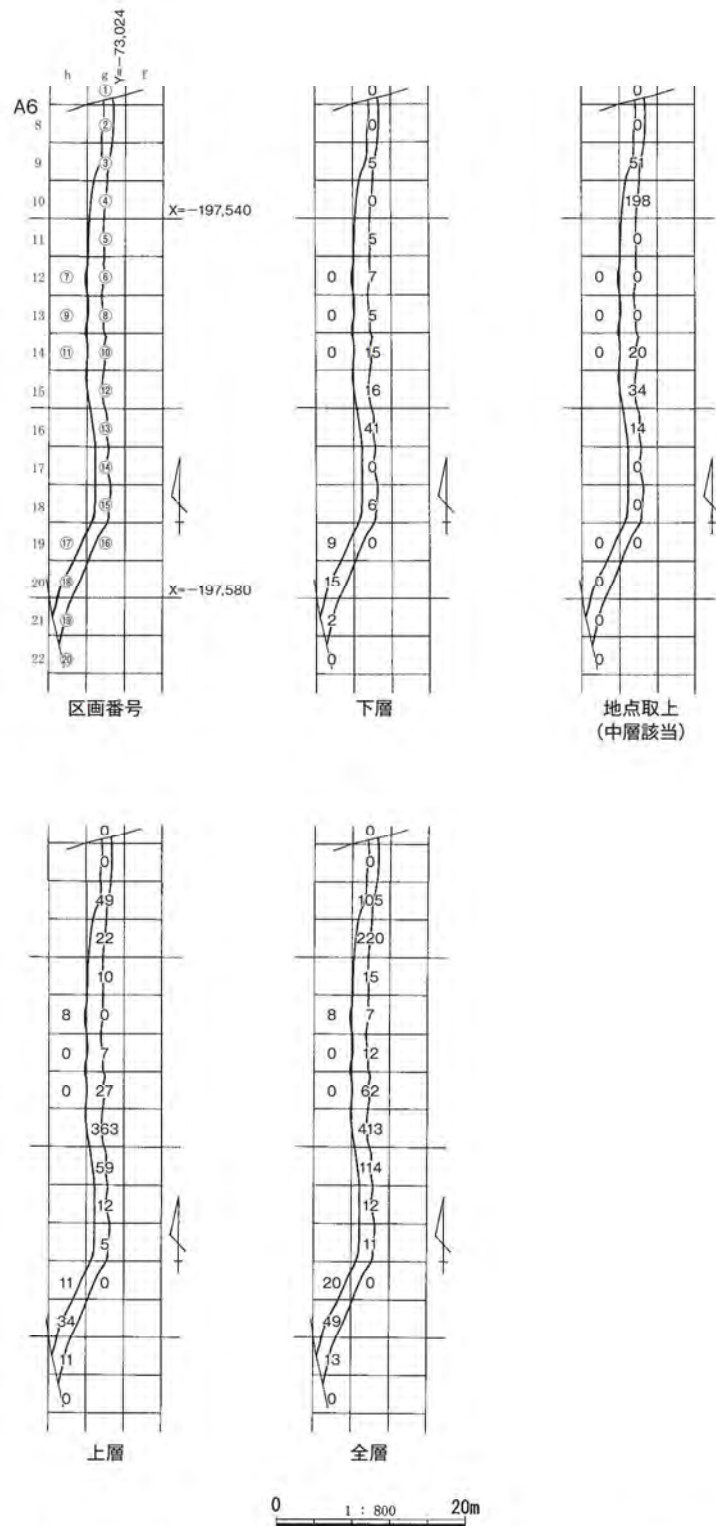


図28 井辺遺跡 2011-3・4区 3005溝層序別遺物分布図

表7 井辺遺跡 2011-3・4区 3005 溝層序別遺物分布

区画 番号	区画	下層	地点取上 (中層該当)	上層	全層
1	A 6-g7	0	0	0	0
2	A 6-g8	0	0	0	0
3	A 6-g9	5	51	49	105
4	A 6-g10	0	198	22	220
5	A 6-g11	5	0	10	15
6	A 6-g12	7	0	0	7
7	A 6-h12	0	0	8	8
8	A 6-g13	5	0	7	12
9	A 6-h13	0	0	0	0
10	A 6-g14	15	20	27	62
11	A 6-h14	0	0	0	0
12	A 6-g15	16	34	363	413
13	A 6-g16	41	14	59	114
14	A 6-g17	0	0	12	12
15	A 6-g18	6	0	5	11
16	A 6-g19	0	0	0	0
17	A 6-h19	9	0	11	20
18	A 6-h20	15	0	34	49
19	A 6-h21	2	0	11	13
20	A 6-h22	0	0	0	0
	合計	126	317	618	1,061

2011-3・4区 3005 溝出土遺物は、弥生土器と僅かな土師器で構成され、下層・中層（地点取り上げ含む）・上層に区分され取り上げられる。遺物の出土量は、比較的少量である。

2011-3・4区 3005 溝の出土遺物は、下層 126 点・中層（地点取り上げ含む）317 点・上層 618 点、合計総数 1,061 点（区画不明分なし）を数える。

総数 1,061 点の内、弥生時代後期～終末期と判断した土器 1,040 点、古墳時代前期（布留式併行期）と判断した土器 21 点である。

遺物（土器）の遺存状態

3005 溝の出土遺物（土器）全体に、器面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。

特に、上層出土遺物は、器種の不明な細片が多く、より剥離・磨滅の極めて著しい土器である。

遺物（土器）の接合関係

3005 溝の地点取り上げ（個別取り上げ）土器は、異なる地点での接合関係が確認できない。また、異なる層位での接合関係（1 例）は極めて少ない。このことから、3005 溝遺物は、遺物の遺存状態を含めて考えると、完存度の高い土器と破損度の高い土器の両者が廃棄されたものである。

土器の器種構成（表 12～15）

3005 溝の出土遺物（土器）の器種構成は、甕・壺・高坏が主要器種となり、それらを補完する鉢で構成される。

全層位を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器 1,040 点の内、器種を判断した土器 901 点（不明 139 点は省く）全体の中に占める甕 528 点の比率（58.6%）が極めて高く、壺 316 点（35.1%）・高坏 43 点（4.8%）・鉢 14 点（1.6%）である。（115・116）は、稀な形態であるが形態的特徴から鉢と判断した器種である。和歌山県の既出の資料では見られず初例である。

全層位を対象として古墳時代前期（布留式併行期）と判断した土器 21 点の内、全体の中に占める甕 19 点、壺 1 点である。

また、胎土・形態的特徴から搬入土器（生駒山西麓産土器・阿波系土器・大和南西部・東海系土器他）と認識できる土器は存在しない。

土器の形態構成

3005 溝の出土遺物（土器）は、形態を把握できる個体数が少ないことから全ての層位を対象として記述する。

壺（106～110・113） 壺 55 点（形態の把握できる母数）は、形態分類から全て広口壺で構成される。

甕（111・112） 甕の形態分類は、行っていない。口縁部形態が受け口を呈する器形は、存在しない。

高坏（103・104・114） 高坏 11 点（形態の把握できる母数）は、V-5 様式と判断した 1 点（114）は省いて考える。坏部形態が、有稜口縁 7 点と椀形口縁 4 点に二分される。

出土遺物の時期

3005溝の下層・中層遺物（土器）は、多くの弥生時代後期末～終末期と判断した土器を含むこと、太頸壺（108）の存在（口縁端部の形状）・有稜高坏等の形態的諸特徴から弥生時代後期末～終末期の様相を示す遺物群である。

3065溝（図25・26・29・32・40・41・57～59、表8・12～15、写真図版16・18・19・38～40）

2011-3・4区

3065溝は、2011-4区の北東端から2011-3区の中央西端II 1-A6-d 11・12・e 8～18・f 16～20・g 20・21・h 21～23に位置し、調査区北東端から南西方向に緩やかに蛇行して延び、南側A6-f 18～20・g 20・21でやや屈曲する。屈曲部分では3092溝と3088小溝が枝分かれし、3092溝は南方向へ延び、3088小溝は、再び3065溝に合流する。さらに3065溝と3092溝には3091小溝が取りつく。3065溝は、検出延長61.0m、幅員0.94～2.02mを測る。溝の断面形は、浅いU字形を呈し、深さ0.32～0.37mを測る。

3065溝は、4241落ち込み（3066溝状遺構）4270落ち込み・3091・3138溝

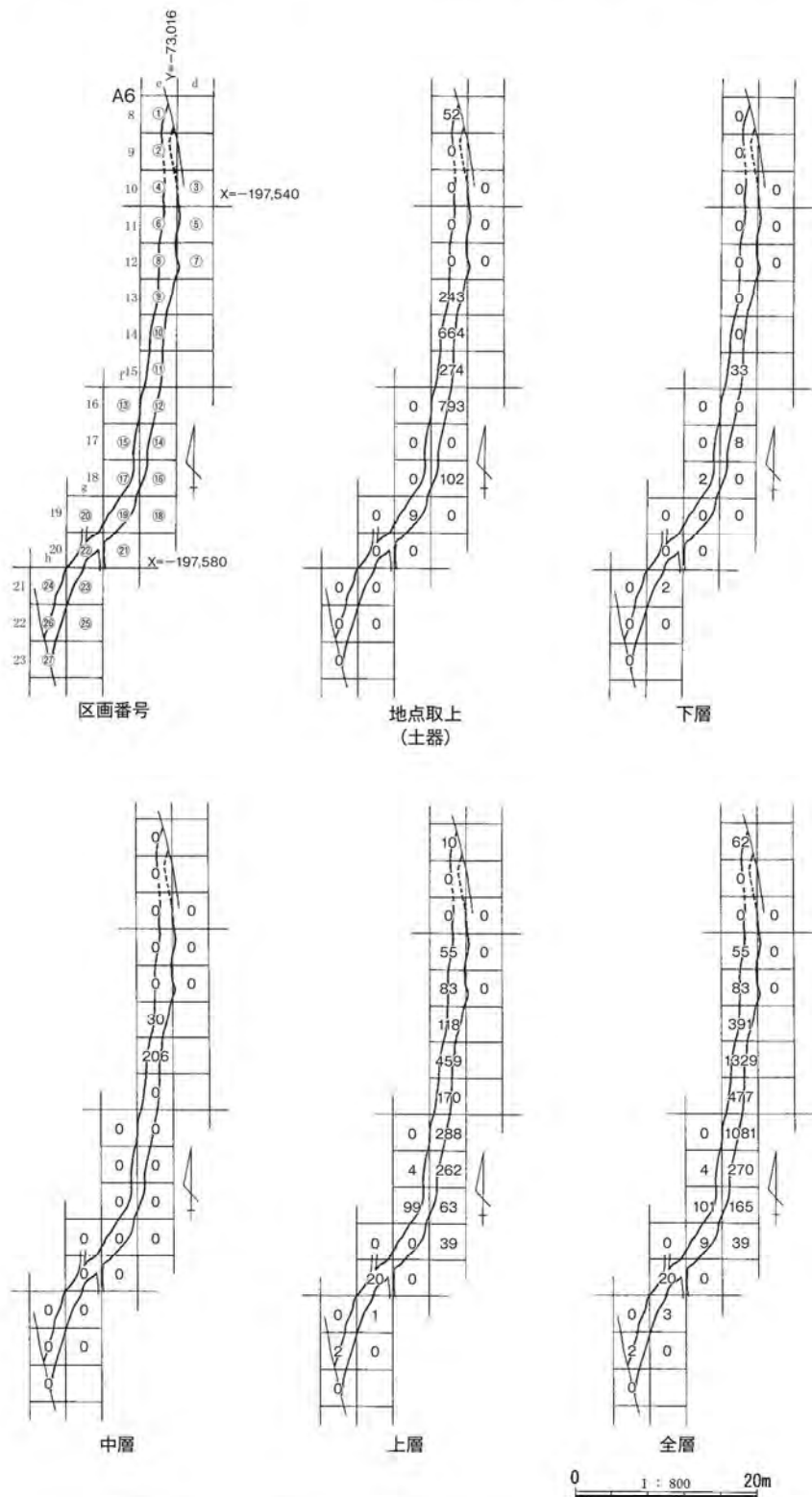


図29 井辺遺跡2011-3・4区 3065溝層序別遺物分布図

より古い。溝の堆積埋土は、鉄分を多く含む灰色シルトから灰白色シルトを呈し、埋土の堆積も水平である。堆積埋土は、検出場所により2～6層（上層・中層・下層に大別）に区分される（図40・41）。

遺物は、溝の堆積埋土の中層（地点取り上げを含む）・上層に該当する層位で、比較的多く廃棄された状態で検出された。溝基底部（下層）での遺物出土量は少ない。このことから中層の土器の廃棄に伴って溝の機能が喪失し、さらに上層の土器が廃棄されたものとみられる。遺物は、図29・表8にみるように、地点取り上げではA6-e13～A6-e16区画に多く、上層ではA6-e13～A6-e17区画に多い状態にある。

2011-3・4区3065溝の出土遺物は、弥生土器と僅かな石器で構成され、下層・中層（地点取り上げ含む）・上層に区分され取り上げられる。遺物の出土量は、比較的多量である。

3065溝の出土遺物は、地点取り上げ2,137点・下層45点・中層236点・上層1,682点、合計総数4,100点（区画不明分を含む）を数える。

総数4,100点の内、弥生時代後期～終末期と判断した土器4,088点・石器2点、古墳時代後期と判断した須恵器1点である。

遺物（土器）の遺存状態

3065溝の出土遺物（土器）全体に、器面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。特に、上層出土遺物は、器種の不明な細片が多く、より剥離・磨滅の極めて著しい土器である。

遺物（土器）の接合関係

3065溝の出土遺物（土器）は、調査現地では完存品が多く見受けられるような観察であった。しかし、接合作業においては個体に復元できる物は少なく、上記の遺存状態と相まって完存品に復元できる物は数が限られる結果となった。

地点取り上げ（個別取り上げ）土器は、地点取り上げ土器同士・地点取り上げ土器と中層、或いは上層出土土器との接合関係を有する。地点取り上げ土器の接合関係距離は、隣接する土器同士、或いは0.2m～0.8m内に納まる場合が通例である。これらのことから、3065溝遺物の内、地点取り上げ遺物は完存品の廃棄を、上層出土遺物は破損した土器を廃棄した可能性が高いものである。

地点取り上げ土器と上層出土土器或いは中層出土土器との接合関係は少ないが、これは地点取り上げ土器の検出に伴って、検出過程で遊離した土器が一部を占めるものと考えられる。

表8 井辺遺跡 2011-3・4区 3065 溝層序別遺物分布

区画番号	区画	地点取上(土器)	下層	中層	上層	全層
1	A 6-e 8	52	0	0	10	62
2	A 6-e 9	0	0	0	0	0
3	A 6-d 10	0	0	0	0	0
4	A 6-e 10	0	0	0	0	0
5	A 6-d 11	0	0	0	0	0
6	A 6-e 11	0	0	0	55	55
7	A 6-d 12	0	0	0	0	0
8	A 6-e 12	0	0	0	83	83
9	A 6-e 13	243	0	30	118	391
10	A 6-e 14	664	0	206	459	1,329
11	A 6-e 15	274	33	0	170	477
12	A 6-e 16	793	0	0	288	1,081
13	A 6-f 16	0	0	0	0	0
14	A 6-e 17	0	8	0	262	270
15	A 6-f 17	0	0	0	4	4
16	A 6-e 18	102	0	0	63	165
17	A 6-f 18	0	2	0	99	101
18	A 6-e 19	0	0	0	39	39
19	A 6-f 19	9	0	0	0	9
20	A 6-g 19	0	0	0	0	0
21	A 6-f 20	0	0	0	0	0
22	A 6-g 20	0	0	0	20	20
23	A 6-g 21	0	2	0	1	3
24	A 6-h 21	0	0	0	0	0
25	A 6-g 22	0	0	0	0	0
26	A 6-h 22	0	0	0	2	2
27	A 6-h 23	0	0	0	0	0
	合計	2,137	45	236	1,673	4,091

土器の器種構成（表 12～15）

3065 溝の出土遺物（土器）の器種構成は、甕・壺・高坏が主要器種となり、それらを補完する鉢・手焙形土器で構成される。

まず、全層位を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器・石器 4,090 点の内、器種を判断した土器 3,853 点（不明 235 点、石器 2 点は省く）全体の中に占める甕 2,639 点の比率（68.5%）が極めて高く、壺 849 点（22.0%）・高坏 250 点（6.5%）・鉢 111 点（2.9%）・手焙形土器 4 点（0.1%）である。

次に、2011-4 区の地点取り上げ遺物を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器 2,128 点の内、器種を判断した土器 2,053 点（不明 75 点は省く）全体の中に占める甕 1,348 点の比率（65.7%）が極めて高く、壺 511 点（24.9%）・高坏 143 点（7.0%）・鉢 51 点（2.5%）である。

最後に、2011-3・4 区の上層遺物を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器・石器 1,681 点の内、器種を判断した土器 1,546 点（不明 133 点・石器 2 点は省く）全体の中に占める甕 1,082 点の比率（70.0%）が極めて高く、壺 308 点（19.9%）・高坏 96 点（6.2%）・鉢 56 点（3.6%）・手焙形土器 4 点（0.3%）である。

また、胎土・形態的特徴から搬入土器（生駒山西麓産土器・阿波系土器・大和南西部土器・東海系土器他）と認識できる土器は存在しない。

土器の形態構成

3065 溝の出土遺物（土器）は、地点取り上げ遺物に一定のまとまりを認めることができることから、地点取り上げ土器を基本として記述する。

壺（195～202） 壺 123 点（形態の把握できる母数）は、形態分類から広口壺 82 点（66.7%）・短頸壺 2 点（1.6%）・無頸壺 39 点（31.7%）で構成される。壺の中に占める広口壺・（脚台付）無頸壺は、1 個体が多数の細片となった状態の土器を含んでいる。

甕（203～222） 甕の形態分類は、行っていない。口縁部形態が受け口を呈する器形は、存在しない。大型・中型の甕では、口縁部端面に篋状工具による刻み目を施す土器を通例とする。刻み目の有無の比率の算出は行っていない。

高坏（223・224・226・227） 高坏 74 点（形態の把握できる母数）は、坏部形態が有稜口縁 42 点（56.8%）と椀形口縁 32 点（43.2%）に二分される。

鉢（228～231） 鉢 43 点（形態の把握できる母数）は、口縁部形態が椀形口縁 14 点（32.6%）と屈折口縁 29 点（67.4%）に二分される。

出土遺物の時期

3065 溝の出土遺物（土器）の内、主に地点取り上げ土器は、多くの弥生時代後期末～終末期と判断した土器を含むこと、脚台付無頸壺（225）に施文された口縁部の櫛描波状文、椀形高坏（224）の口縁部の擬凹線の存在、有稜高坏（実測図に該当無し）等の形態的諸特徴から弥生時代後期末の様相を含みつつ、終末期（庄内式併行期古段階）の様相を示す遺物群である。

上層出土土器においても、広口壺（232）、細頸壺（233）の口縁部の擬凹線、手焙形土器（251）の存在から然程時間の経過を見ない段階の弥生時代終末期（庄内式併行期古段階）の様相を示す遺物群である。

以上の事から、2011-3・4 区 3065 溝は、弥生時代後期末（V-5・6 様式段階）に掘削・機能し、終末期（庄内式併行期古段階）の土器の廃棄により機能を喪失したものと考えられる。

3092 溝（図 25・26・30・41・54、表 9・12～15、写真図版 16）

2011-3・4区3092溝は、Ⅱ1-A6-e 18~22、f 19~25、g 23~25、A7-g 1・2に位置し、3065溝A6-e 18から分岐し、途中で、溝幅を広げ緩やかに蛇行して南西方向へ延びる溝である。3065溝A6-g 20から3091小溝が取りつき、3065溝から分水する溝の役割を果たすと

表9 井辺遺跡 2011-3・4区
3092 溝層序別遺物分布

区画番号	区画	下層	上層	全層
1	A 6-e 18	0	0	0
2	A 6-e 19	0	13	13
3	A 6-f 19	0	0	0
4	A 6-e 20	1	0	1
5	A 6-f 20	0	0	0
6	A 6-e 21	0	0	0
7	A 6-f 21	0	0	0
8	A 6-e 22	1	0	1
9	A 6-f 22	0	19	19
10	A 6-f 23	0	11	11
11	A 6-f 24	3	38	41
12	A 6-g 24	2	0	2
13	A 6-f 25	0	0	0
14	A 6-g 25	0	73	73
15	A 7-g 1	0	55	55
16	A 7-g 2	0	0	0
合計		7	209	216

考えられる。3092溝は、検出延長36.50m、幅員1.66~2.40mを測る。溝の断面形は、浅いU字形を呈し、深さ0.42~0.52mを測る。

3092溝は、4241落ち込み(3066溝状遺構)より古い。溝の堆積埋土は、鉄分を多く含む灰色シルトから灰白色シルトを呈し、埋土の堆積も水平である。堆積埋土は、検出場所により6~9層(上層・下層に大別)に区別される(図41)。

遺物は、溝の堆積埋土の上層付近で出土しているが他の溝に比べ少ない。溝基底部分(下層)での遺物出土量は少ない。このことから溝の機能の喪失に伴って上層の土器が廃棄されたものとみられる。遺物は、図30・表9にみるように、A6-g 25・A7-g 1区画にやや多い状態にある。

2011-3・4区3092溝の出土遺物は、弥生土器と僅かな石器で構成され、下層・上層に区分され取り上げられる。遺物の出土量は、比較的少量である。

3092溝の出土遺物は、下層7点・上層209点、総数217点(区画不明分を含む)を数える。

総数217点の内、弥生時代後期~終末期と判断した土器214点、古墳時代前期と判断した土師器3点である。

遺物(土器)の遺存状態

3092溝の出土遺物(土器)全体に、器面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。特に、上層出土遺物は、より剥離・磨滅の極めて著しい土器である。

遺物(土器)の接合関係

3092溝の遺物の内、上層出土遺物の遺存状態を含めて考えると、破損した土器を廃棄した可能性が高いものである。上層出土土器と下層出土土器との接合関係は確認できなかった。

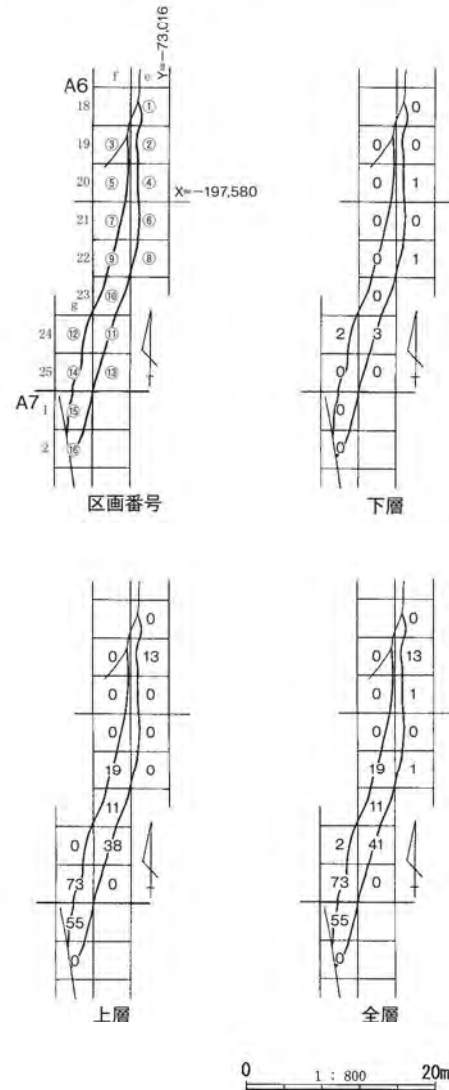


図30 井辺遺跡 2011-3・4区
3092 溝層序別遺物分布図

土器の器種構成（表 12～15）

3092 溝の出土遺物（土器）の器種構成は、壺・甕が主要器種となり、それらを補完する高坏・鉢で構成される。

全層位を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器 214 点の内、器種を判断した土器 208 点（不明 6 点は省く）全体の中に占める壺 127 点の比率（61.1%）が極めて高く、甕 70 点（33.7%）・高坏 7 点（3.4%）・鉢 4 点（1.9%）である。他の遺構出土遺物に比較して、壺と甕の比率が逆転している事が特徴となる。

土器の形態構成

3092 溝の出土遺物（土器）は、形態構成を示す良好な資料は僅かである。また、細片が多いため図示できる資料は少ない。広口壺（93）・二重口縁壺（94）・甕（95）・高坏（96）・鉢（97）・大型鉢（98）等がある。

出土遺物の時期

3092 溝の遺物は、遺物量が少なく、細片が主体を占めるが、土器の形態的諸特徴から弥生時代後期後半から庄内式併行期にかけてのものと考えられる。

3097・4260 溝（図 25・26・31・32・41・42・60～73・98・99、表 10・12～15、写真図版 16・18～22・41～49・67）

3097・4260 溝は、2011-3・4 区の東側Ⅱ 1-A6-d 11～16・e 13～25、A7-e 1～3・f 1～7 に位置し、調査区北東端から南南西方向に緩やかに蛇行して延び、検出延長 82.50 m、幅員 1.40～1.96 m を測る。溝の断面形は、浅い U 字形を呈し、深さ 0.32～0.42 m を測る。

2011-3 区では 3097 溝、2011-4 区では 4260 溝と呼称する。3097・4260 溝は、重複する 4271 溝より新しく、土坑列・4241 落ち込み（3066 溝状遺構）・4270 落ち込みより古い。また、調査区中央付近 A6-e 22 で 4273 小溝が分岐し、3092 溝 A6-e 22 に取りつく。溝の堆積埋土は、灰白色シルトから灰色シルトを呈し、溝基底部には炭化物・有機質を多く含む。堆積埋土は、検出場所により 3～8 層に区分される（図 41・42）。

遺物は、溝の下層堆積埋土の上位に位置する中層に該当する層位で、大量の土器が廃棄された状態で検出された。このことから大量の土器の廃棄によって溝の機能は喪失したものとみられる。遺物は、図 31・表 10 にみるように、3097・4260 溝北半部分の A6-d 12

表 10 井辺遺跡 2011-3・4 区
3097・4260 溝層序別遺物分布

区画番号	区画	下層	灰色砂層	地点取上 (中層該当)	上層	全層
1	A 6- d 11	0	0	0	32	32
2	A 6- e 11	0	0	52	0	52
3	A 6- d 12	32	0	1,811	979	2,822
4	A 6- d 13	0	0	2,061	1,375	3,436
5	A 6- e 13	0	67	11	0	78
6	A 6- d 14	0	0	1,588	667	2,255
7	A 6- e 14	0	64	1,263	887	2,214
8	A 6- d 15	0	0	497	320	817
9	A 6- e 15	0	19	296	287	602
10	A 6- d 16	0	0	124	0	124
11	A 6- e 16	87	0	540	429	1,056
12	A 6- e 17	83	0	602	132	817
13	A 6- e 18	0	0	100	0	100
14	A 6- e 19	50	0	891	763	1,704
15	A 6- d 20	0	0	0	286	286
16	A 6- e 20	0	0	5,600	1,719	7,319
17	A 6- e 21	0	0	336	241	577
18	A 6- e 22	34	0	0	55	89
19	A 6- e 23	0	0	0	0	0
20	A 6- e 24	0	0	0	46	46
21	A 6- e 25	0	0	0	0	0
22	A 7- e 1	4	0	0	151	155
23	A 7- f 1	0	0	0	0	0
24	A 7- e 2	2	0	0	0	2
25	A 7- f 2	2	0	0	0	2
26	A 7- e 3	0	0	3	16	19
27	A 7- f 3	0	0	4	0	4
28	A 7- f 4	0	0	0	5	5
29	A 7- f 5	0	0	0	1	1
30	A 7- f 6	0	0	0	0	0
31	A 7- f 7	0	0	0	0	0
合計		294	150	15,779	8,391	24,614

区画～A6-e 21 区画にかけて密集する。特に、A6-e 20 区画には、極めて大量の土器が廃棄された状態にあった。

2011-4 区 4260 溝出土遺物は、弥生土器と僅かな石器・石製品で構成され、下層・灰色砂層・地点取り上げ（個別取り上げ・中層に該当）・上層に区分され取り上げられる。遺物の出土量は、他の溝に比較して極めて多量である。

3097・4260 溝出土遺物は、その内、3097 溝出土遺物の 234 点、4260 溝出土遺物の下層 286 点・地点取り上げ 15,772 点・灰色砂層 150 点・上層 8,241 点、総数 24,683 点（区画不明分を含む）を数える。

総数 24,683 点の内、弥生時代前期と判断した土器 17 点、弥生時代中期と判断した土器 1 点、弥生時代後期後半～終末期と判断した土器 24,499 点・石器及び剥片 32 点、古墳時代と判断した土師器 105 点・須恵器 3 点・不明 25 点、鎌倉時代の瓦器 1 点である。

遺物（土器）の遺存状態
3097・4260 溝の出土遺物（土器）全体に、器

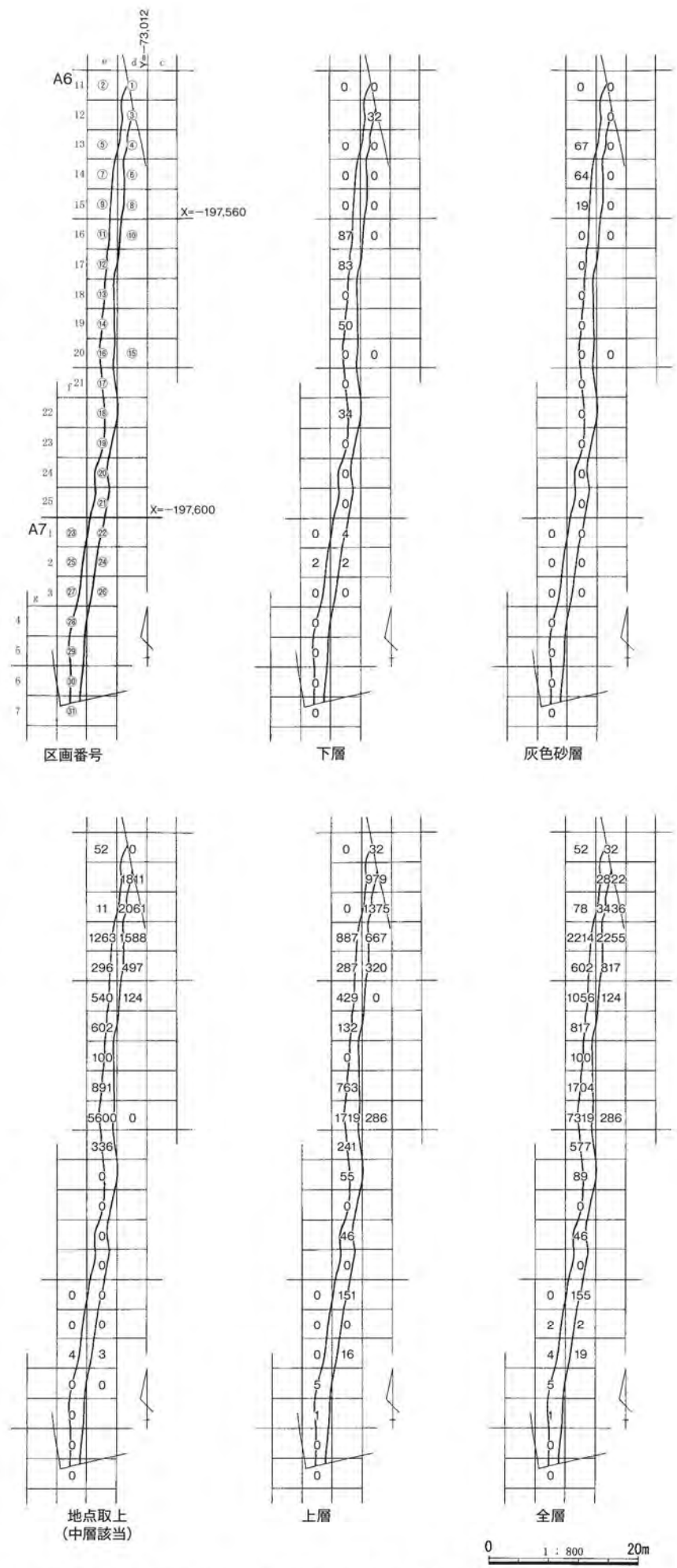


図 31 井辺遺跡 2011-3・4 区 3097・4260 溝層序別遺物分布図

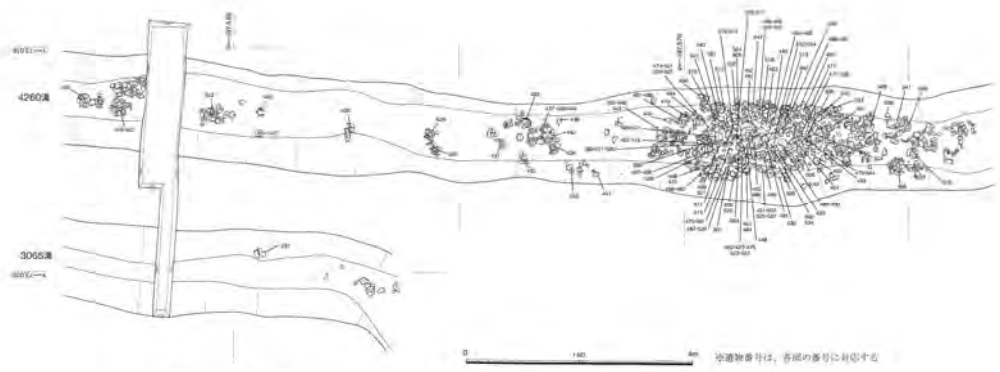
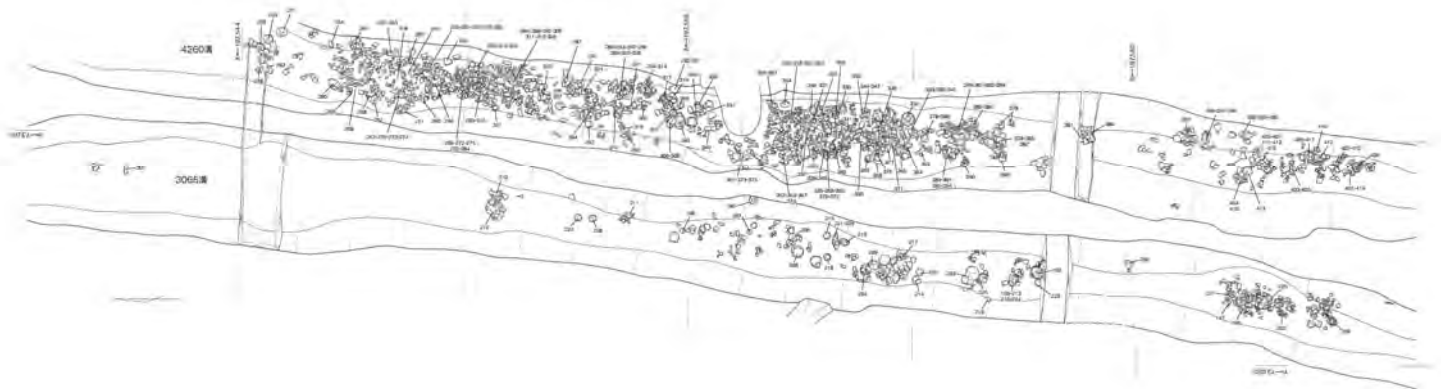


図32 井辺遺跡2011-4区 3065・4200発掘遺物出土状況図

面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。特に、地点取り上げ・上層出土遺物は、細片が多く、より剥離・磨滅の極めて著しい土器である。中には、埋没土壌の影響による有機質の付着物（酸化鉄分質）が極めて著しい場合も見受けられる（Ⅱ1-A6-d 14・15、e14区画）。

遺物（土器）の接合関係

3097・4260溝の出土遺物は、調査現地では完存品が多く見受けられるような観察であった。しかし、遺存状態が極めて悪く、接合作業において完全な個体に復元できる物は少ない結果となった。

地点取り上げ（個別取り上げ）土器は、地点取り上げ土器同士・地点取り上げ土器と上層出土土器との接合関係を有する。多数の別個の地点取り上げ土器同士が接合関係を有する場合もある。地点取り上げ土器の接合関係距離は、約30mとなる極端な二重口縁壺（358）を除いて、隣接する土器同士、或いは1m～1.5m内外に納まる場合が通例である。これらのことから、4260溝遺物は、完存品と破損した（若しくは、意図的に損壊した）土器の両者を廃棄した可能性が高いものである。

地点取り上げ土器と上層出土土器の接合関係も多く見受けられ、これは地点取り上げ土器の検出に当って、検出過程で遊離した土器が大半を占めるものと考えられる。

土器の器種構成（表12～15）

3097・4260溝の出土遺物（土器）の器種構成は、地点取り上げ土器を基本として記述する。遺物量が多いため、4m区画毎の遺物内容登録を行っているが、各区画の数量算出での比較までは行っていない。4260溝出土遺物の器種構成は、甕・壺・高坏・鉢が主要器種となり、それらを補完する器台・手焙形土器・手捏ね土器・その他（韓式系平底鉢・不明土器）で構成される。

全層位を対象として弥生時代後期後半～終末期と判断した土器24,499点の内、器種を判断した土器23,522点（土製支脚1点・土錘5点・不明971点は省く）全体の中に占める甕18,592点の比率（79.0%）が極めて高く、壺3,097点（13.2%）・高坏1,332点（5.7%）・鉢486点（2.1%）・器台1点（0.1%以下）・手焙形土器3点（0.1%以下）・韓式系平底鉢9点（0.1%以下）・手捏ね土器2点（0.1%以下）である。

また、形態から阿波系土器の可能性のある壺（420）以外は、胎土・形態から搬入土器（生駒山西麓産土器・大和南西部・東海系土器他）と認識できる土器は存在しない。

土器の形態構成

3097・4260溝の出土遺物（土器）は、地点取り上げ遺物に一定のまとまりを認めることができることから、地点取り上げ土器を基本として記述する。なお、出土遺物の一括性の把握のために、遺物挿図（図60～73）は4m区画毎にまとめた。

壺（252～262・286～301・329～339・358・378～383・401～403・420・425・426・446～456）壺354点（形態の把握できる母数）は、形態分類から広口壺228点（64.4%）・広口長頸壺8点（2.3%）・小型広口壺38点（10.7%）・広口直口壺12点（3.4%）・二重口縁壺26点（7.3%）・細頸壺10点（2.8%）・直口壺25点（7.1%）・短頸壺5点（1.4%）・無頸壺2点（0.6%）で構成される。

壺の中に占める細頸壺・短頸壺・無頸壺の比率は極めて低い。

壺の外面の最終調整は、基本的に口縁部以下をヘラミガキ調整で整えられる。頸部以下をタタキ整形で整えられるもの（298・337・378・426・453～455・546・547）は、一定の比率で存在する。外面をハケ調整で整えられるものは、極めて限られる。口縁部や頸部外面を加飾するものには、擬凹線文と円形貼付浮文・竹管文を組合せた二重口縁壺（257）・直口壺（259）・広口壺（289・291）、櫛描波状文

と円形貼付浮文・竹管文を組合せた二重口縁壺(294・336)、円形貼付浮文・竹管文の施される二重口縁壺(292・451)・広口壺(332)、櫛描波状文の施される二重口縁壺(293)、竹管文の施される広口壺(450)等がある。

細頸壺(260)の頸部には、焼成前に円形孔が4孔(4孔遺存、推定6孔の可能性有り)穿たれている。小型丸底土器(261)は、短頸壺に含めて考える。壺底部(262)の底面には、葉脈の圧痕1葉が認められる。細頸壺(299)は、脚台部をもつ形態と考えられる。二重口縁壺(301)は、弥生時代後期中葉の器台の可能性をもつ。二重口縁壺(358)は、2種類の大小の竹管文を上下二段に施し、和歌山県の既出の資料では見られず初例である。形態的特徴から器台の可能性をもつ。壺(420)は、倒卵形の体部の形態的特徴から阿波系土器の可能性をもつ。

甕(263~267・302~310・340~348・359~372・384・385・389・390・397・398・404~409・422・423・433~435・457~500) 甕の形態分類は、行っていない。口縁部形態が受け口を呈する器形は、存在しない。甕の外面調整は、基本的に頸部以下を分割成形・斜め右上がりタタキ整形で整えられる。斜め左上がりタタキ整形のもの(390・404・462・478・499)は、一定の比率で存在する。大型・中型の甕では、口縁部端面に篋状工具による刻み目を施すものと施さないものがある。刻み目の有無の比率の算出は行っていない。大型・中型の甕では、肩部の張りが左右非対称となる歪な形態が多く認められる。

甕(311)は、逆L字形の口縁部をもち、鉢の可能性をもつ。和歌山県の既出の資料では見られず初例である。形態的特徴から搬入品と考えられる。甕(408)の頸部には、焼成前の円孔が2孔穿たれている。高坏(268~279・312~318・349~353・373~376・386~388・391~394・399・410~416・424・427・428・436~441・501~518) 高坏387点(形態の把握できる母数)は、坏部形態が有稜口縁333点(86.0%)と椀形口縁54点(14.0%)に二分される。

有稜口縁の坏部の口縁部と皿部の長さの比率は、同一区画内A6-e 20の出土遺物においても一定せず、型的な差を表出するものと考えられる。(273)は、低脚の脚台部をもつ高坏と判断した。有稜口縁の高坏には、基本的に加飾されることがない。椀形口縁の高坏には、外面口縁部に擬凹線文が施されるもの(353・414・441・518)がある。

鉢(280~283・319~326・354~357・377・395・400・418・429・443~445・525~544) 鉢332点(形態の把握できる母数)は、口縁部形態が椀形口縁192点(57.8%)と屈折口縁140点(42.2%)に二分される。

(328)は、鉢としたが、和歌山県の既出の資料では見られず初例である。(525)は、製塩土器の大型鉢の可能性もある。鉢(543・544)は、丸底で口縁部平面形が歪で楕円形状を呈する。更に、(544)は、口縁部の側面形が波打つ状態にある。

小型器台(519) 器台(519)は、今回の全地区を通しての出土資料の中では、小型器台の祖形とみられる。外面口縁部上半は、ヘラケズリ調整で整えられる。

手焙形土器(284) 手焙形土器3点は、地点取り上げで2点が同一個体破片、上層1点(559)で別個体破片である。

韓式系鉢(327) 韓式系鉢9点は、同一個体破片である。韓式系平底鉢(327)は、底部底面形態が円形、体部が円筒形を呈する。器面の剥離・磨滅が著しく、調整が不明である。

石器・石製品

4260溝から出土した石器・石製品には、砥石(1085)、敲石(1093・1094)、敲石・磨石兼用(1096・

1099) 等がある。

出土遺物の時期

3097・4260 溝の出土遺物（土器）の内、下層・灰色砂層・地点取り上げ遺物（土器）は、広口壺（290・425・426）・甕（342・364・365・405・423・471・499）の体部球形化、甕（470）の体部下膨れ化、屈折口縁鉢（323・400・535～537）、底部丸底鉢（542～544）、有稜高坏（269・270・312・349・387・392・413・437・515）等の形態的諸特徴から弥生時代後期末の様相を示しつつも概ね庄内式併行期古段階に位置付けられる遺物群である。

上層遺物（土器）は、細片が多く接合率が低い。大半が弥生時代後期末～庄内式併行期古段階に位置付けられるが、極めて僅かに庄内式併行期新段階の様相を示すと思われる鉢（557・558）を含むことから、最終埋没が庄内式併行期新段階にあったものと考えられる。明確に布留式併行期の土器と認識できるものは認められない。

古墳時代中期と思われる須恵器を伴う一群の遺物は、上層遺構との関係で把握する遺物群と考えられる。

4 2 7 1 溝（図 25・26・41・57、表 14・15、写真図版 18～20）

2011-4 区 4271 溝は、Ⅱ 1-A6-d 11～17、e 16～19 に位置し、調査区を北北東方向から南南西方向に緩やかに蛇行して延びる溝である。途中、溝西側肩部が 4260 溝と重複し、4260 溝が後出する。調査区南半では 4260 溝と重複するためその延長は確認できていない。4271 溝は、4260 溝と重複するため全容は明らかではないが、検出延長 26.50m、幅員 1.12～1.68 m を測る。溝の断面形は、浅い U 字形を呈し、深さ 0.24～0.47 m を測る。

4271 溝は、4241 落ち込み（3066 溝状遺構）・4270 落ち込みより古い。溝の堆積埋土は、鉄分を多く含む灰色シルトから灰白色シルトを呈し、埋土の堆積も部分的に水平である。堆積埋土は、検出場所により 3～5 層に区分される（図 41）。

遺物は、溝の堆積埋土の上層付近で出土しているが、3092 溝同様に少ない。溝基底部（下層）での遺物出土量は少ない。このことから溝の機能の喪失に伴って上層の土器が廃棄されたものとみられる。4271 溝では、遺物量が少ないことから層序別遺物分布図及び層序別遺物分布（表）は作成していない。

4271 溝の出土遺物は、総数 107 点を数える。総数 107 点は、全て弥生時代後期～終末期と判断した土器である。

遺物（土器）の遺存状態

4271 溝の出土遺物（土器）全体に、器面の剥離・磨滅が極めて著しく、土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。

遺物（土器）の接合関係

4271 溝の出土遺物の内、上層出土遺物は遺物の遺存状態を含めて考えると、破損した土器を廃棄した可能性が高いものである。上層出土土器と下層出土土器との接合関係は確認できなかった。

土器の器種構成（表 14・15）

4271 溝の出土遺物（土器）の器種構成は、壺・甕が主要器種となり、それらを補完する高坏・鉢で構成される。

全層位を対象として弥生時代後期～終末期と判断した土器 107 点の内、器種を判断した土器 100 点（不明 7 点は省く）全体の中に占める甕 60 点（60.0%）の比率が極めて高く、壺 35 点（35.0%）・高坏

2点(2.0%)・鉢3点(3.0%)である。

土器の形態構成

4271溝の出土遺物(土器)は、形態構成を示す良好な資料は広口壺(194)のみである。

出土遺物の時期

4271溝の出土遺物(土器)は、遺物量が少なく、細片が主体を占めるが、弥生時代後期後半から庄内式併行期古段階にかけてのものと考えられる。

4259自然流路(図25・26・33～37・44～47・74～122、表11・14・15、写真図版23～29・50～78)

4259自然流路は、調査区2011-4区東側部分から南側部分Ⅱ1-A6-b20～25、c18～25、d19～25、A7-a1～6、b1～6、c1～6、d1～6にかけて検出した自然流路で、調査区南東部分に広がる谷状地形の最も低い部分を流れる。南側部分は調査区外南へと延び、その延長部分を県1次調査2010-1・2区で検出している。

自然流路の肩部は時期により移動を繰り返しており、上層部分では明確にその肩部を検出できたわけではない。また、東側肩部については大半が調査区外へと延びるため、規模が判然とする部分は少ないが、調査区の南側部分では明確に両肩を検出した。自然流路の幅は、広い部分で幅員12.00m、狭い部分で幅員10.50mを測る。深さは、湧水と噴出する粗砂により正確には把握できてはいないが、1.02～1.20mを測る。自然流路は、下層・中層段階で、流路の基底部及び肩部に改変を加えており、断面形は浅いU字形を呈する。

自然流路の大まかな層序は、上位層から順に、上層、中層1、中層2、下層、下層・砂層、最下層に区分できる(図44～47)。

最上層には単一の灰色シルト層が堆積し、鉄分を多く含むことから、窪地となり低湿地の状況を呈していた可能性が高い。また、上層以下中層2までは、有機物を含む灰色シルト層とオリーブ灰色シルト層、灰色細砂が互層に堆積しラミナが発達した状況を示す。中層1・中層2(遺物の記述では、まとめて「中層」とした)では多量の建築部材・木製品とともに西側肩部A6-d22～24で他層とは異なるまとまりをみる土器片と、完存品の小型丸底土器・手捏ね土器が複数出土した。これらの土器の周辺では、竪櫛・木鏃・刀形・剣形などの祭祀具、把手などが出土しており、中層段階では祭祀が行われたと考えられる。また、建築部材・木製品が投棄され、積み重なった状態で出土した。

遺物は、自然流路の下層と中層堆積埋土に該当する層位で、大量の土器・木製品が廃棄された状態で検出された。上層においても、比較的多くの遺物が出土した。このことから自然流路の埋没と同時に大量の遺物が廃棄され、自然流路の機能は喪失したものとみられる。遺物は、図33・表11にみるように、最下層では自然流路の中央部の2箇所A6-b23～25・c21～24区画とA7-b3～4・c2～4区画に集中する傾向が、下層砂層では自然流路の中央部の3箇所A6-c22区画とA7-b1区画とA7-a4・b4区画に散在的に集中する傾向にある。下層(地点取り上げ含む)では自然流路の中央部から平均して多くの遺物が出土した。中層及び上層では出土量の多寡が認められるものの、自然流路全体から平均して出土する傾向にある。自然流路の北端A6-c18区画での下層・中層・上中層を通じて遺物量の多さは、写真図版24-2・27-5に見るような出土状況から土坑の存在を示唆するものである。

その他、流路肩部には杭の打設が行われ、護岸と考えられる。下層である灰シルト層直下には、灰色粗砂が堆積し(下層砂層に該当)灰色粗砂層上面で多量の土器片の出土が認められる。

2011-3・4区4259自然流路の出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器などの土器類、木器・木製品

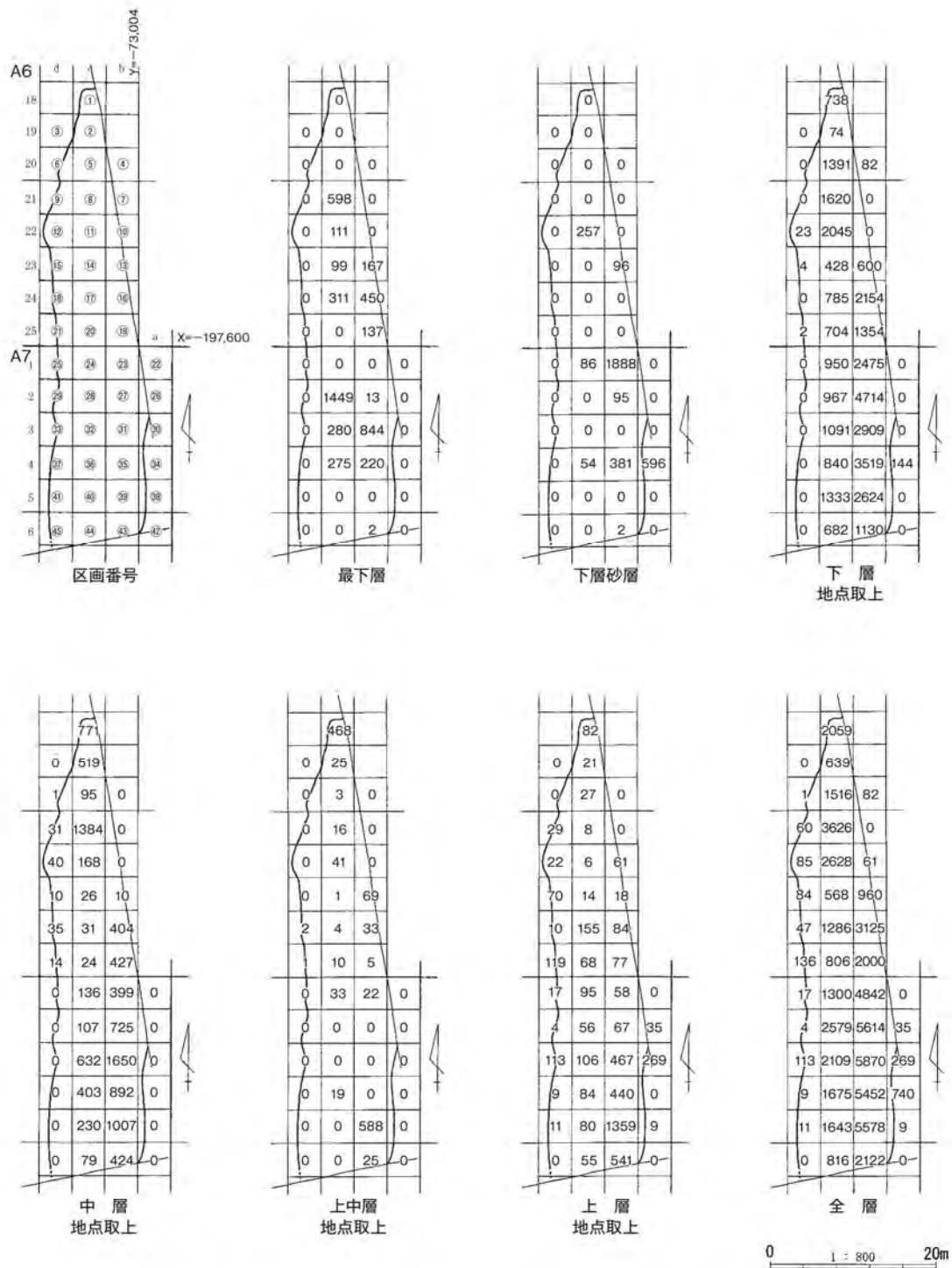


図33 井辺遺跡 2011-3・4区 4259 自然流路層序別遺物分布図

などの木質遺物、種実などの自然遺物と僅かな石器・石製品、骨で構成され、下位層から順に最下層・下層砂層・下層（地点取り上げ含む）・中層（地点取り上げ含む）・上中層（地点取り上げ含む）・上層（地点取り上げ含む）に区分され取り上げられる。

4259 自然流路の出土遺物は、2011-3 区 4259 自然流路の 1 点、2011-4 区 4259 自然流路の最下層 4,957 点・下層砂層 3,453 点・下層（地点取り上げ含む）35,535 点・中層（地点取り上げ含む）11,084 点・上中層（地点取り上げ含む）1,366 点・上層（地点取り上げ含む）4,969 点、総数 61,365 点（区画不明分を含む）を数える。

表 11 井辺遺跡 2011-3・4区 4259 自然流路層序別遺物分布

区画 番号	区画	最下層	下層砂層	下層 地点取上	中層 地点取上	上中層 地点取上	上層 地点取上	全層
1	A 6- c 18	0	0	738	771	468	82	2,059
2	A 6- c 19	0	0	74	519	25	21	639
3	A 6- d 19	0	0	0	0	0	0	0
4	A 6- b 20	0	0	82	0	0	0	82
5	A 6- c 20	0	0	1,391	95	3	27	1,516
6	A 6- d 20	0	0	0	1	0	0	1
7	A 6- b 21	0	0	0	0	0	0	0
8	A 6- c 21	598	0	1,620	1,384	16	8	3,626
9	A 6- d 21	0	0	0	31	0	29	60
10	A 6- b 22	0	0	0	0	0	61	61
11	A 6- c 22	111	257	2,045	168	41	6	2,628
12	A 6- d 22	0	0	23	40	0	22	85
13	A 6- b 23	167	96	600	10	69	18	960
14	A 6- c 23	99	0	428	26	1	14	568
15	A 6- d 23	0	0	4	10	0	70	84
16	A 6- b 24	450	0	2,154	404	33	84	3,125
17	A 6- c 24	311	0	785	31	4	155	1,286
18	A 6- d 24	0	0	0	35	2	10	47
19	A 6- b 25	137	0	1,354	427	5	77	2,000
20	A 6- c 25	0	0	704	24	10	68	806
21	A 6- d 25	0	0	2	14	1	119	136
22	A 7- a 1	0	0	0	0	0	0	0
23	A 7- b 1	0	1,888	2,475	399	22	58	4,842
24	A 7- c 1	0	86	950	136	33	95	1,300
25	A 7- d 1	0	0	0	0	0	17	17
26	A 7- a 2	0	0	0	0	0	35	35
27	A 7- b 2	13	95	4,714	725	0	67	5,614
28	A 7- c 2	1,449	0	967	107	0	56	2,579
29	A 7- d 2	0	0	0	0	0	4	4
30	A 7- a 3	0	0	0	0	0	269	269
31	A 7- b 3	844	0	2,909	1,650	0	467	5,870
32	A 7- c 3	280	0	1,091	632	0	106	2,109
33	A 7- d 3	0	0	0	0	0	113	113
34	A 7- a 4	0	596	144	0	0	0	740
35	A 7- b 4	220	381	3,519	892	0	440	5,452
36	A 7- c 4	275	54	840	403	19	84	1,675
37	A 7- d 4	0	0	0	0	0	9	9
38	A 7- a 5	0	0	0	0	0	9	9
39	A 7- b 5	0	0	2,624	1,007	588	1,359	5,578
40	A 7- c 5	0	0	1,333	230	0	80	1,643
41	A 7- d 5	0	0	0	0	0	11	11
42	A 7- a 6	0	0	0	0	0	0	0
43	A 7- b 6	2	0	1,130	424	25	541	2,122
44	A 7- c 6	0	0	682	79	0	55	816
45	A 7- d 6	0	0	0	0	0	0	0
合計		4,956	3,453	35,382	10,674	1,365	4,746	60,576

総数 61,365 点の内、弥生時代前期と判断した土器 3 点、弥生時代中期と判断した土器 2 点 (721・1320)、弥生時代前・中期と判断した石器・剥片 3 点、弥生時代後期～終末期と判断した土器 57,873 点・石器及び剥片 58 点、古墳時代と判断した土師器 2,975 点・須恵器 129 点・その他不明 321 点、平安時代末～室町時代のその他不明 1 点である。

遺物 (土器) の遺存状態

4259 自然流路の出土遺物 (土器) は、最下層・下層砂層・下層 (地点取り上げ含む) では、完存品や大破片の遺物が多い傾向にあり、遺存状態が比較的良好である。中層 (地点取り上げ含む) では、完存品や大破片の遺物が多い取り上げ単位と細片が多い取り上げ単位の両者がある。また、遺存状態においても比較的良好なもの器面の剥離・磨滅が著しいものの両者が存在する。上中層 (地点取り上げ含む)・上層 (地点取り上げ含む)

では、細片の遺物が多い傾向にあり、器面の剥離・磨滅が著しく土器製作工程の調整痕の観察が明確にできない場合が多い。

全体的には、下位層ほど完存品や大破片が多く、遺存状態は良好である。

遺物 (土器) の接合関係

4259 自然流路の出土遺物 (土器) は、調査現地では完存品と大破片が多く見受けられるような観察であった。接合作業においてもその状況は変わらず、完全な個体に復元できるものが多い結果となった。一方で、遺物の取り上げ単位によっては接合率の低い場合も多分に見受けられる。

各層位 (地点取り上げ含む) から出土した土器は、各層位の下位層もしくは上位層出土土器との接合関係を有する。また、隣接する 4 m 区画との接合関係を有する場合が多い。稀に、一つ飛び区画 (距

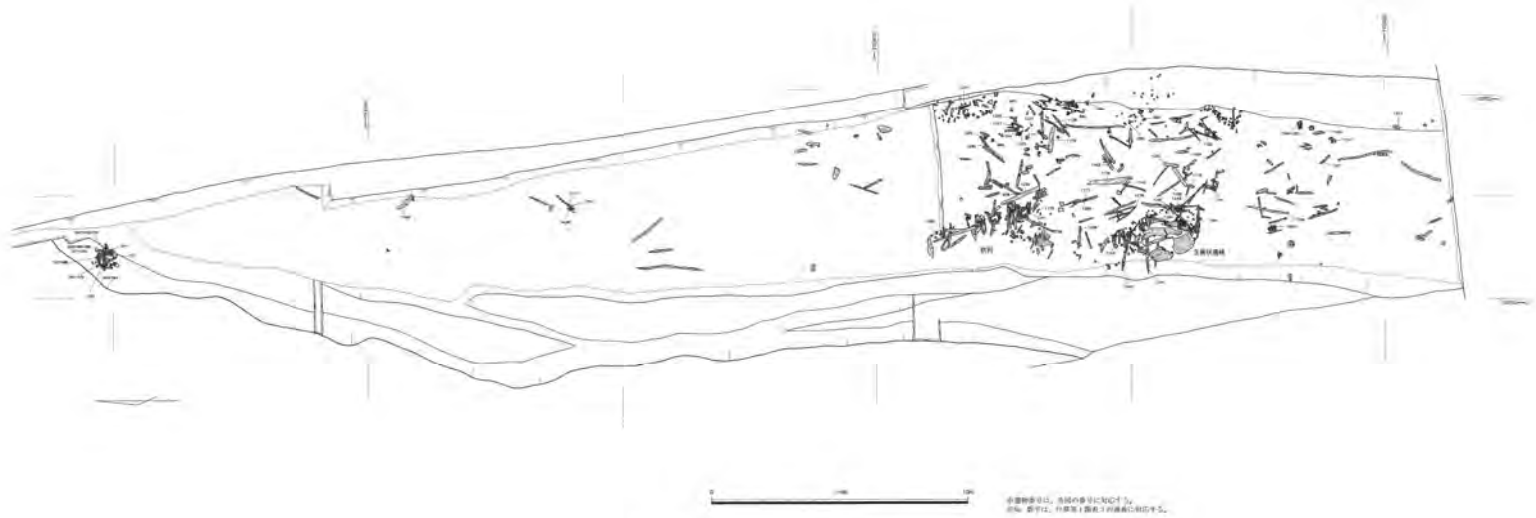


图34 井位遺跡2011-11C 北部区域下部・中層遺跡出土状況図

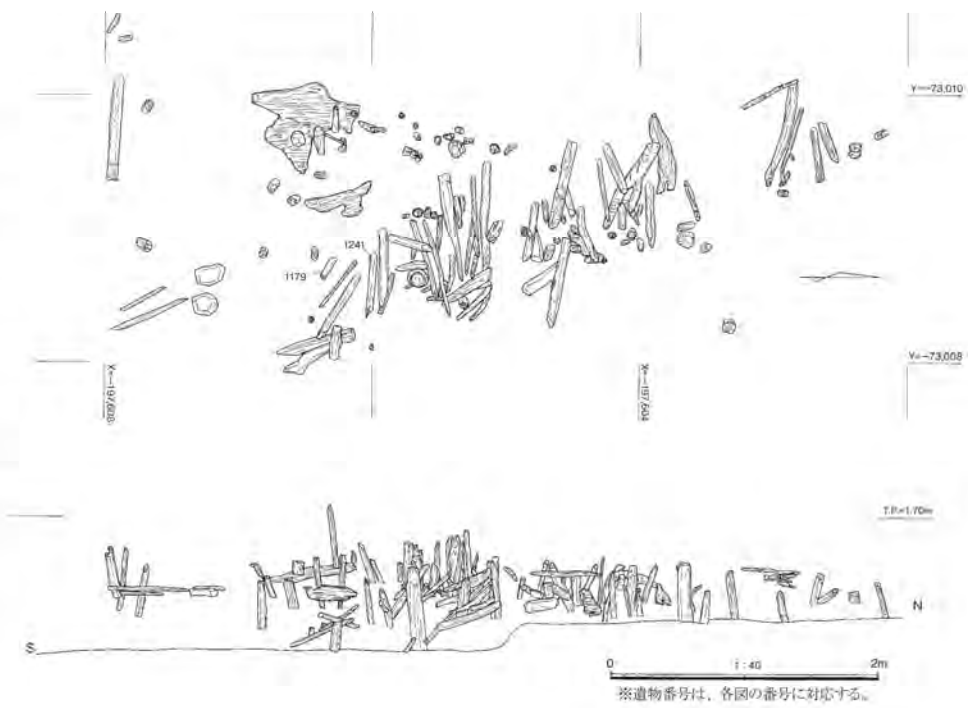
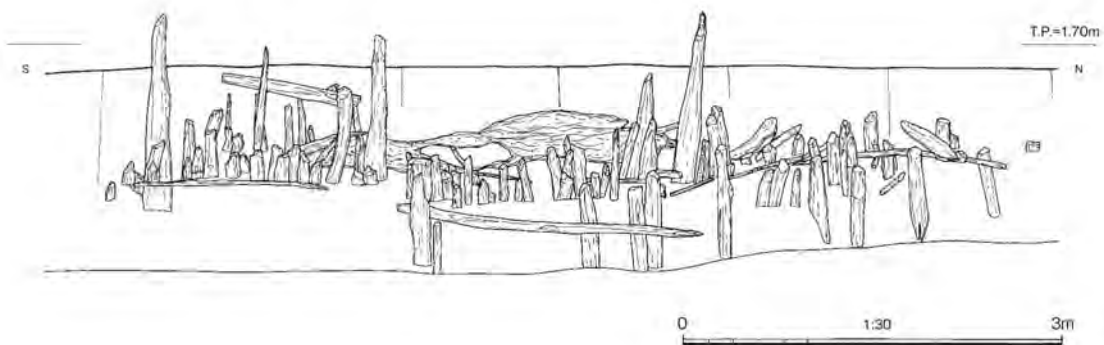
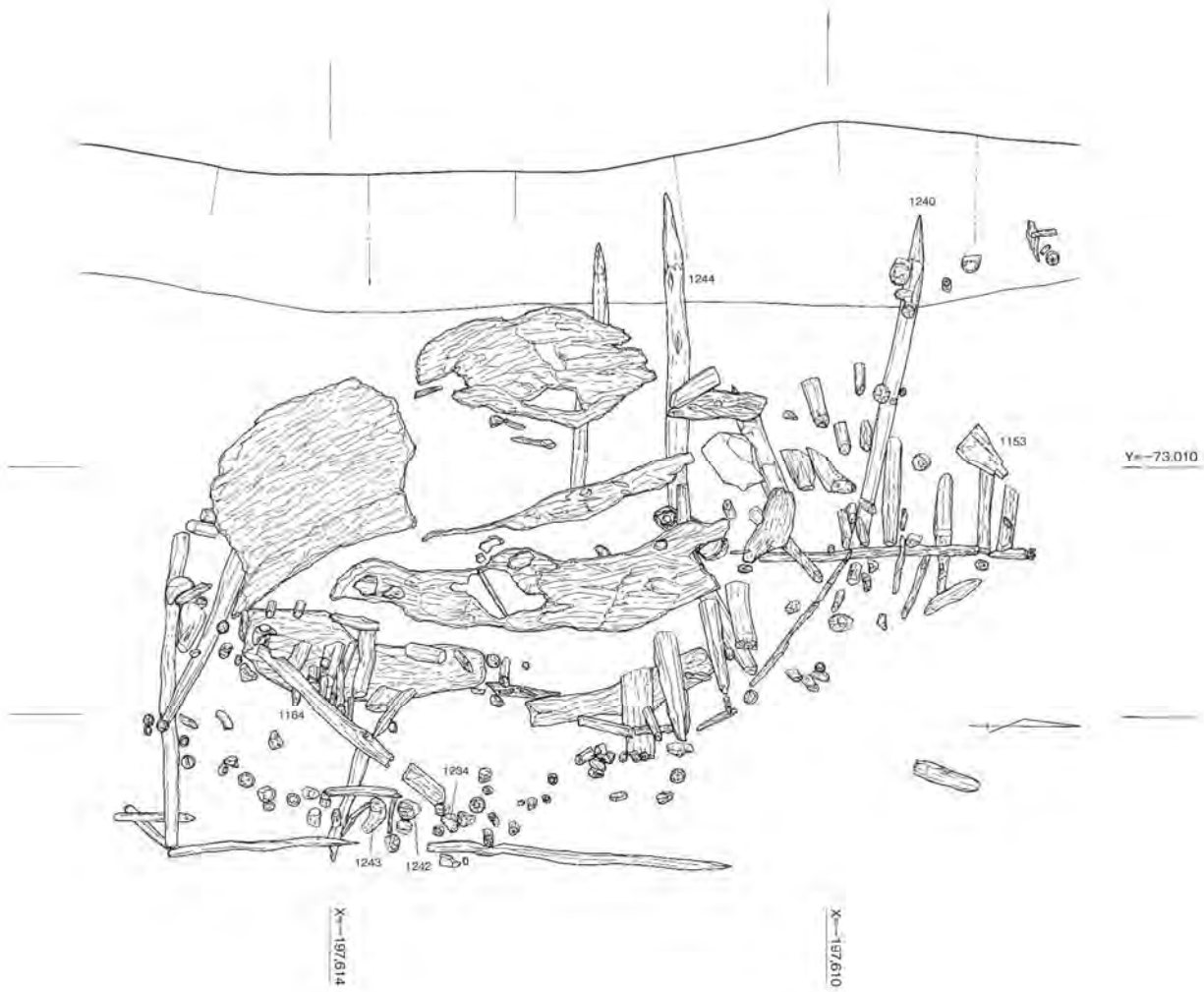


図 35 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路下層杭列検出状況図



※遺物番号は、各図の番号に対応する。

図 36 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中層 2 生簀状遺構実測図

写真図版



井辺遺跡 2011-4 区 4260 溝遺物検出状況 (南から)



井辺遺跡 2011-3 区 和歌山市立岡崎小学校発掘調査見学



神前遺跡 2011-1・2区 調査遺構全景（合成写真：真上から）



1 神前遺跡 2011-1区 調査地全景 (北上空から)



2 神前遺跡 2011-1区 調査遺構全景 (北西から)



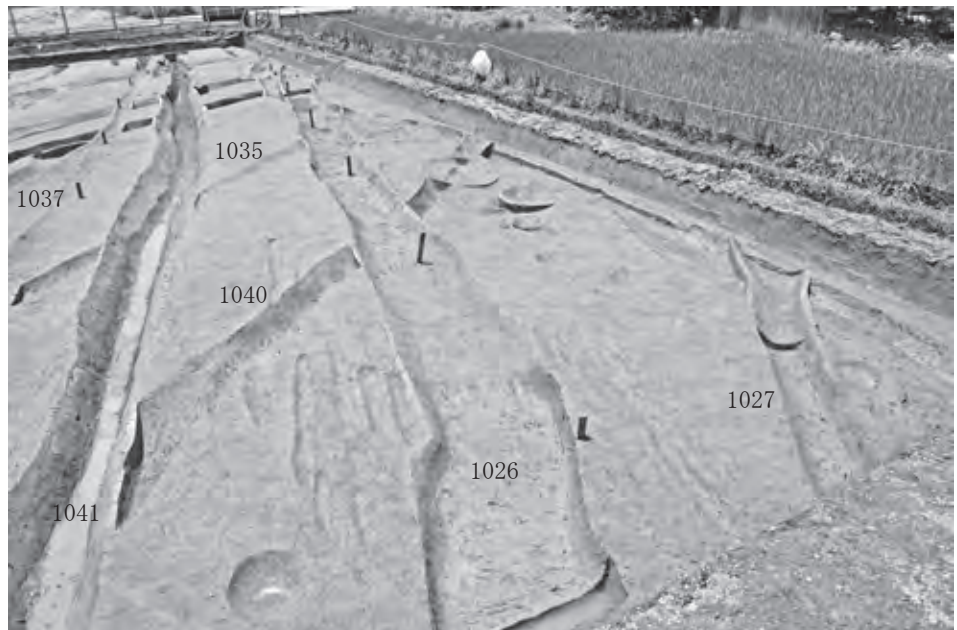
3 神前遺跡 2011-1区 調査遺構全景 (北から)



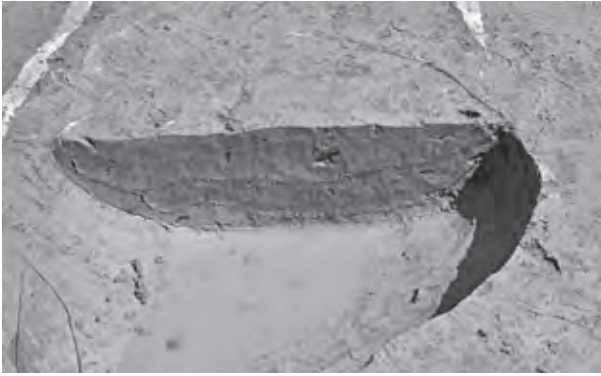
1 神前遺跡 2011-1区 1018・1031・1032溝 (北東から)



2 神前遺跡 2011-1区 1036・1038・1031溝 (南西から)



3 神前遺跡 2011-1区 1041・1026・1027溝 (北北東から)



1 神前遺跡 2011-1 区 1001 土坑断面土層 (南から)



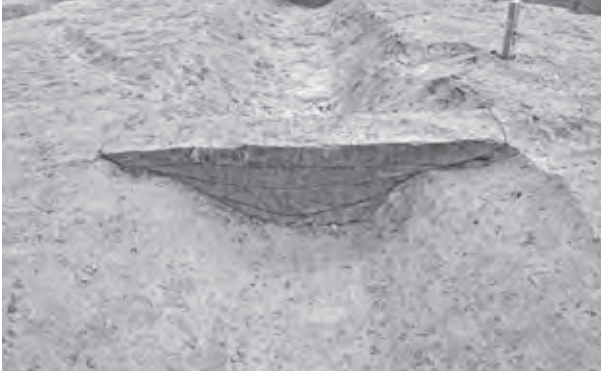
2 神前遺跡 2011-1 区 1002 土坑断面土層 (南から)



3 神前遺跡 2011-1 区 1026 溝断面土層 1 (南から)



4 神前遺跡 2011-1 区 1031 溝断面土層 4 (南西から)



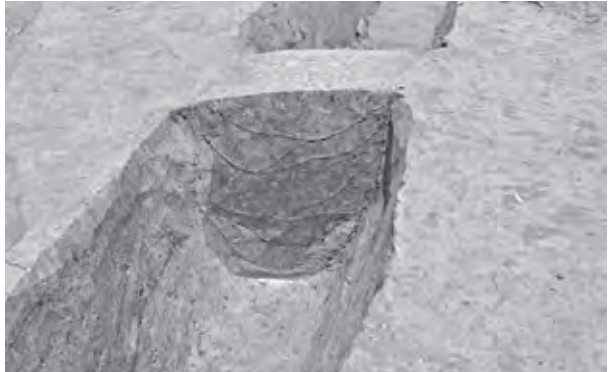
5 神前遺跡 2011-1 区 1031 溝断面土層 (南西から)



6 神前遺跡 2011-1 区 1032・1031 溝断面土層 (南南西から)



7 神前遺跡 2011-1 区 1037・1017・1036 断面土層 (南東から)



8 神前遺跡 2011-1 区 1038 溝断面土層 3 (南西から)



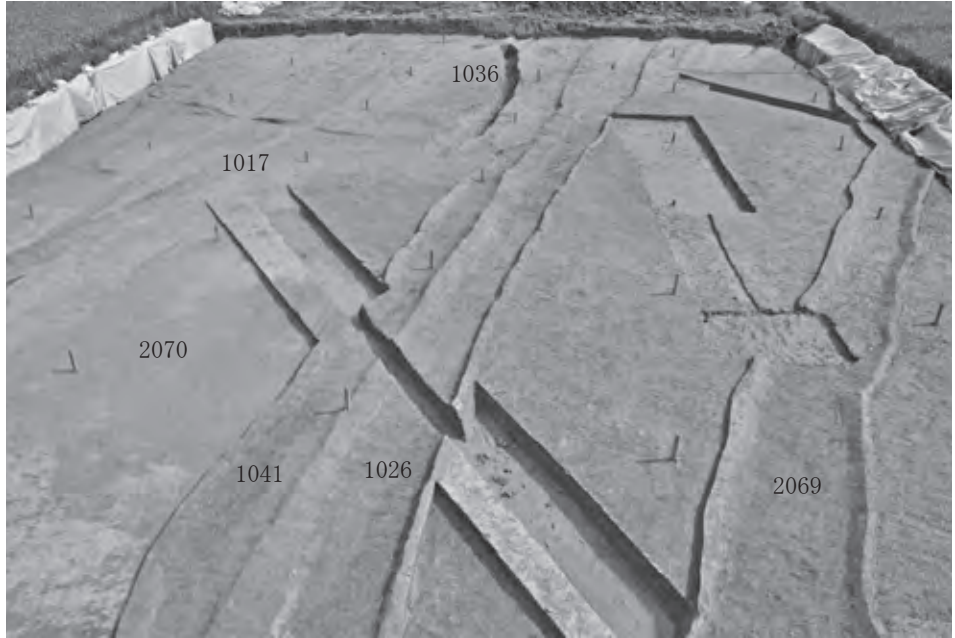
9 神前遺跡 2011-1 区 1041 溝断面土層 2 (南から)



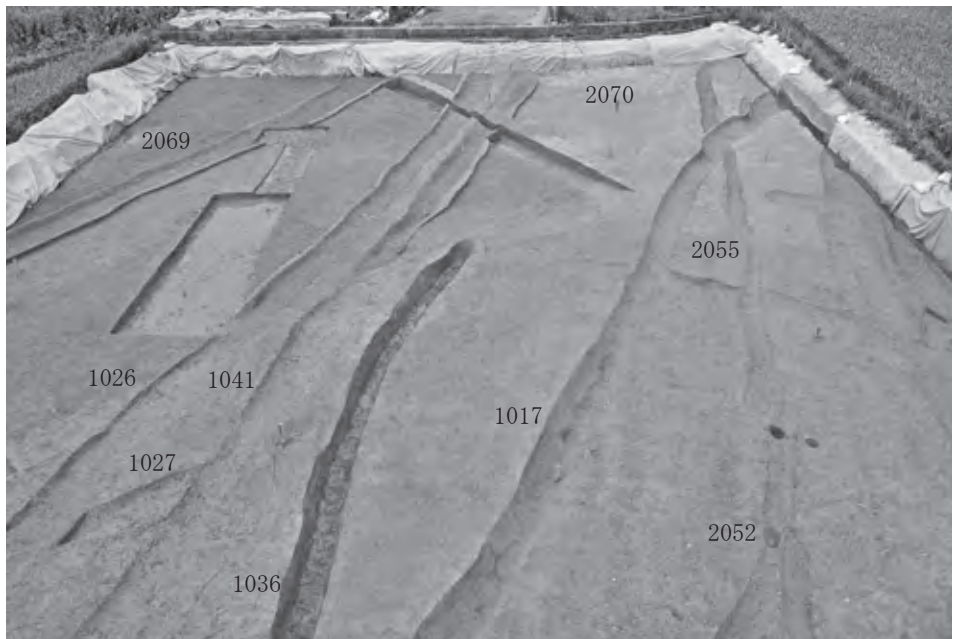
10 神前遺跡 2011-1 区 1051・1032 溝断面土層 (南西から)



1 神前遺跡 2011-2 区 調査地全景 (西南西上空から)



2 神前遺跡 2011-2 区 調査遺構全景 (北北西から)



3 神前遺跡 2011-2 区 調査遺構全景 (南南東から)



1 神前遺跡 2011-2 区 1017 溝断面土層(南南西から)



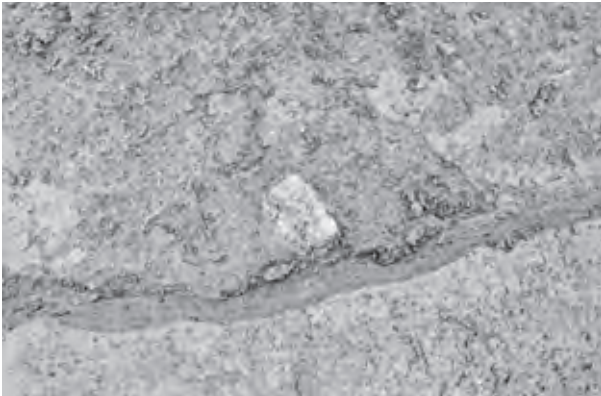
2 神前遺跡 2011-2 区 1033・1051 溝断面土層(南から)



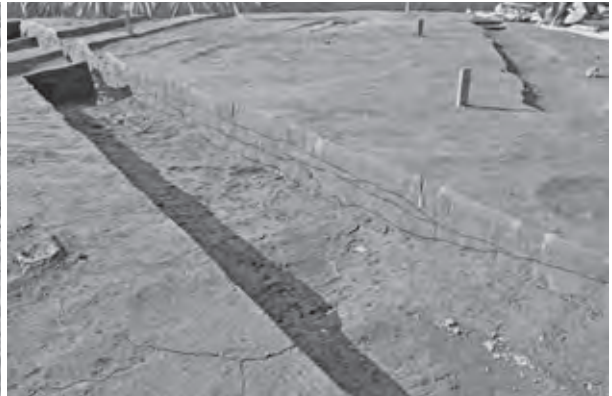
3 神前遺跡 2011-2 区 1036 溝断面土層 1(南から)



4 神前遺跡 2011-2 区 1036 溝断面土層 2(南から)



5 神前遺跡 2011-2 区 2070 谷状地形上層鋤先出土状況(南から)



6 神前遺跡 2011-2 区 2070 谷状地形トレンチ 1 断面土層(南から)



7 神前遺跡 2011-2 区 2070 谷状地形トレンチ 2 断面土層(南南東から)



1 井辺遺跡 2010-1・2区 調査地全景
(合成写真：真上から)



2 井辺遺跡 2010-1区 調査地全景(北上空から)



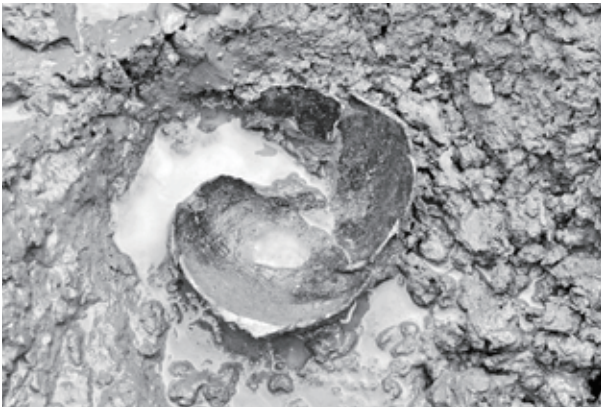
3 井辺遺跡 2010-1区 調査遺構全景(南から)



4 井辺遺跡 2010-1区 調査区北壁断面土層(南西から)



5 井辺遺跡 2010-1区 調査区東壁断面土層(南西から)



6 井辺遺跡 2010-1区 下層確認トレンチ1 土器1 出土状況
(南西から)



7 井辺遺跡 2010-1区 下層確認トレンチ1 南壁断面土層
(北東から)



1 井辺遺跡 2010-2 区 調査地全景(北上空から)



2 井辺遺跡 2010-2 区南半部(真上から)



3 井辺遺跡 2010-2 区北半部(真上から)



4 井辺遺跡 2010-2 区 調査遺構全景(北から)



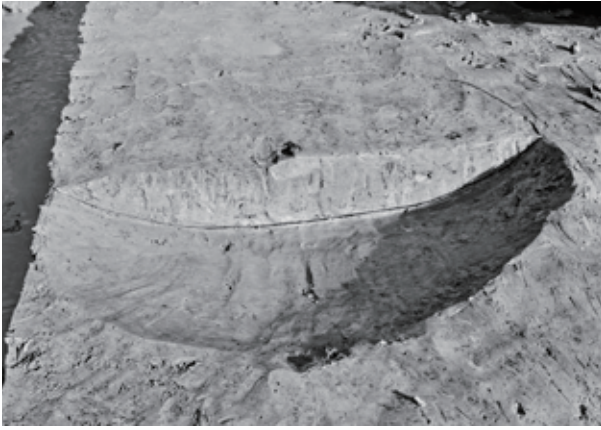
5 井辺遺跡 2010-2 区 2 溝・谷状地形(南南東から)



6 井辺遺跡 2010-2 区 6 溝・11 溝・谷状地形(北北西から)



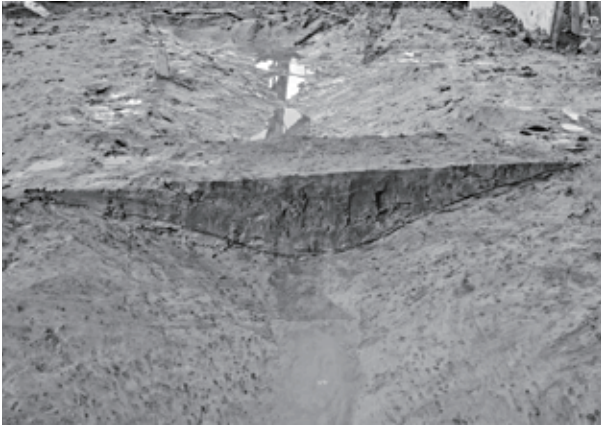
7 井辺遺跡 2010-2 区 4 土坑断面土層(北北東から)



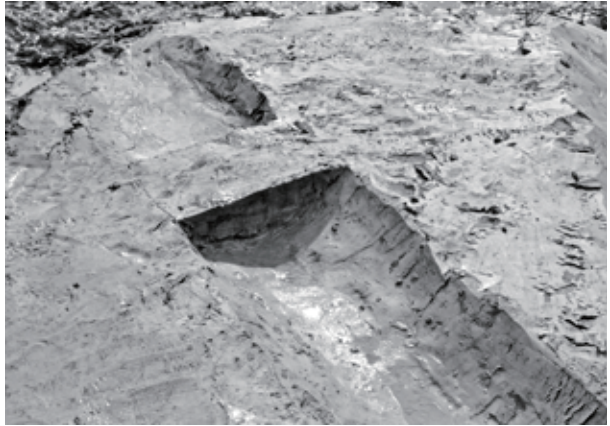
1 井辺遺跡 2010-2区 5 土坑断面土層(南から)



2 井辺遺跡 2010-2区 7・8 小穴断面土層(北西から)



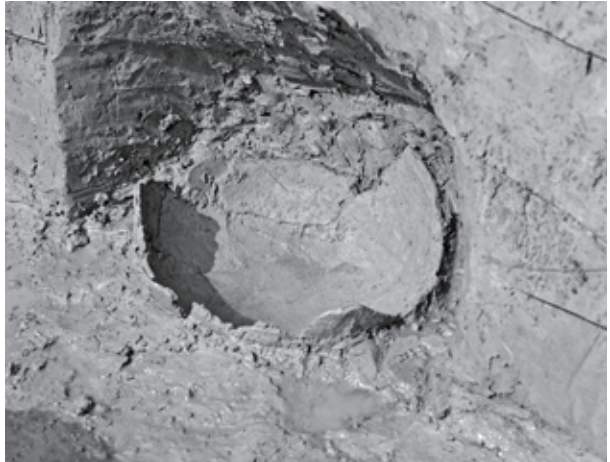
3 井辺遺跡 2010-2区 6 溝断面土層 1(南南東から)



4 井辺遺跡 2010-2区 10 溝断面土層(北から)



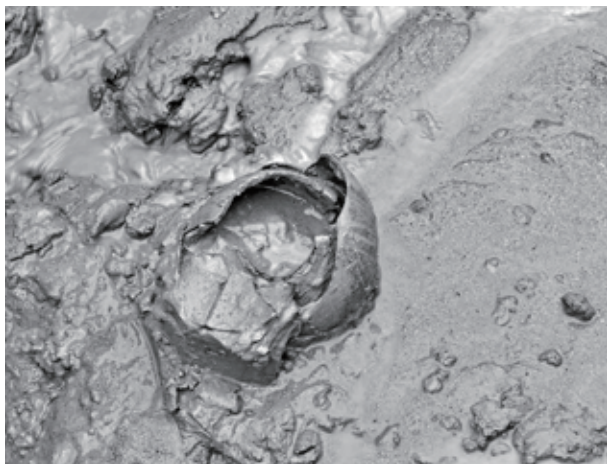
5 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形西側部分落ち
(南南東から)



6 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形土器 3 出土状況
(南東から)



7 井辺遺跡 2010-2区 谷状地形自然木出土状況
(南から)



8 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ 3 土器 4 出土状況
(北西から)



1 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ2 北壁断面土層（南東から）



2 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ3 北壁断面土層（南西から）



3 井辺遺跡 2010-2区 下層確認トレンチ4 北壁断面土層（南西から）



井辺遺跡 2011-3・4区 調査遺構全景（合成写真：真上から）



1 井辺遺跡 2011-3区 調査地全景（北西上空から）



2 井辺遺跡 2011-3区 調査遺構全景（北北東から）



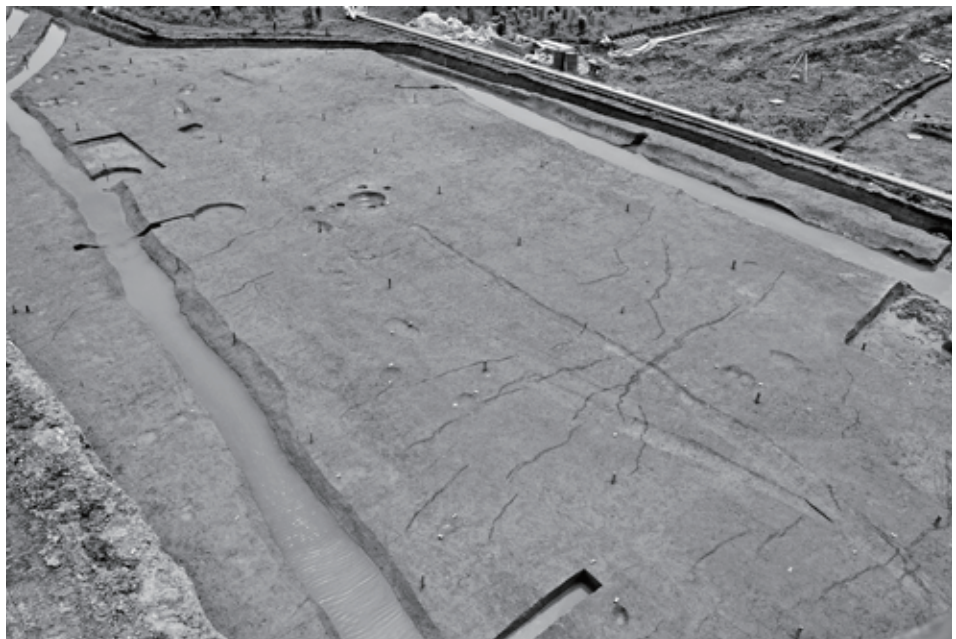
3 井辺遺跡 2011-3・4区 調査前の状況（北北西から）



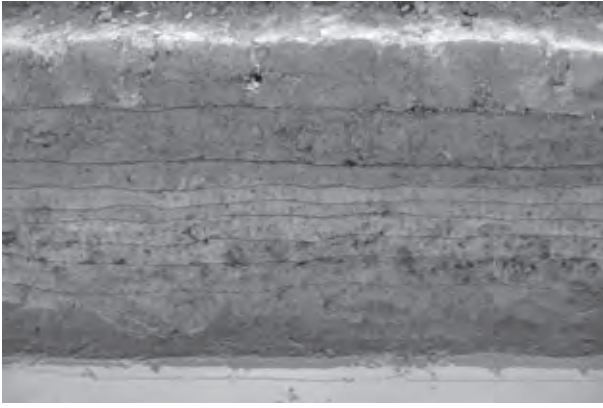
1 井辺遺跡 2011-3区南半部 調査遺構全景 (南南西から)



2 井辺遺跡 2011-3区北半部 調査遺構全景 (南から)



3 井辺遺跡 2011-3区北半部 調査遺構全景 (北東から)



1 井辺遺跡 2011-3区 調査区西壁断面土層
(東北東から)



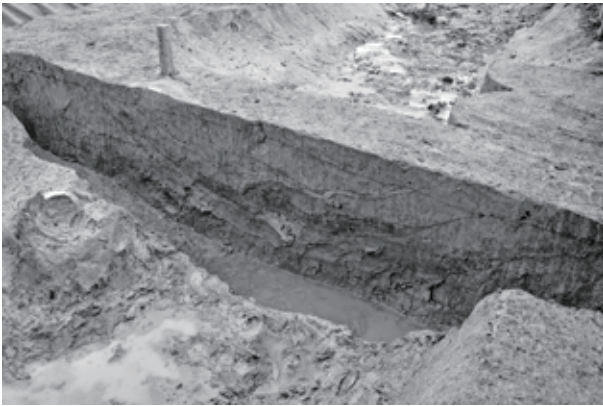
2 井辺遺跡 2011-3区 調査区北壁断面土層
(南南東から)



3 井辺遺跡 2011-3区 3001溝 (南から)



4 井辺遺跡 2011-3区 3001溝断面土層1 (南南東から)



5 井辺遺跡 2011-3区 3001溝断面土層2 (南南東から)



6 井辺遺跡 2011-3区 3001溝断面土層3 (南南東から)



7 井辺遺跡 2011-3区 3001溝下層遺物13~15出土状況
(北西から)



8 井辺遺跡 2011-3区 3001溝上層遺物1出土状況
(南から)



1 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝 (北北東から)



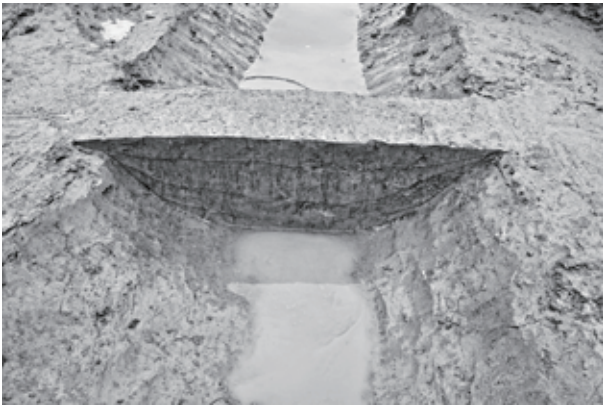
2 井辺遺跡 2011-3区 3005・3084・3065 溝合流部分 (北東から)



3 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝断面土層 1 (南から)



4 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝断面土層 3 (南から)



5 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝断面土層 4 (南南西から)



6 井辺遺跡 2011-3区 3084 溝断面土層 (南から)



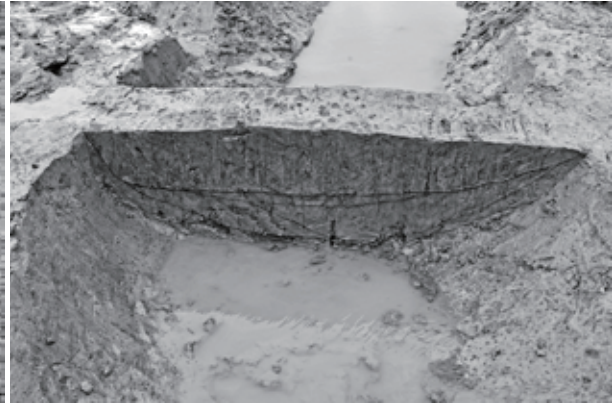
7 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝遺物 8～11 出土状況 (北から)



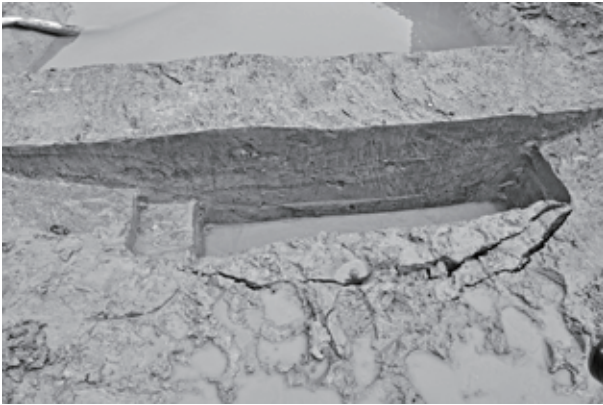
8 井辺遺跡 2011-3区 3005 溝遺物 15～17 出土状況 (北東から)



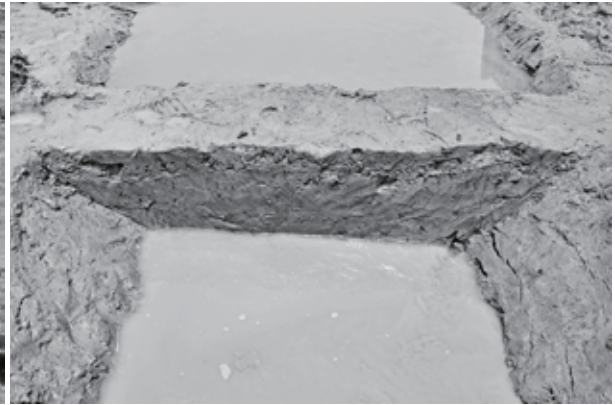
1 井辺遺跡 2011-3 区 3065・3088 溝断面土層 1 (南西から)



2 井辺遺跡 2011-3 区 3065 溝断面土層 2 (南南西から)



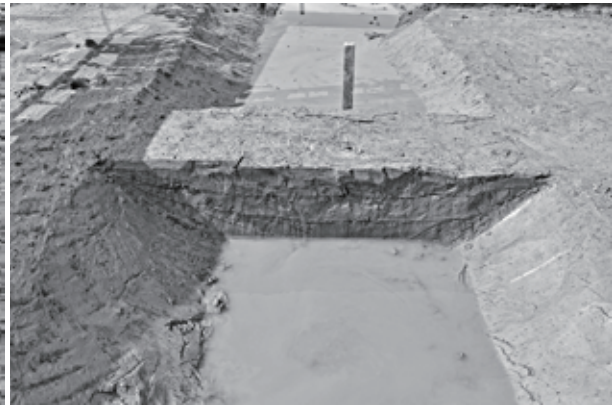
3 井辺遺跡 2011-3 区 3092 溝断面土層 2 (南南西から)



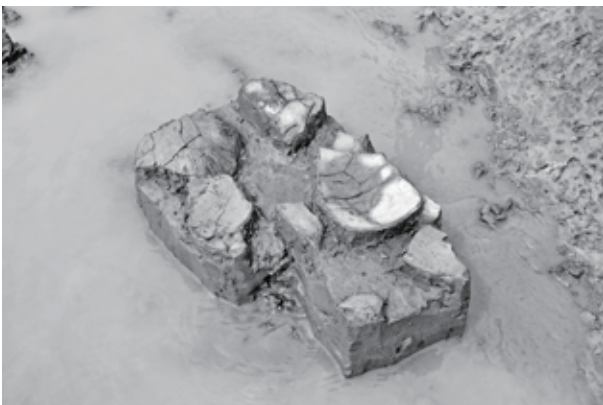
4 井辺遺跡 2011-3 区 3092 溝断面土層 3 (南南西から)



5 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝断面土層 1 (南南西から)



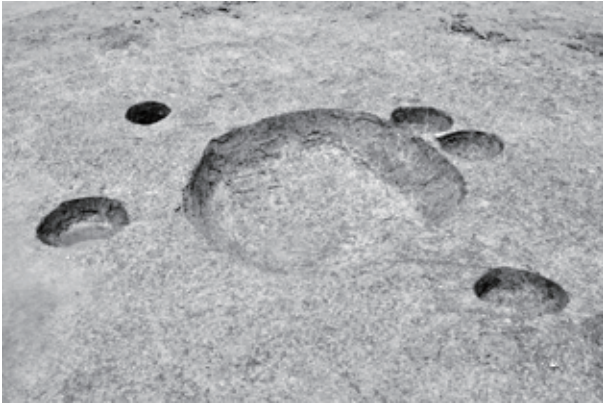
6 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝断面土層 2 (南南西から)



7 井辺遺跡 2011-3 区 3097 溝遺物 1 出土状況 (南南西から)



8 井辺遺跡 2011-3 区 噴砂の砂脈 A6-i11 付近 (北東から)



1 井辺遺跡 2011-3区 3006 土坑 (南東から)



2 井辺遺跡 2011-3区 3006 土坑断面土層(南東から)



3 井辺遺跡 2011-3区 3025～3034 畝状遺構 (東南東から)



4 井辺遺跡 2011-3区 3025～3034 畝状遺構 (北北東から)



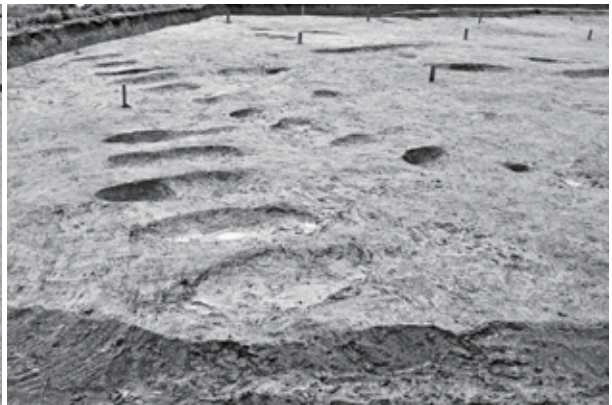
5 井辺遺跡 2011-3区 3025～3034 畝状遺構断面土層 (南南西から)



6 井辺遺跡 2011-3区 土坑列14(3051～3060 土坑) 断面土層(南西から)



7 井辺遺跡 2011-3区 土坑列16(3075～3085 土坑) 断面土層 (西南西から)



8 井辺遺跡 2011-3区 土坑列14・15 (東南東から)



1 井辺遺跡 2011-4 区 調査地全景 (南南東上空から)



2 井辺遺跡 2011-4 区 調査遺構全景 (北北西から)



3 井辺遺跡 2011-4 区 4271・4260・3065 溝遺物出土状況 (北北東から)



1 井辺遺跡 2011-4区 A6-d・e14 3065・4260・4271 溝北側遺物出土状況(南から)



2 井辺遺跡 2011-4区 3065 溝北側遺物出土状況(南から)



3 井辺遺跡 2011-4区 3065 溝トレンチ北遺物出土状況(南南西から)



4 井辺遺跡 2011-4区 3065 溝遺物出土状況(南東から)



5 井辺遺跡 2011-4区 3065 溝遺物出土状況(東から)



6 井辺遺跡 2011-4区 3065 溝断面土層(南南西から)



1 井辺遺跡 2011-4区 A6-d・e14 3065・4260・4271 溝北側遺物出土状況(南から)



2 井辺遺跡 2011-4区 A6-d・e14 4260 溝北側遺物出土状況(南から)



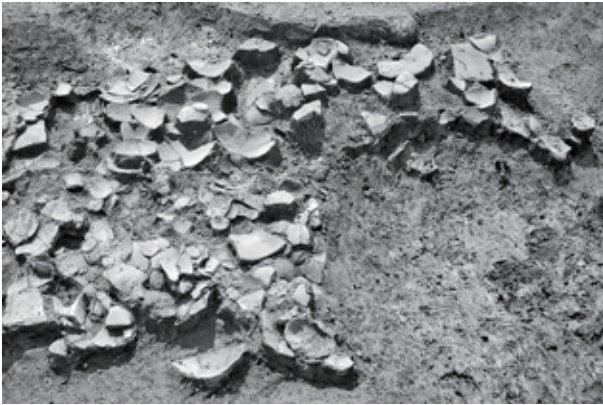
3 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝遺物出土状況(南南西から)



1 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(南南東から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



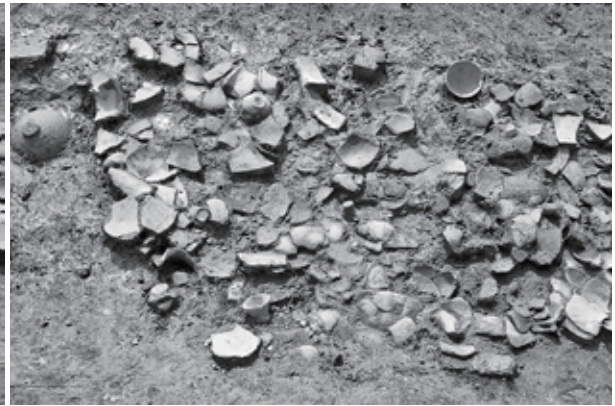
3 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



4 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



5 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



6 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



7 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



8 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝北側遺物出土状況
(西から)



1 井辺遺跡 2011-4区 A6-e20 4260 溝南端遺物出土状況（南から）



2 井辺遺跡 2011-4区 A6-e20 4260 溝南端遺物出土状況（北から）



3 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝断面土層（南南東から）



1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層 全景(北から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南端下層 遺物出土状況全景(北東から)



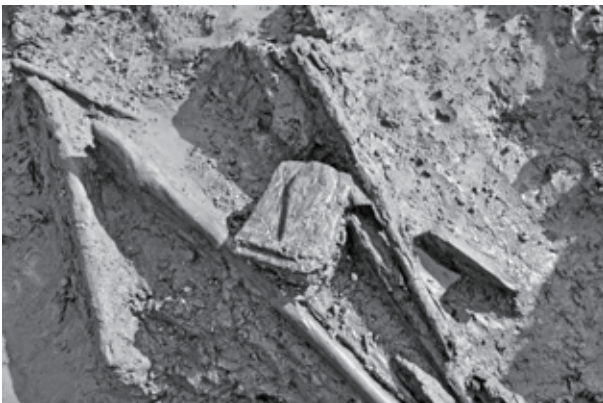
3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南端下層 遺物出土状況(北から)



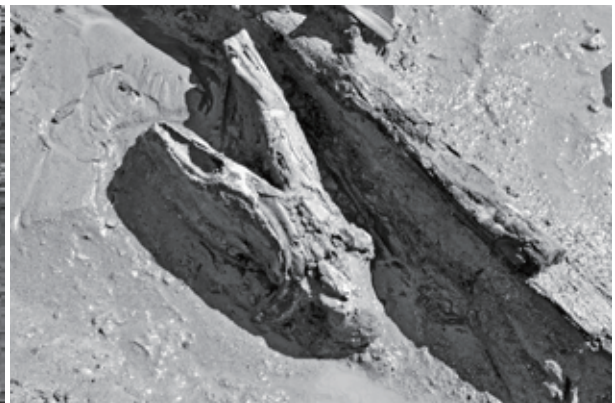
1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路西肩下層 杭検出状況 (東から)



2 井辺遺跡 2011-4区 A6-c18 4259 自然流路下層 遺物出土状況 (東から)



3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層
直柄平鍬未成品 1109 出土状況



4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路下層
イノシシ/ブタ下顎骨出土状況 (北西から)



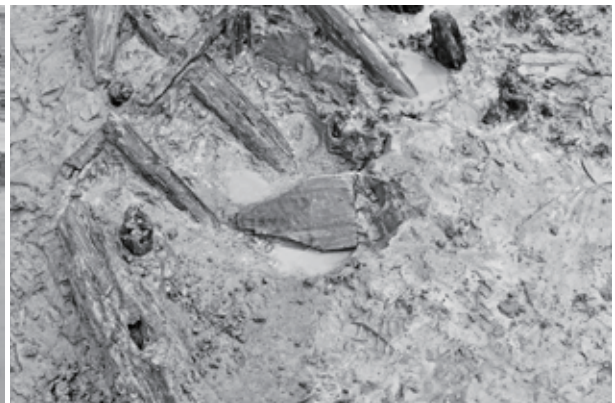
1 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路南端中層 2 遺物出土状況全景(北東から)



2 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路中層 2 生簀状遺構(南西から)



3 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路中層 2 生簀状遺構(南東から)



4 井辺遺跡 2011-4 区 4259 自然流路南半中層 2 腰掛脚部 1153 出土状況



1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層 遺物出土状況全景(北から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層 遺物出土状況全景(北北東から)



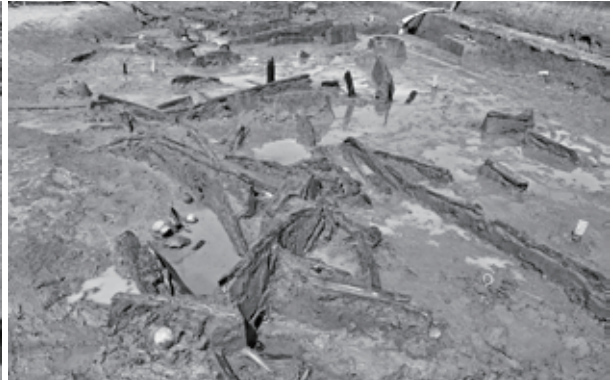
3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路上中層 遺物出土状況全景(南から)



1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層 遺物出土状況(北北東から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南端上中層 遺物出土状況(北東から)



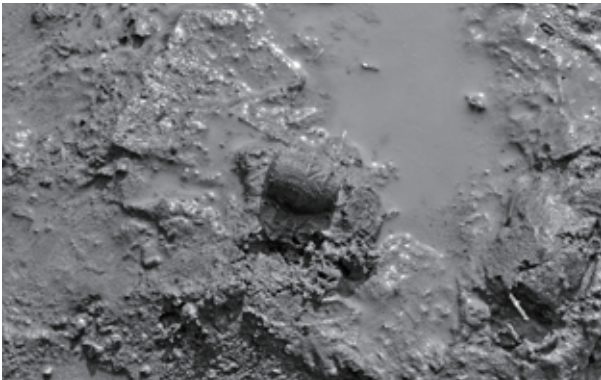
3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層 遺物出土状況(北北東から)



4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層 遺物出土状況(北東から)



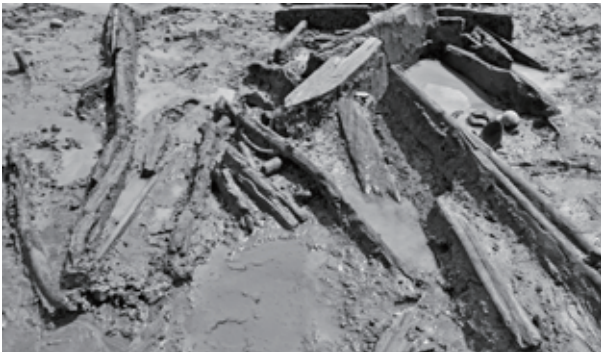
5 井辺遺跡 2011-4区 A6-c18 4259 自然流路北側 上中層 遺物出土状況(東から)



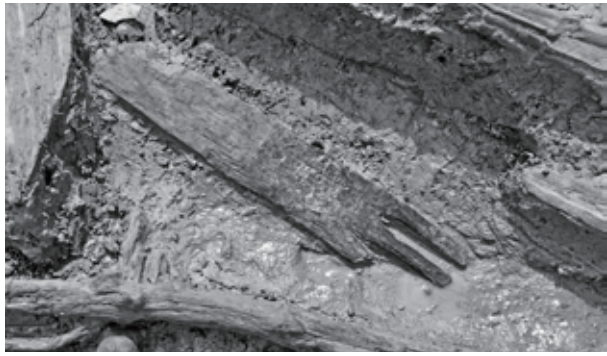
6 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層 鏑矢装着具 1145 出土状況



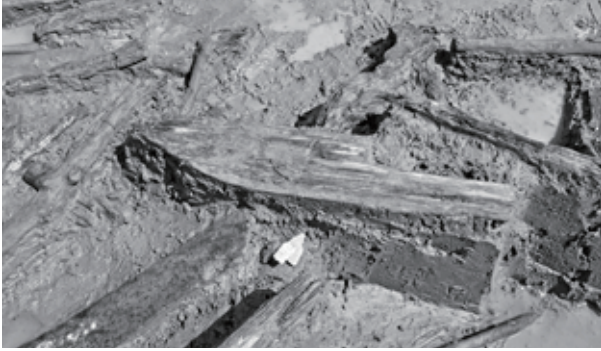
7 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層 織機 1119 出土状況(北西から)



1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層
妻壁板 1162・又鋸未成品 1107 出土状況(北北西から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層
又鋸未成品 1107 出土状況(北北東から)



3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路中央部分上中層
妻壁板 1162 出土状況(西から)



4 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層
屋根形木製品 1223 出土状況(南西から)



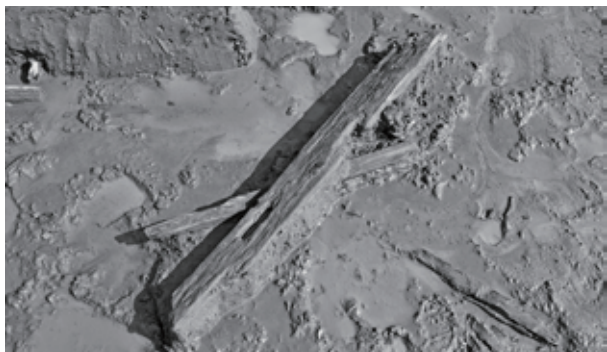
5 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層
垂木 1199 出土状況(北東から)



6 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層
水平構造材 1161 出土状況(北北西から)



7 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層
建築部材台輪? 1160 出土状況(北東から)



8 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層
建築部材台輪? 1159 出土状況(北西から)



9 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路北側上中層
柱 1184 出土状況(西南西から)



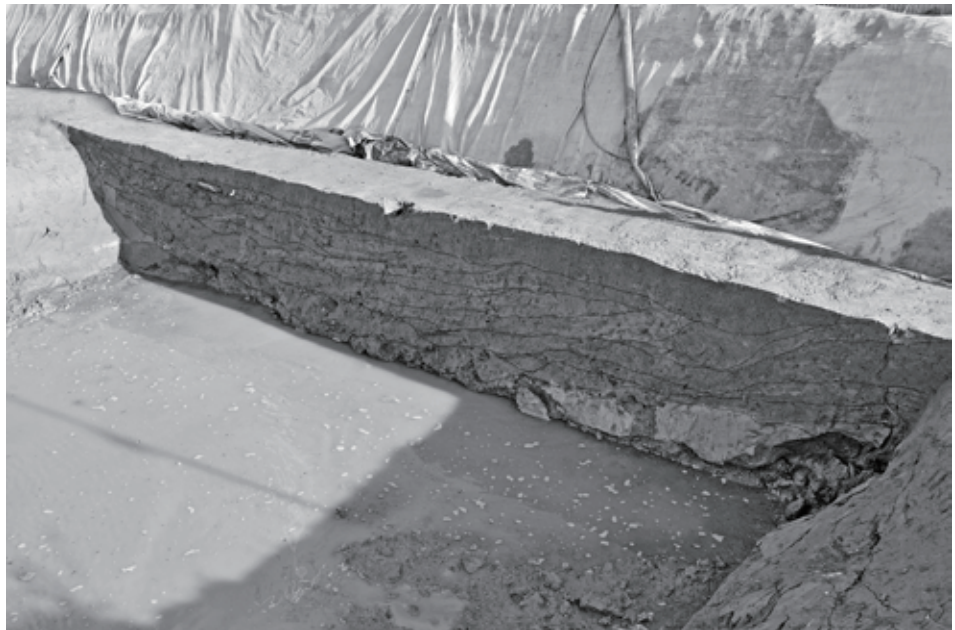
10 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路南半上中層
杭材 1226 他打ち込み状況(南西から)



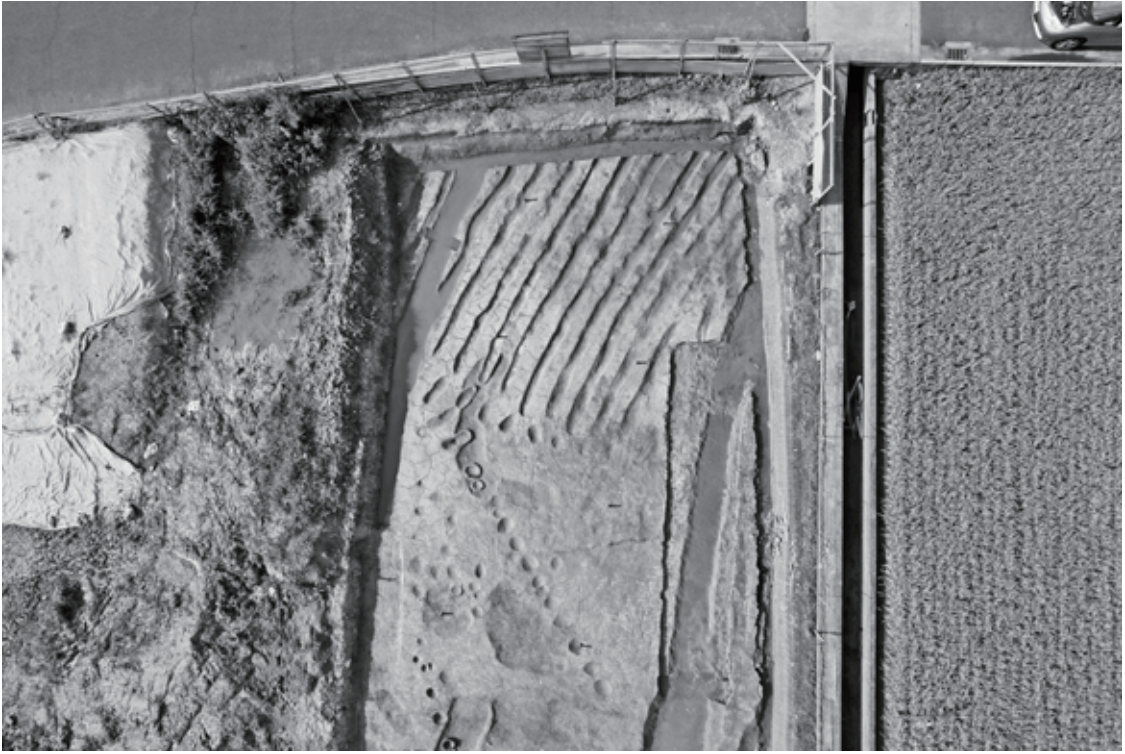
1 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路トレンチ3断面土層 (南東から)



2 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路トレンチ4断面土層 (南東から)



3 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路調査区南壁断面土層 (北西から)



1 井辺遺跡 2011-4区 3031～3034・4139～4149 畝状遺構・土坑列1～3(真上から)



2 井辺遺跡 2011-4区 3031～3034・4139～4149 畝状遺構・土坑列1～3(西上空から)



3 井辺遺跡 2011-4区 4139～4149 畝状遺構断面土層(南南東から)



4 井辺遺跡 2011-4区 4139～4149 畝状遺構断面土層(南南西から)



1 井辺遺跡 2011-4 区 土坑列 1~3・土坑群 (北西から)



2 井辺遺跡 2011-4 区 土坑列 2 (4155~4170 土坑) 断面土層 (西から)



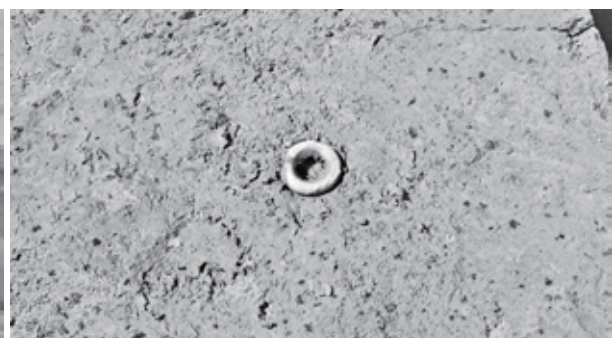
3 井辺遺跡 2011-4 区 土坑列 5 (4195~4199 土坑) 断面土層 (南西から)



4 井辺遺跡 2011-4 区 土坑列 8 (4213~4220 土坑) 断面土層 (南西から)



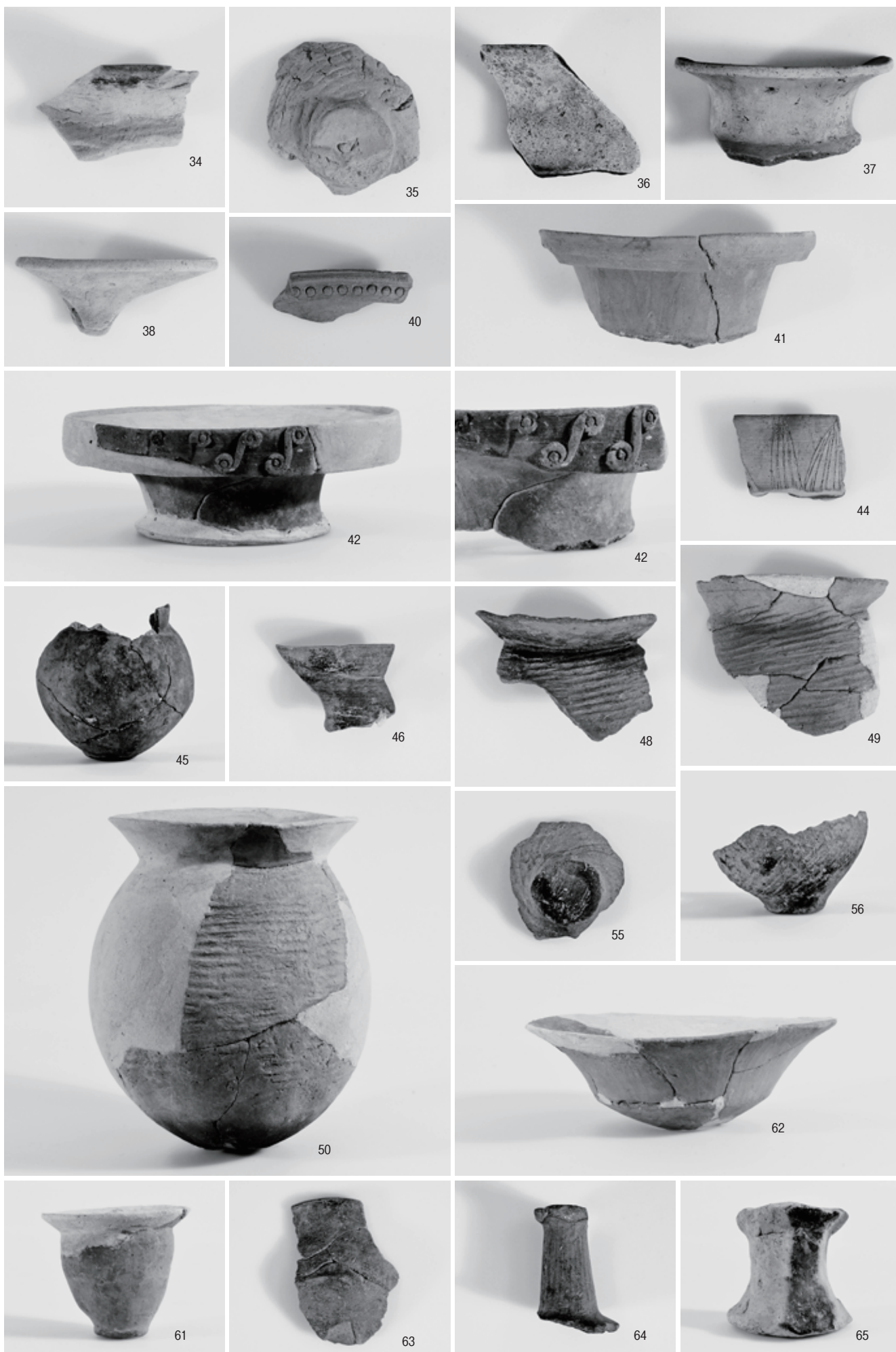
5 井辺遺跡 2011-4 区 土坑列 11 (4242~4246 土坑) 断面土層 (南から)



6 井辺遺跡 2011-4 区 A6-d11 3 層下耳環出土状況 (南から)

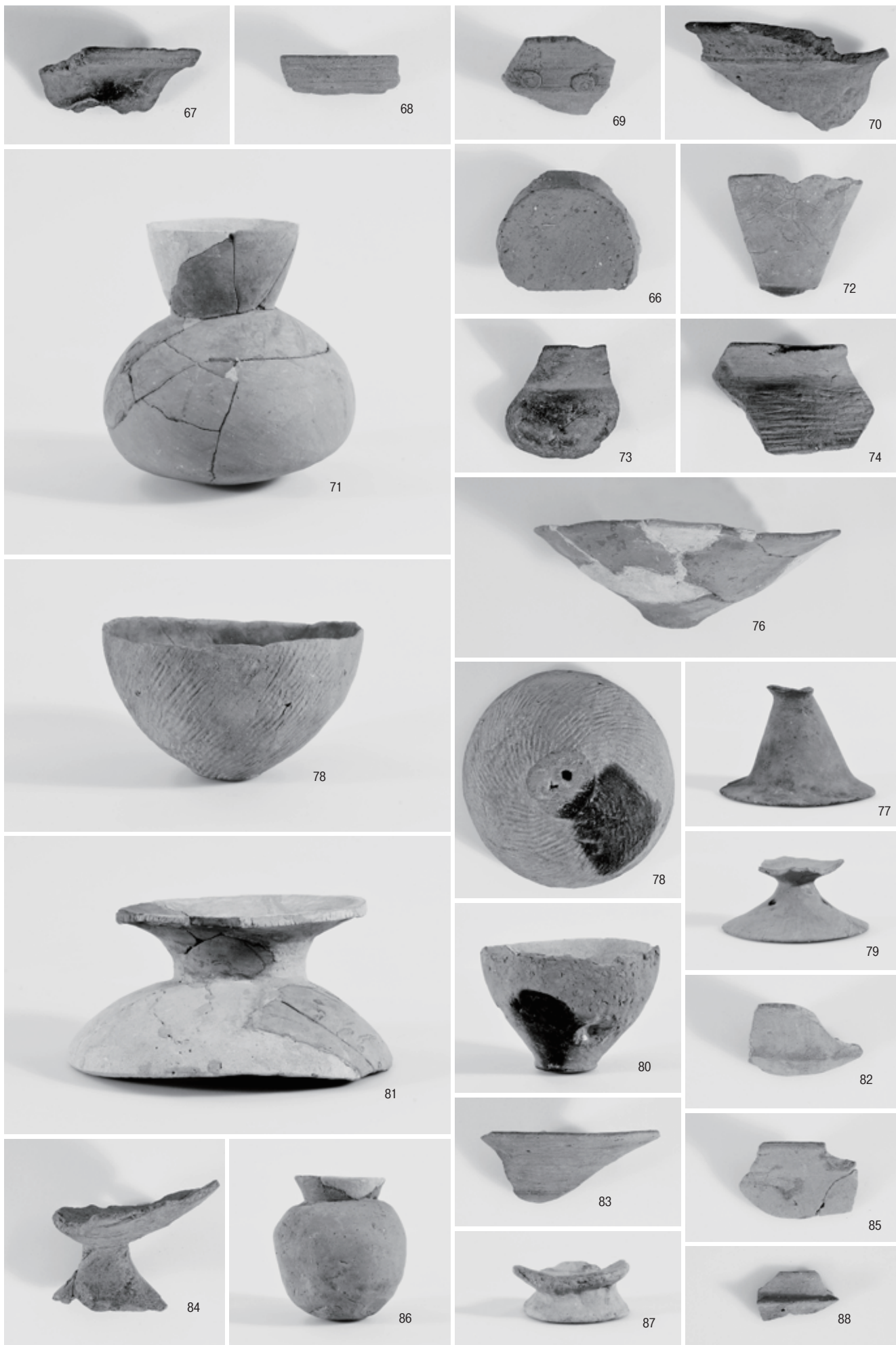


1:1017 溝、2:1042 溝、3~9:2070 谷状地形、10:2067 溝、11・15:1026 溝、14:1036 溝、16~19: 遺物包含層 3 層下関係、
 20: 遺物包含層 3 層関係、21~29: 遺物包含層 2 層関係、30~33: 遺物包含層 1 層関係 図 51 に対応



34・35:1 土坑、36~38・40~42・44~46・48~50・55・56・61~65: 自然流路土器溜り他

図 52 に対応



66: 自然流路下層砂層、67~74・76~78: 自然流路下層、79・80: 自然流路中層、81~85: 自然流路4層・1・2層関係、86・87: 遺物包含層4層関係、88: 遺物包含層3層関係

図 53 に対応



89:3135 土坑、93~98:3092 溝、99~102:3097 溝、103・104:3005 溝下層、106・110・111:3005 溝地点取上、114~116:3005 溝上層

図 54 に対応



117~119:3001 溝最下層、120・122・125~136:3001 溝下層・地点取上、140・142~146・148:3001 溝中層

図 55 に対応



153・155～157・159・160・162・163・165:3001 溝中層、166・167・170・172:3001 溝上層、177・179・180: 遺物包含層 3 層下
 関係、185・187・189・190: 遺物包含層 3 層関係

図 56 に対応



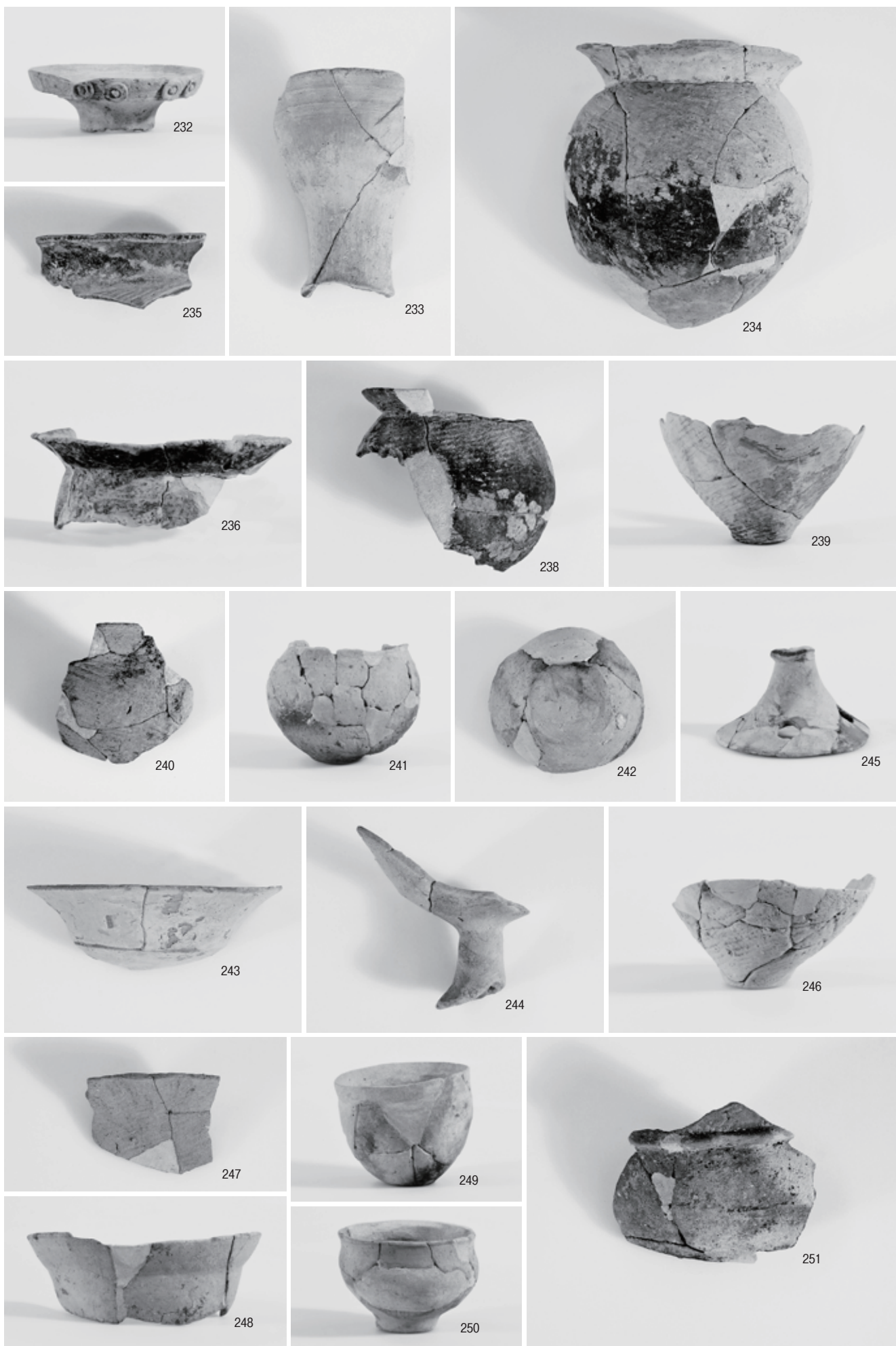
193:3920 不明、196・198~201・203~205・208・209:3065 溝地点取上

図 57 に対応



213・214・216～221・224～228・230・231:3065 溝地点取上

図 58 に対応



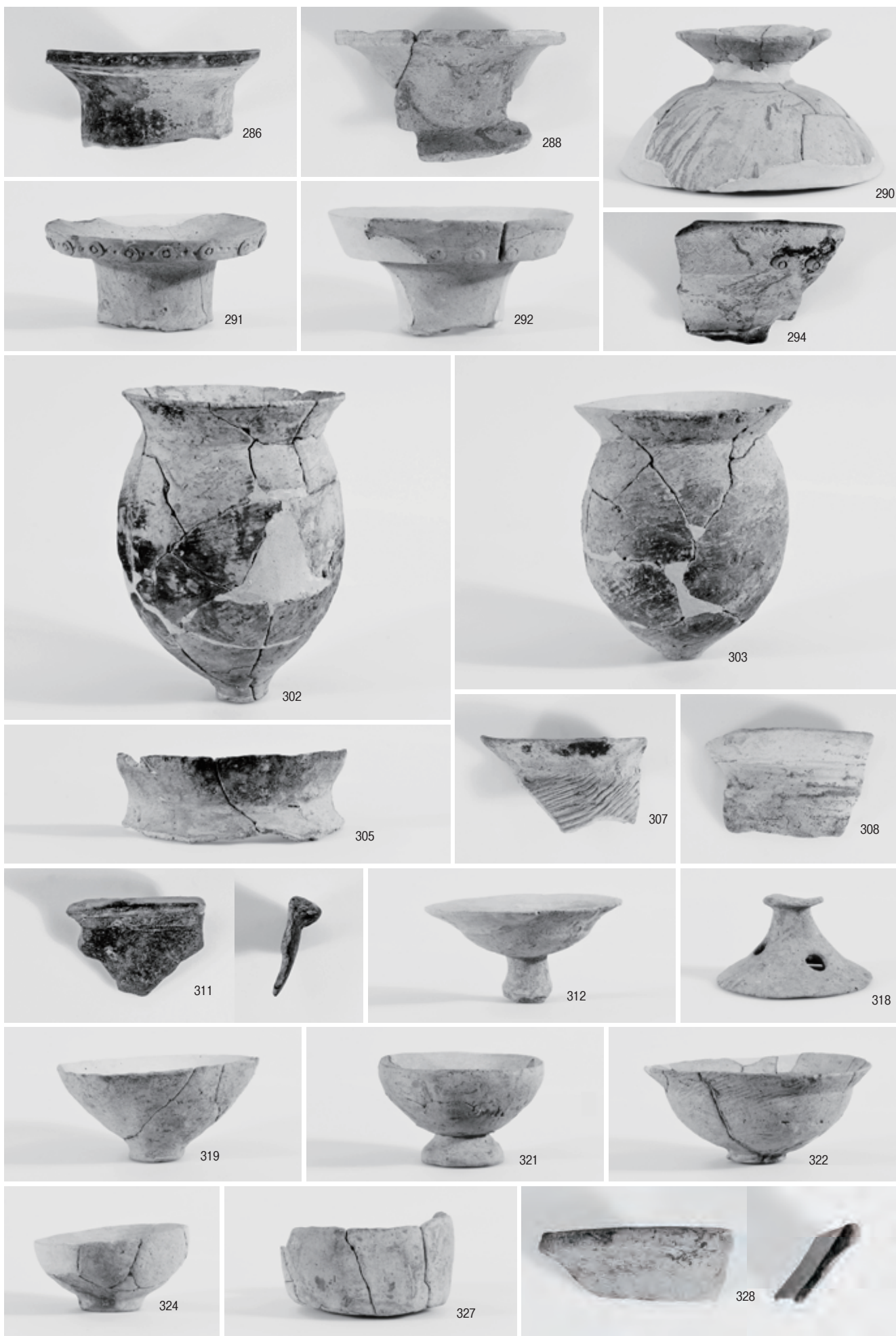
232・233・235・236・238～248・250・251:3065 溝上層関係、234:3065 溝下層、249:3065 溝中層

図 59 に対応



252・258～264・266・268・269・281・282・284:4260 溝(3)A6-d12 区画地点取上

図60・61 に対応

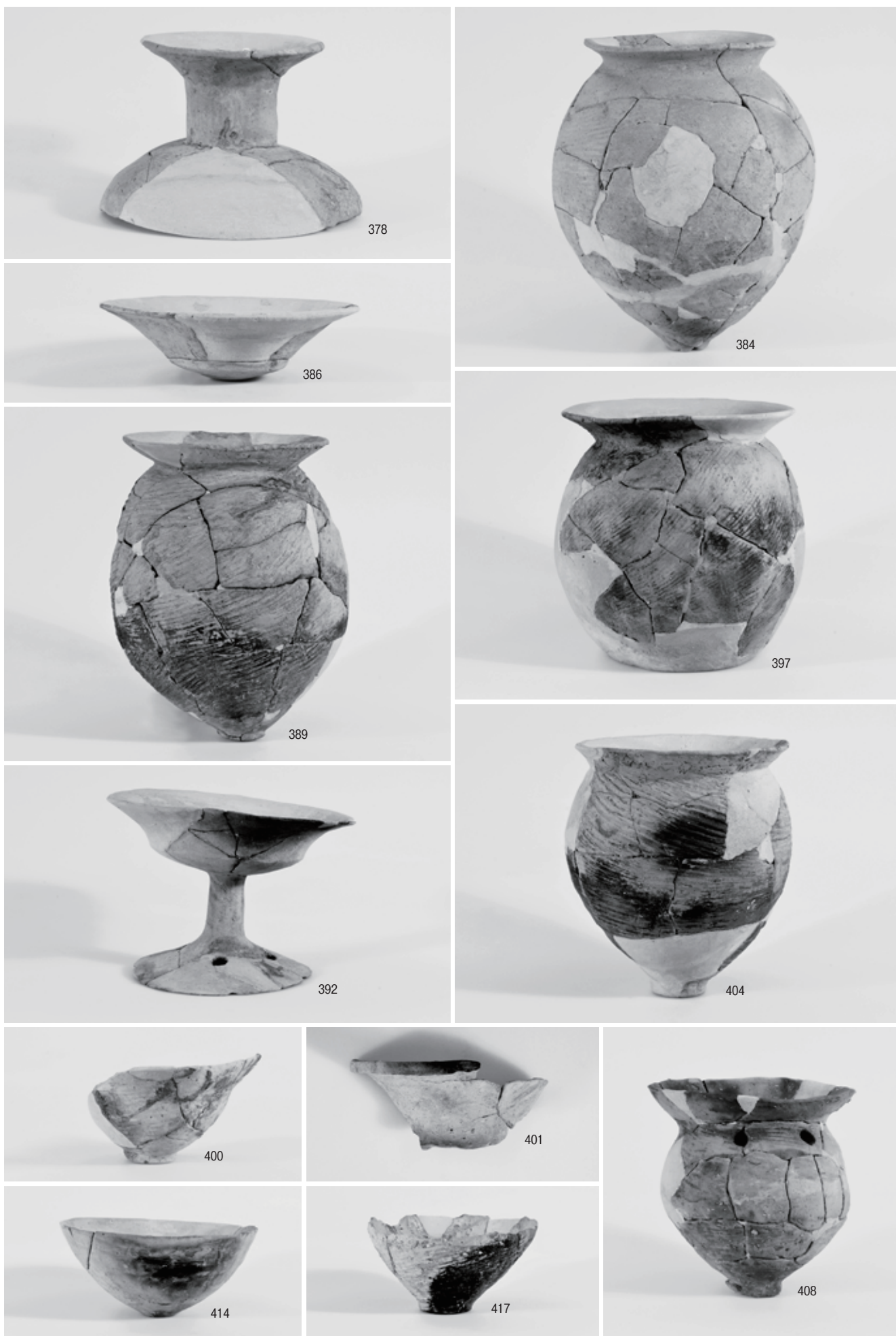


286・288・290～292・294・302・303・305・307・308・311・312・318・319・321・322・324・327・328:4260 溝(4)A6-d13 区画地点取上 図61・62 に対応

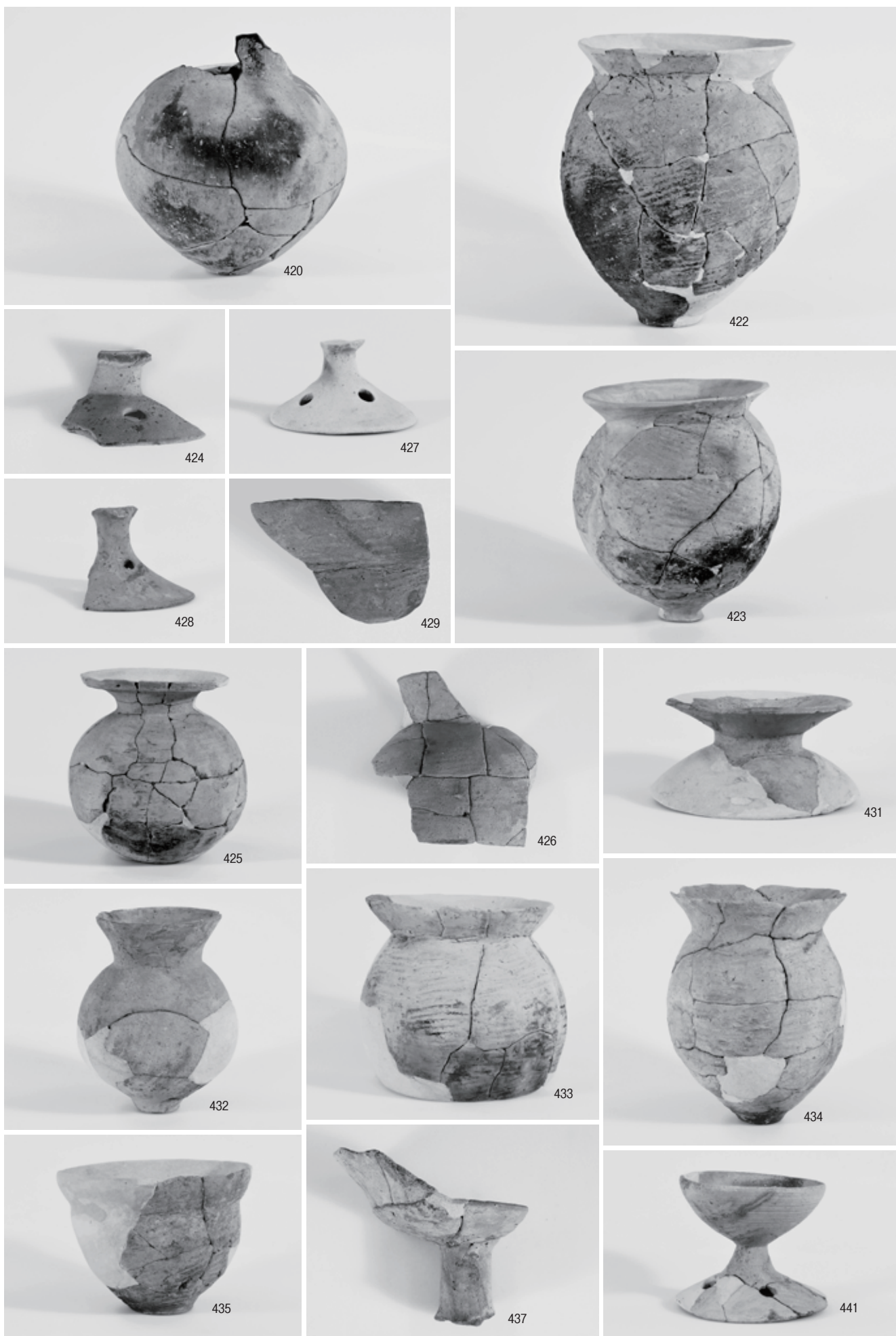


329・330・332・335・341・342・349・350・353～356:4260 溝(6)A6-d14 区画地点取上、358・359:4260 溝(7)A6-e14 区画地点取上

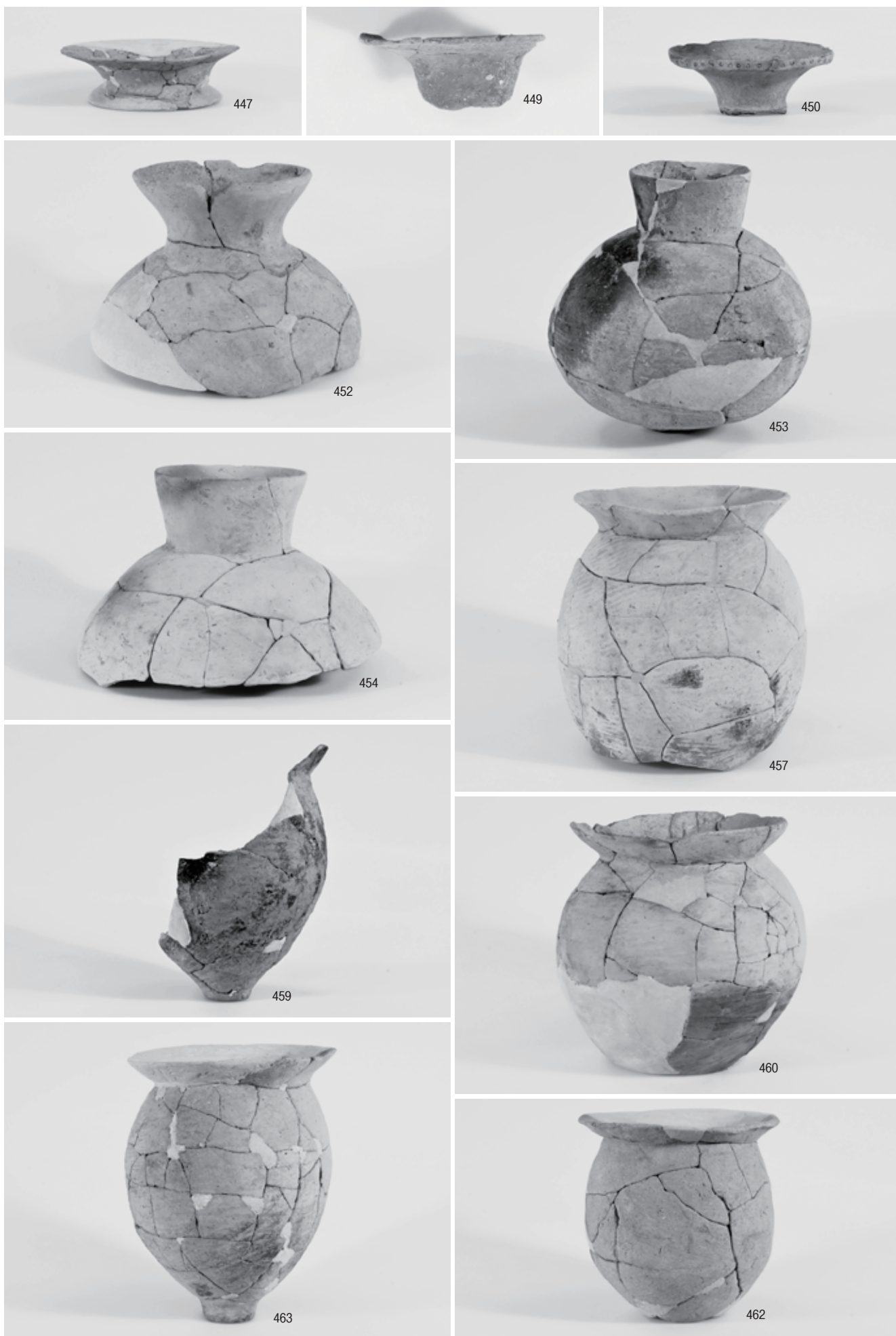
図63・64に対応



378・384・386:4260 溝(8)A6-d15 区画地点取上、389・392:4260 溝(9)A6-e15 区画地点取上、397・400:4260 溝(10)A6-d16 区画地点取上、401・404・408・414・417:4260 溝(11)A6-e16 区画地点取上 図 65・66 に対応

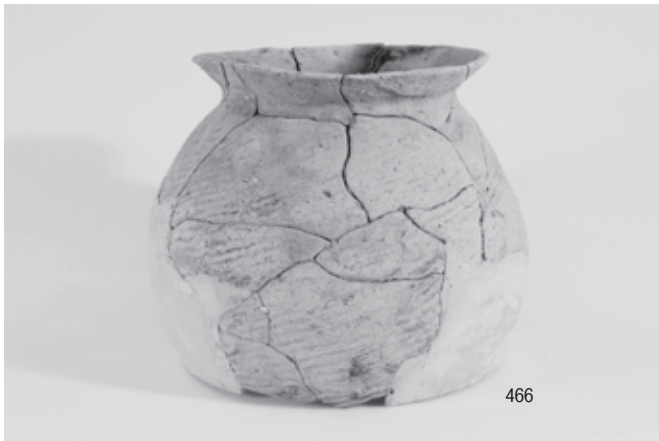


420・422～424:4260 溝(12)A6-e17 区画地点取上、425～429:4260 溝(13)A6-e18 区画地点取上、431～435・437・441:4260 溝(14)A6-e19 区画地点取上 図 66・67 に対応



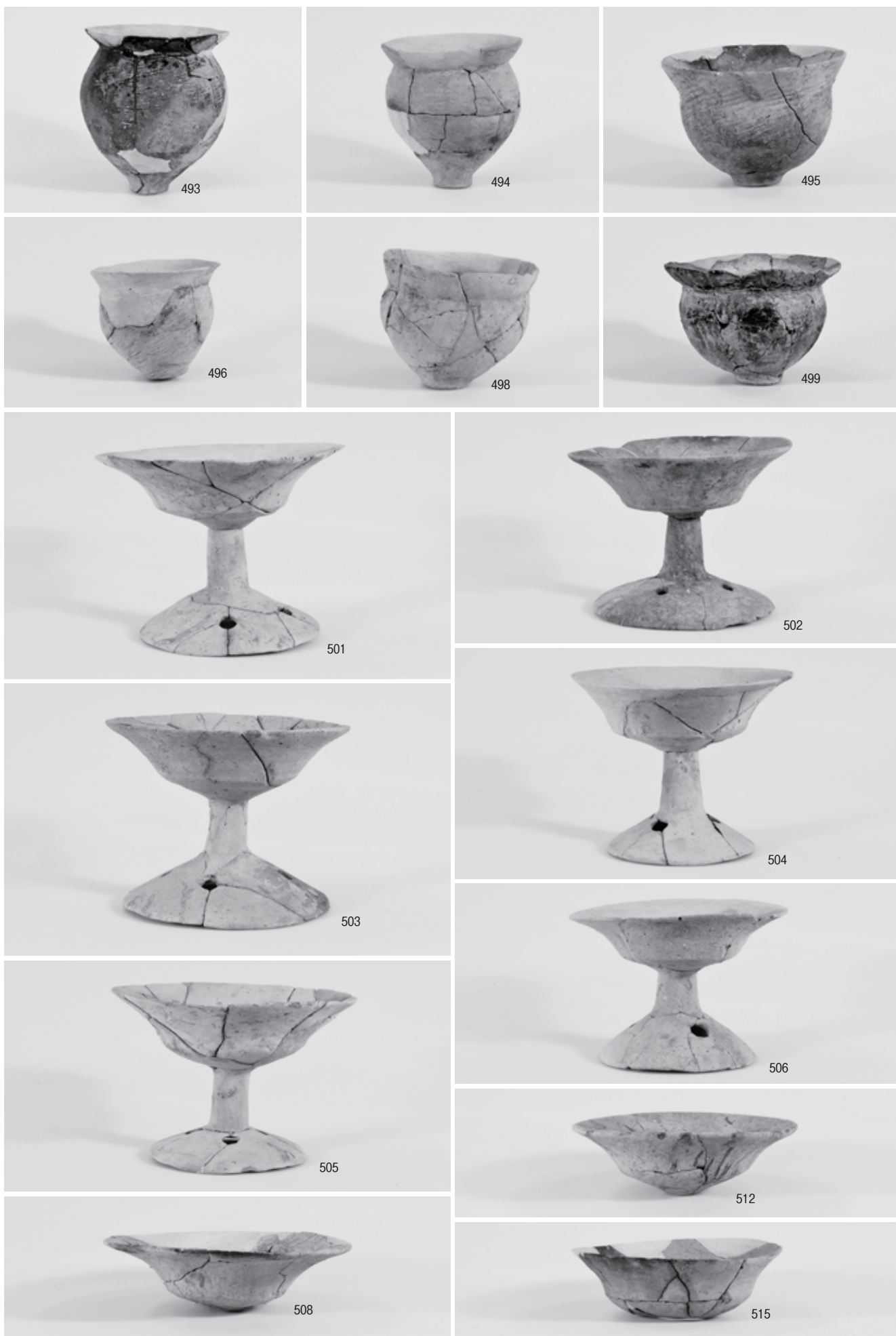
447・449・450・452～454・457・459・460・462・463:4260 溝(16)A6-e20 区画地点取上

図 68 に対応



464~466・468・469・471・476・477・481・482:4260 溝(16)A6-e20 区画地点取上

図 69・70 に対応



493~496・498・499・501~506・508・512・515:4260 溝(16)A6-e20 区画地点取上

図 71 に対応



517~522・526~528・530・532~534・539・540・542~544:4260 溝(16)A6-e20 区画地点取上、535:4260 溝(17)A6-e21 区画地点取上 図 72 に対応



562・563・565・567・569～574:4259 自然流路(1)A6-c18 区画下層地点取上他

図 74 に対応

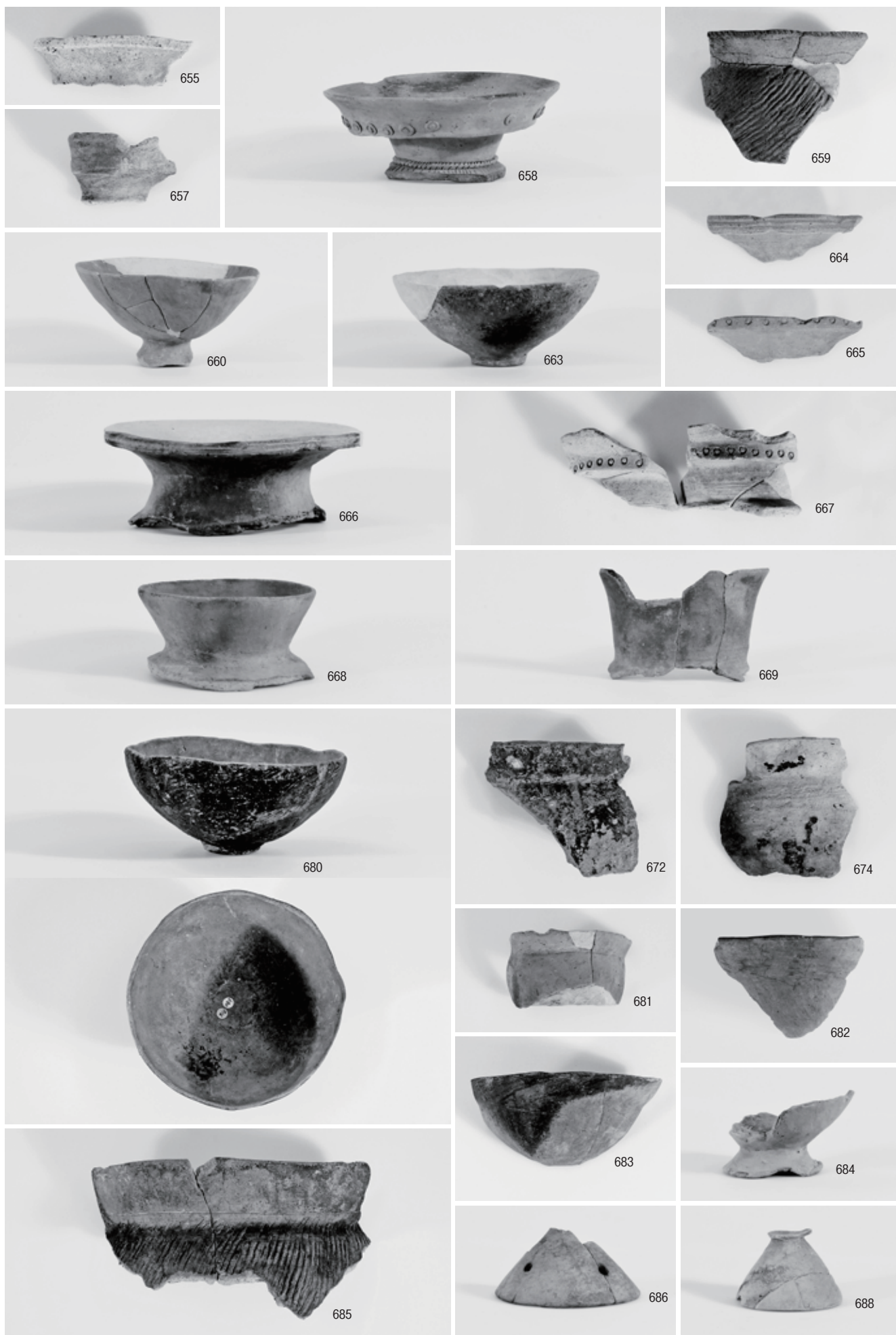


576・578・582・586:4259 自然流路(1)A6-c18 区画下層地点取上他、587～589・593:4259 自然流路(1)A6-c18 区画中層、
 596～598・600・601・609:4259 自然流路(1)A6-c18 区画上中層地点取上 図 75・76 に対応



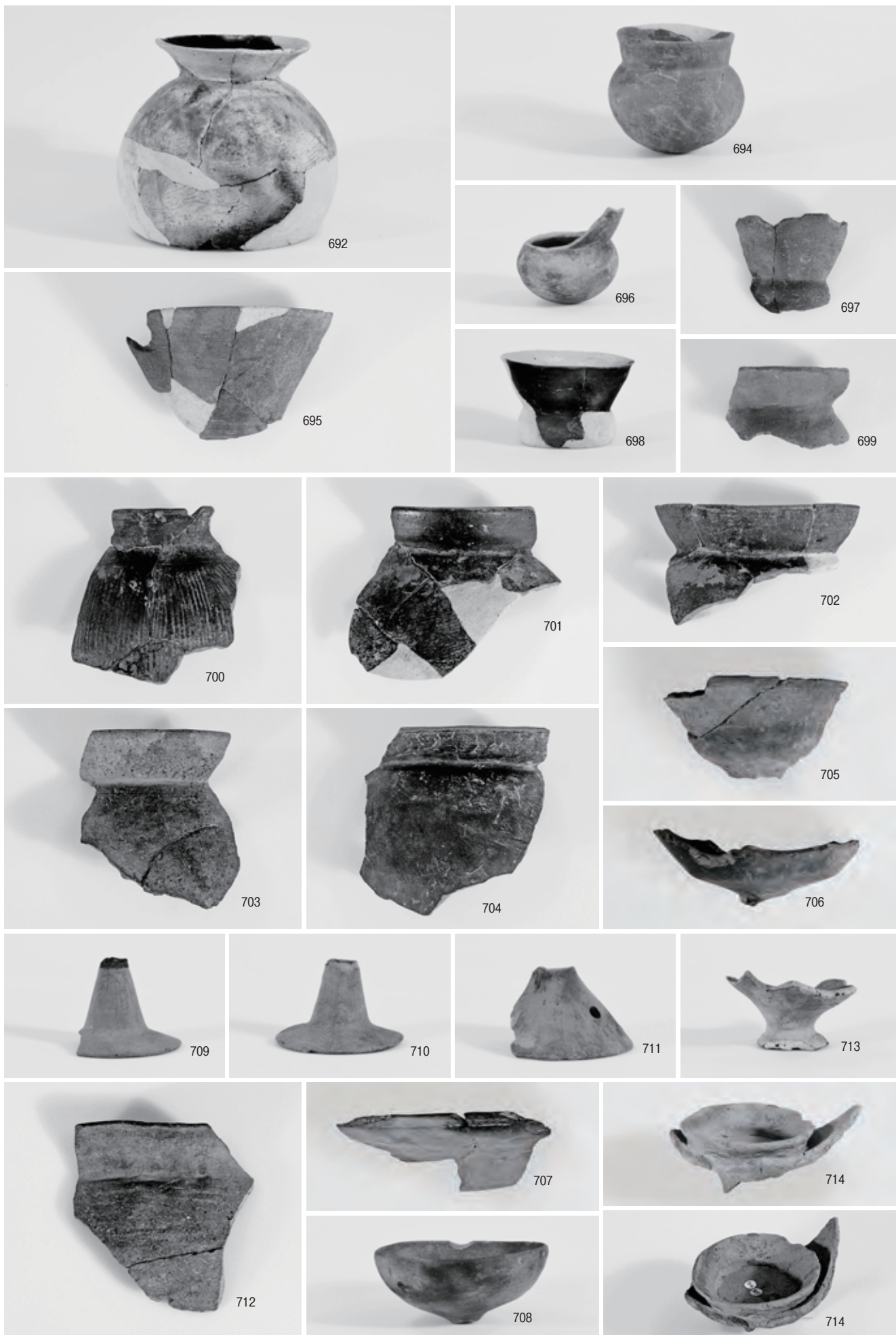
615~617・620・622・623:4259 自然流路(2)A6-c19 区画 中層地点取上他、626・627:4259 自然流路(2)A6-c19 区画上 中層地点取上、632~634・642:4259 自然流路(5)A6-c20 区画 下層、648~650:4259 自然流路(5)A6-c20 区画 中層地点取上、651:4259 自然流路(5)A6-c20 区画上 中層地点取上、653:4259 自然流路(5)A6-c20 区画上 層、654:4259 自然流路(6)A6-d20 区画 中層地点取上

図 77・78 に対応



655・657～660・663:4259 自然流路(8)A6-c21 区画最下層、664～669・672・674・680～686・688:4259 自然流路(8)A6-c21 区画下層

図 79・80 に対応



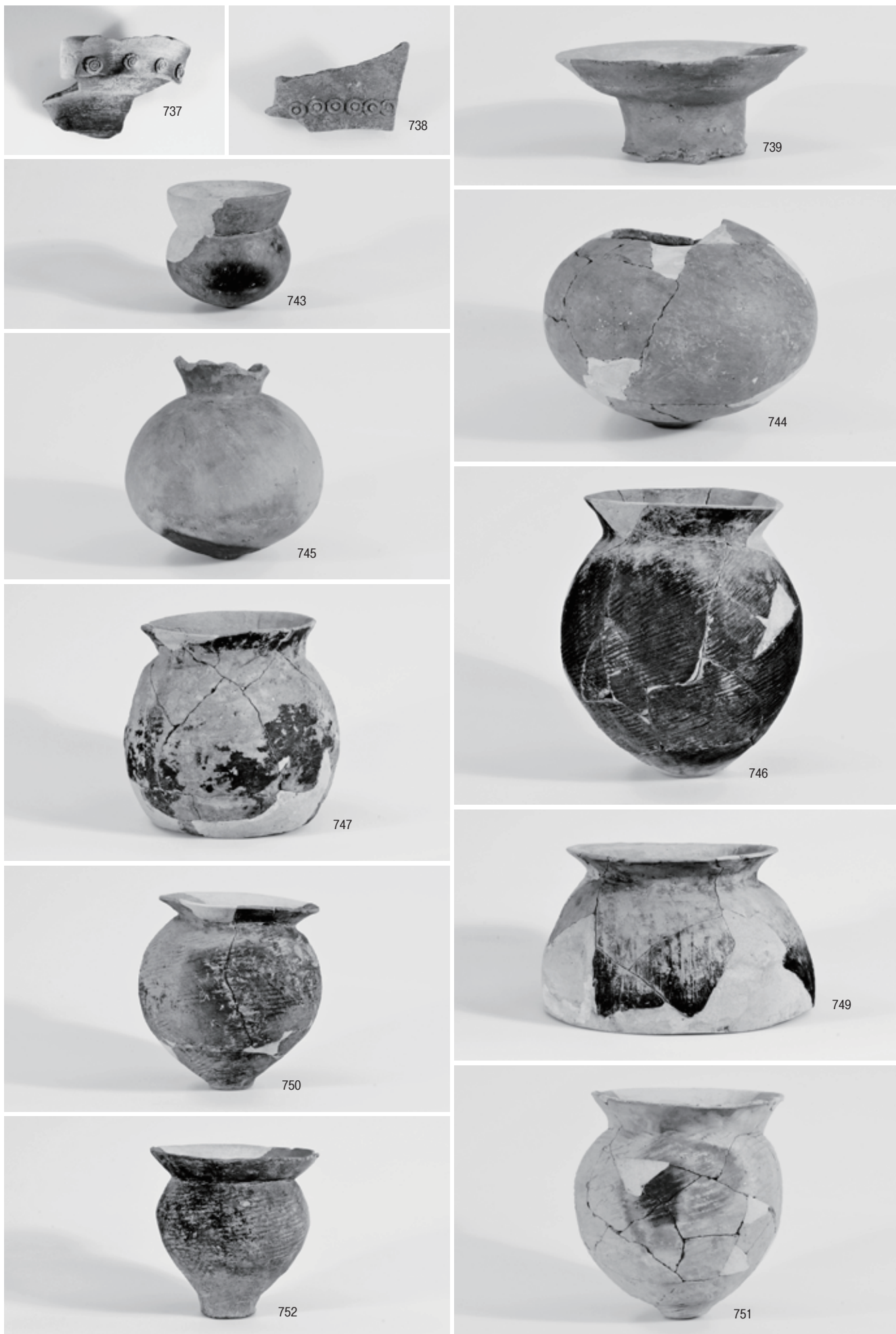
692・694～714:4259 自然流路(8) A6-c21 区画中層地点取上他

図 80 に対応



715:4259 自然流路(8)A6-c21 区画上中層地点取上、716・717:4259 自然流路(8)A6-c21 区画上層、718:4259 自然流路(9)A6-d21 区画下層、719:4259 自然流路(9)A6-d21 区画上層、720:4259 自然流路(10)A6-b22 区画上層、723~725:4259 自然流路(11)A6-c22 区画最下層、726・727・729・730:4259 自然流路(11)A6-c22 区画下層砂層、731・732:4259 自然流路(11)A6-c22 区画下層

図 81 に対応



737~739・743~747・749~752:4259 自然流路(11)A6-c22 区画下層

図 82 に対応



755~757・760・762~767・769~771・773・774:4259 自然流路(11)A6-c22 区画下層

図 83 に対応



778~780:4259 自然流路(13)A6-b23 区画最下層、781・783・784・787・788:4259 自然流路(13)A6-b23 区画下層、
 791:4259 自然流路(14)A6-c23 区画最下層、792・795・796:4259 自然流路(14)A6-c23 区画下層、797・798:4259 自
 然流路(14)A6-c23 区画中層、799:4259 自然流路(15)A6-d23 区画下層、800:4259 自然流路(15)A6-d23 区画上層、
 802・803:4259 自然流路(16)A6-b24 区画最下層

図 84・85 に対応

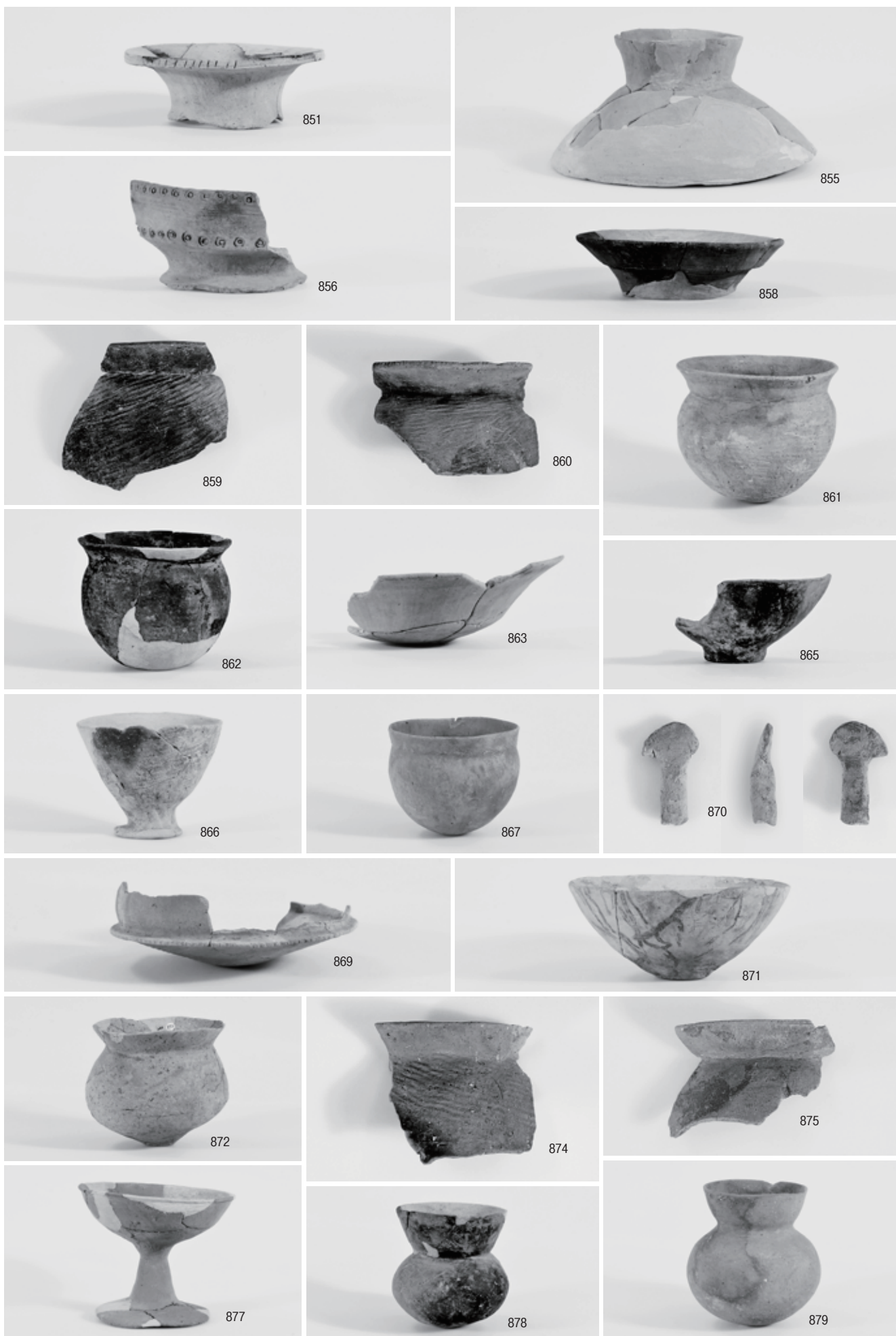


804・805:4259 自然流路(16)A6-b24 区画最下層、810・811・813・816~818・820・823・827:4259 自然流路(16)A6-b24 区画下層、828・829:4259 自然流路(16)A6-b24 区画中層 図 85・86 に対応



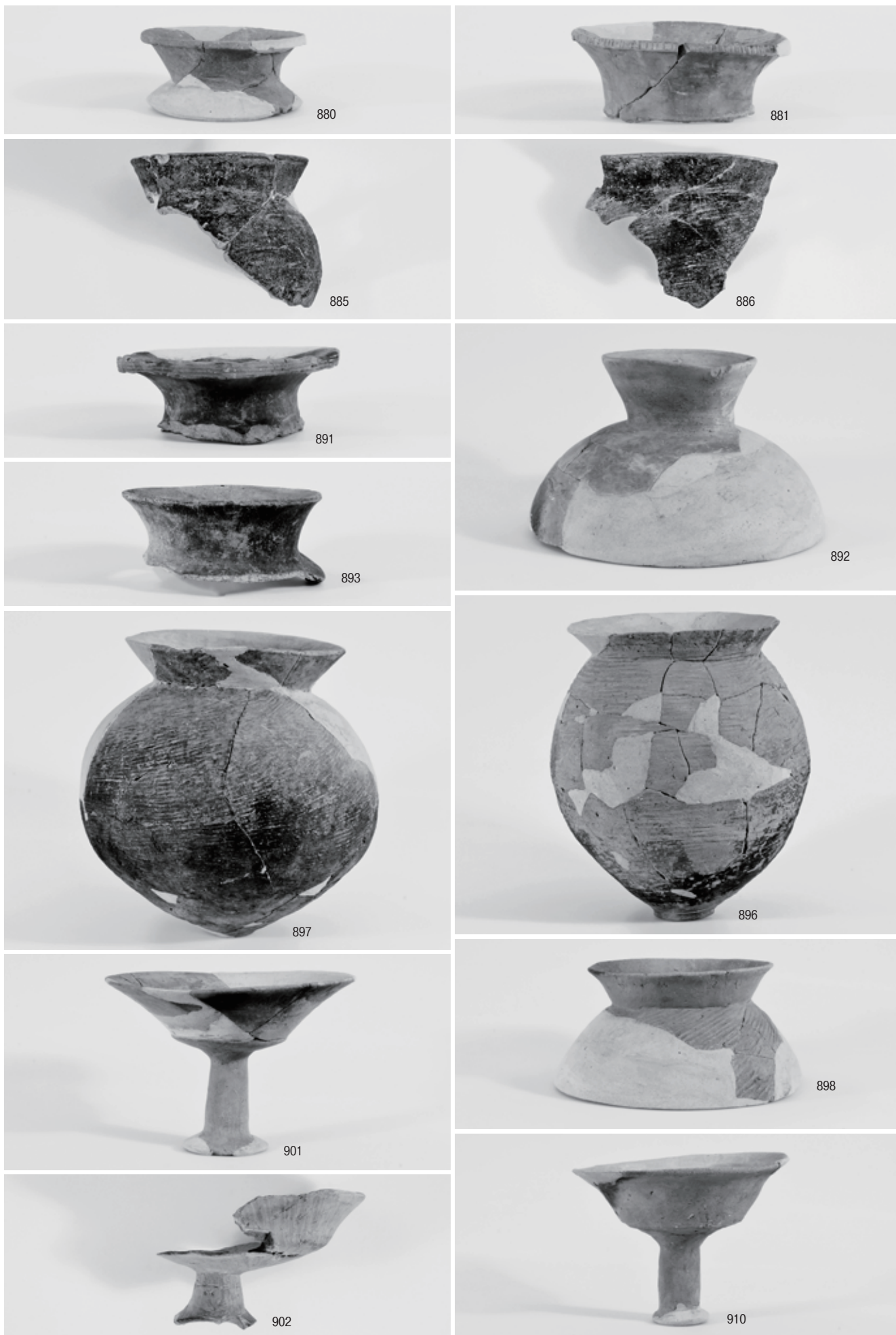
831~833:4259 自然流路(17)A6-c24 区画最下層、835・836・839~843:4259 自然流路(17)A6-c24 区画下層、844:4259 自然流路(17)A6-c24 区画下層地点取上、845:4259 自然流路(17)A6-c24 区画上中層地点取上、846・847:4259 自然流路(17)A6-c24 区画上層地点取上他、848:4259 自然流路(18)A6-d24 区画下層、849・850:4259 自然流路(18)A6-d24 区画上中層地点取上

図 86・87 に対応



856・859～863・865～867・869:4259 自然流路(19)A6-b25 区画下層、870:4259 自然流路(19)A6-b25 区画下層、871:4259 自然流路(19)A6-b25 区画上層地点取上、872:4259 自然流路(19)A6-b25 区画上層地点取上、851・855・858・874・875:4259 自然流路(20)A6-c25 区画下層、877:4259 自然流路(20)A6-c25 区画下層、878:4259 自然流路(20)A6-c25 区画上層地点取上、879:4259 自然流路(21)A6-d25 区画上層地点取上

図 87・88 に対応



880・881・885・886:4259 自然流路(23)A7-b1区画下層砂層関係、891～893:4259 自然流路(23)A7-b1区画下層地点取上他、896～898・901・902:4259 自然流路(23)A7-b1区画下層、910:4259 自然流路(23)A7-b1区画上中層地点取上 図 88・89 に対応



913:4259 自然流路(24)A7-c1 区画砂層、914・915・918:4259 自然流路(24)A7-c1 区画下層、920・921:4259 自然流路(24) A7-c1 区画中層、922・923:4259 自然流路(24)A7-c1 区画上中層地点取上、932・934・939~941・953・957:4259 自然流路(27) A7-b2 区画下層 図 90~92 に対応



959:4259 自然流路(27)A7-b2 区画中層地点取上、965:4259 自然流路(28)A7-c2 区画最下層、970・973:4259 自然流路(28)A7-c2 区画下層、977:4259 自然流路(28)A7-c2 区画中層、981・983:4259 自然流路(31)A7-b3 区画最下層、996~1000:4259 自然流路(31)A7-b3 区画下層

図 92~94 に対応



1001・1003～1005:4259 自然流路(31)A7-b3 区画中层地点取上、1006・1008・1009:4259 自然流路(32)A7-c3 区画下層、1010・1011:4259 自然流路(32)A7-c3 区画中层、1017:4259 自然流路(35)A7-b4 区画下層砂層、1020～1022・1026:4259 自然流路(35)A7-b4 区画下層、1030・1032:4259 自然流路(35)A7-b4 区画中层、1035～1037:4259 自然流路(36)A7-c4 区画下層

図 94・95 に対応



1039・1040・1042:4259 自然流路(36)A7-c4 区画 中層地点取上他、1045・1046・1049:4259 自然流路(39)A7-b5 区画 下層、1051・1054:4259 自然流路(39)A7-b5 区画 中層地点取上他、1061・1062・1064:4259 自然流路(40)A7-c5 区画 下層、1066:4259 自然流路(40)A7-c5 区画 中層、1073:4259 自然流路(44)A7-c6 区画 下層、1075:4259 自然流路(5)A6-c20 区画 下層

図 96・97 に対応



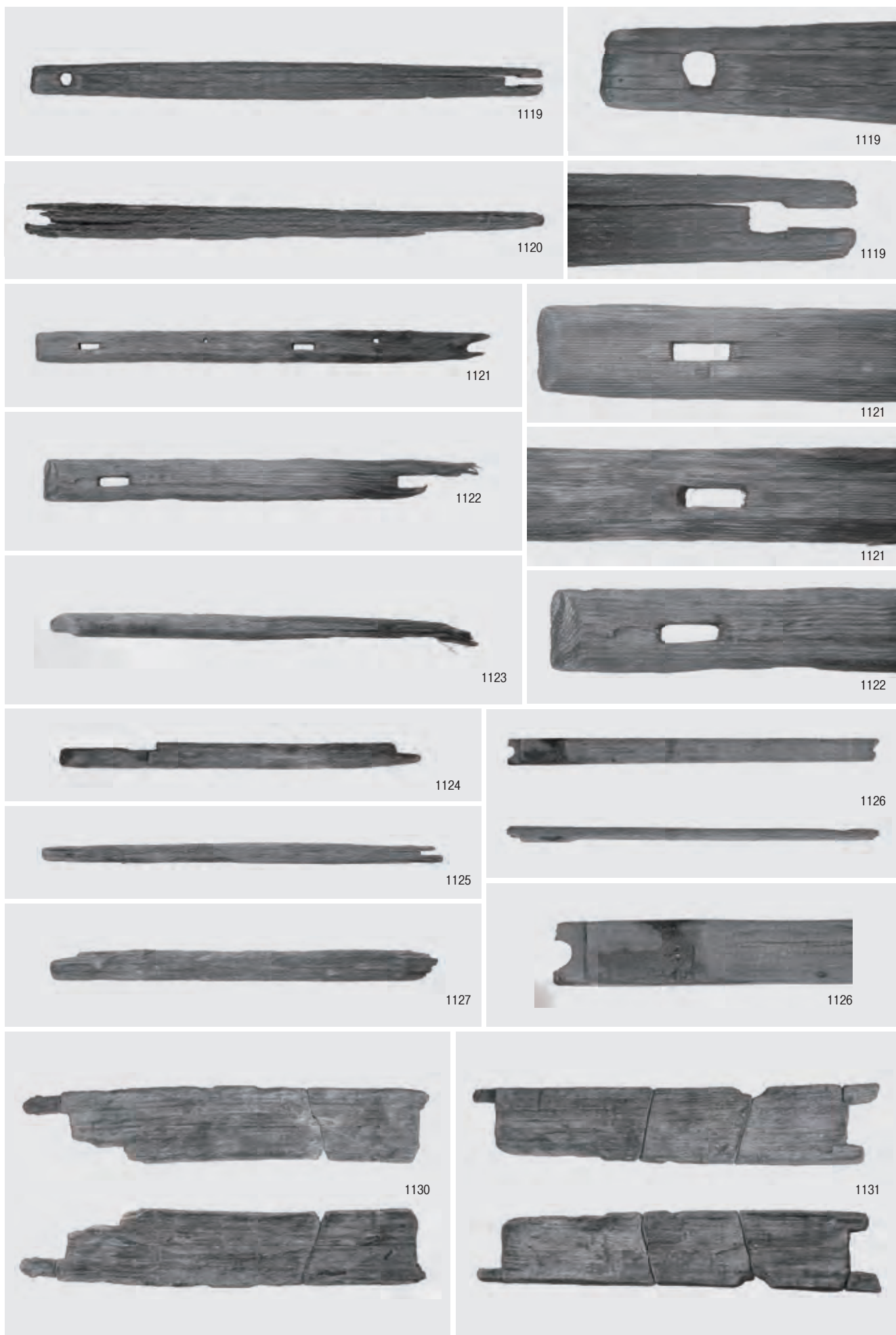
1082~1084・1086~1090: 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路、1085・1093・1094: 井辺遺跡 2011-4区 4260 溝、1102: 井辺遺跡 2011-3区 排土中、1103: 井辺遺跡 2011-4区 遺物包含層 3層下、1104: 神前遺跡 2011-2区 2070 谷状地形 上層、1105: 井辺遺跡 2011-4区 4259 自然流路 最下層

図 98・99 に対応



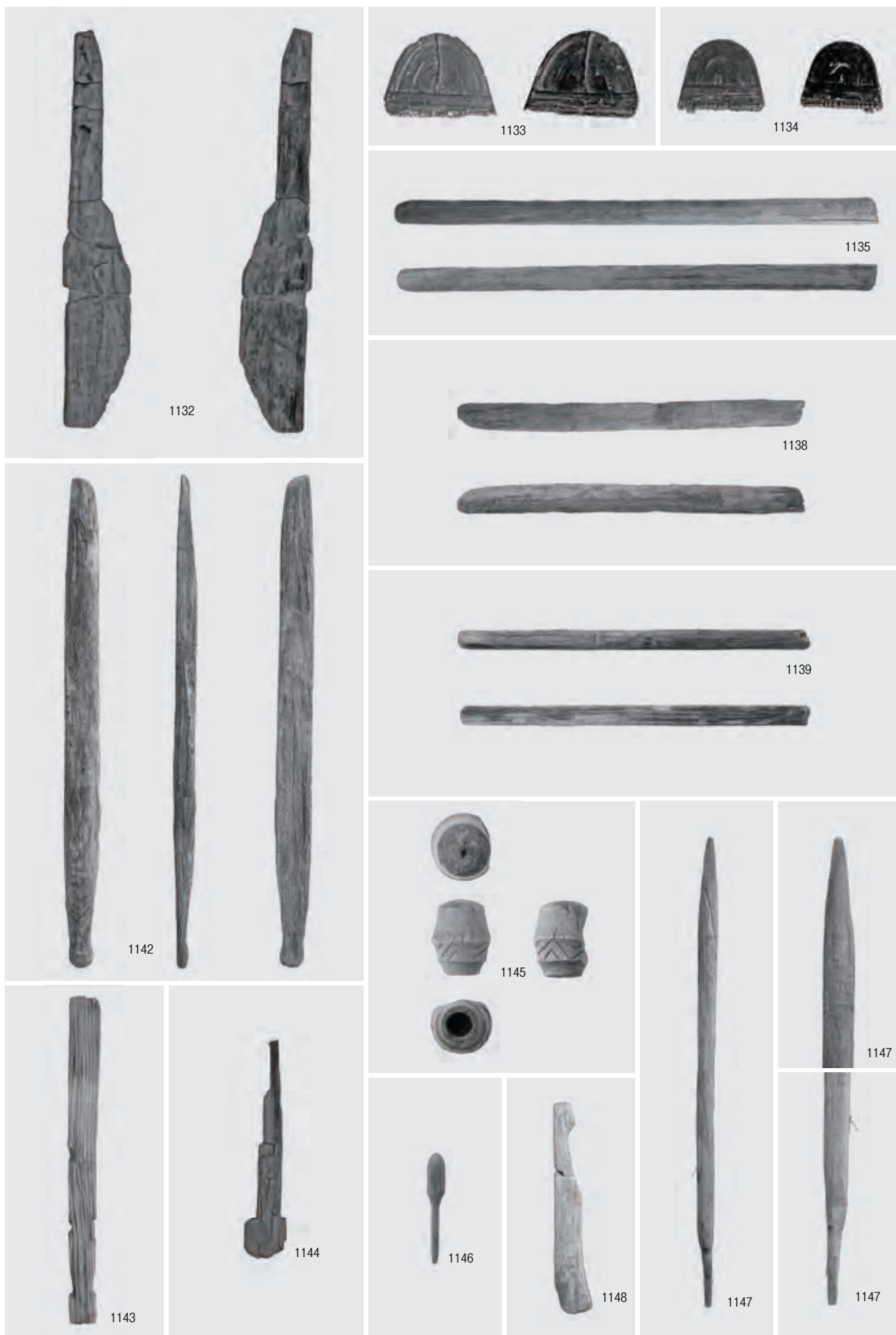
4259 自然流路 最下層 : 1117、下層 : 1106・1108・1109・1113・1118、中層 2 : 1110・1111・1116、中層 : 1112、上中層 : 1107・1115

図 100 に対応



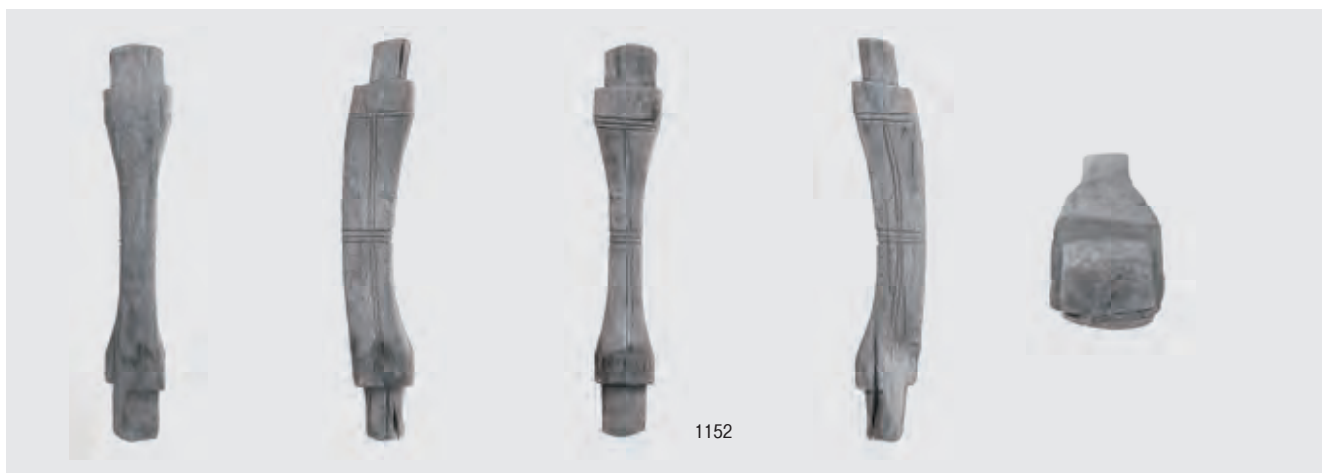
4259 自然流路 中層 2:1121・1124、中層:1119・1125・1126、上中層:1120・1122・1123・1127・1130・1131

図 101・102 に対応



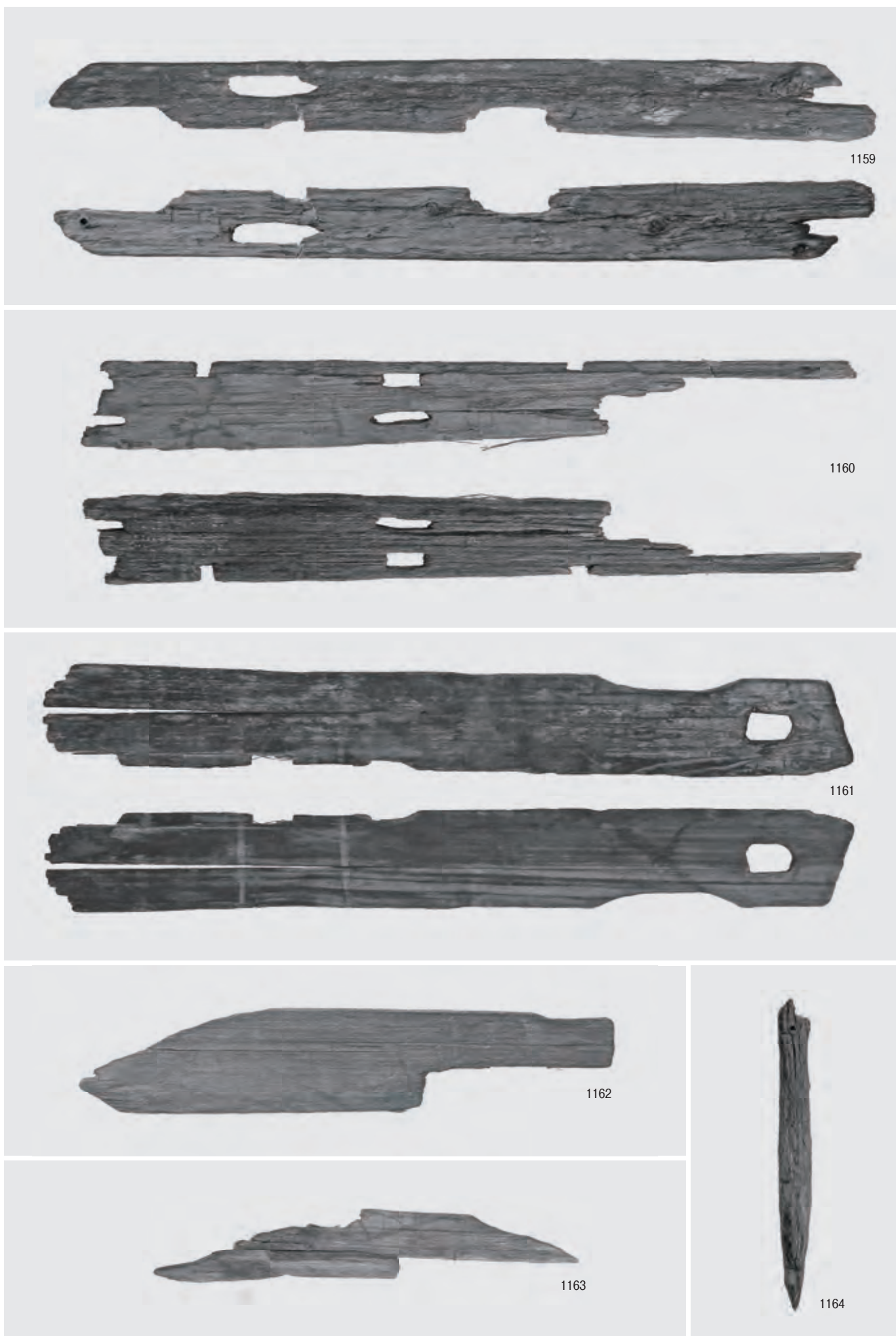
4259 自然流路 下層：1142・1143、中層2：1139、中層：1132・1134・1144～1148、上中層：1133・1135・1138

図102・103に対応



4259 自然流路 下層:1154・1155、中層2:1153、中層:1152・1156、上中層:1158

図103に対応



4259 自然流路 中層 2:1164、上中層:1159~1162、上層:1163

図 104 に対応



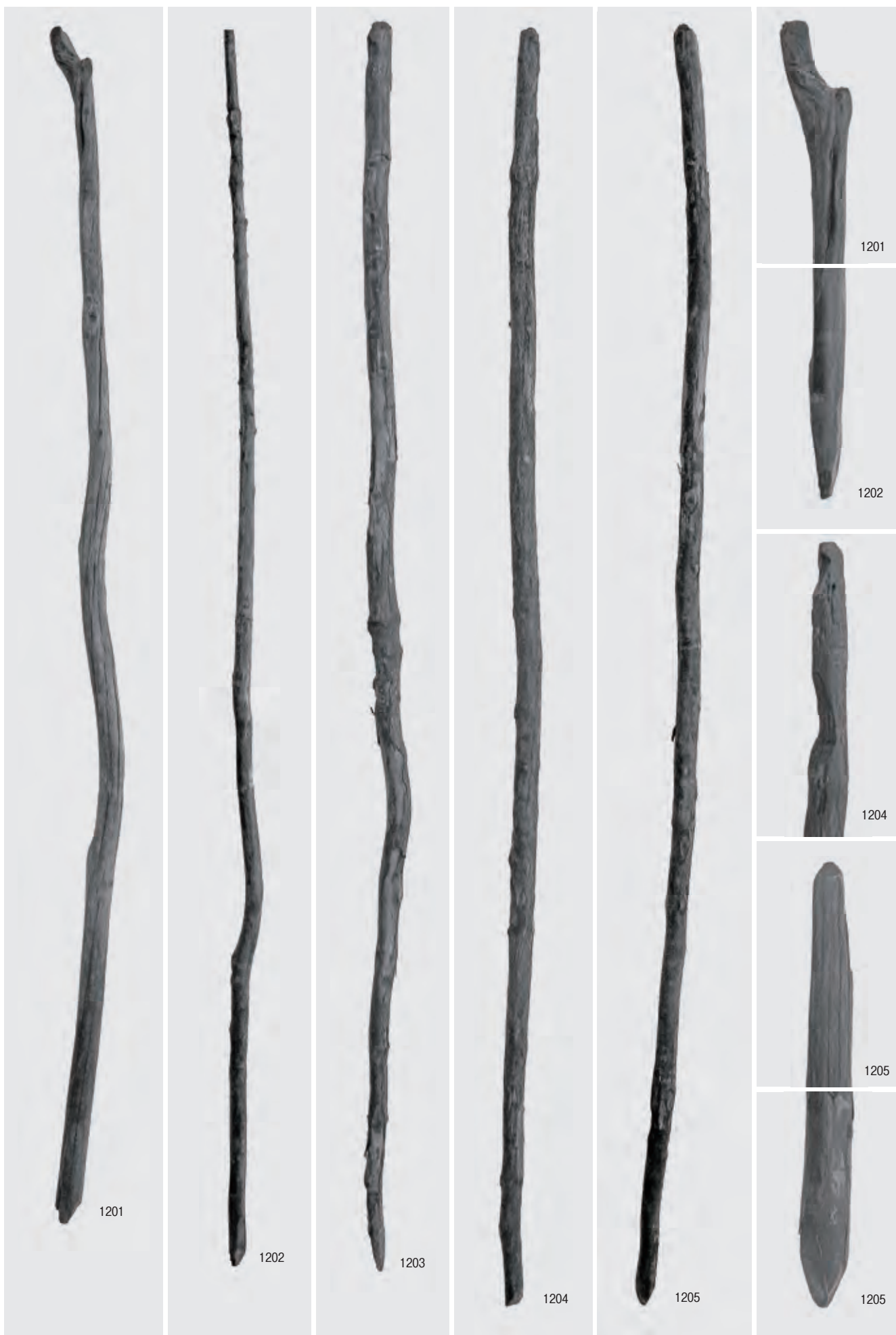
4259 自然流路 下層 : 1176・1186、中層 2 : 1179、上中層 : 1173・1178・1183～1185、上層 : 1181

図 105～107 に対応



4259 自然流路 下層 : 1191、中層 : 1198・1199、上中層 : 1192・1196・1197

図 108～110 に対応



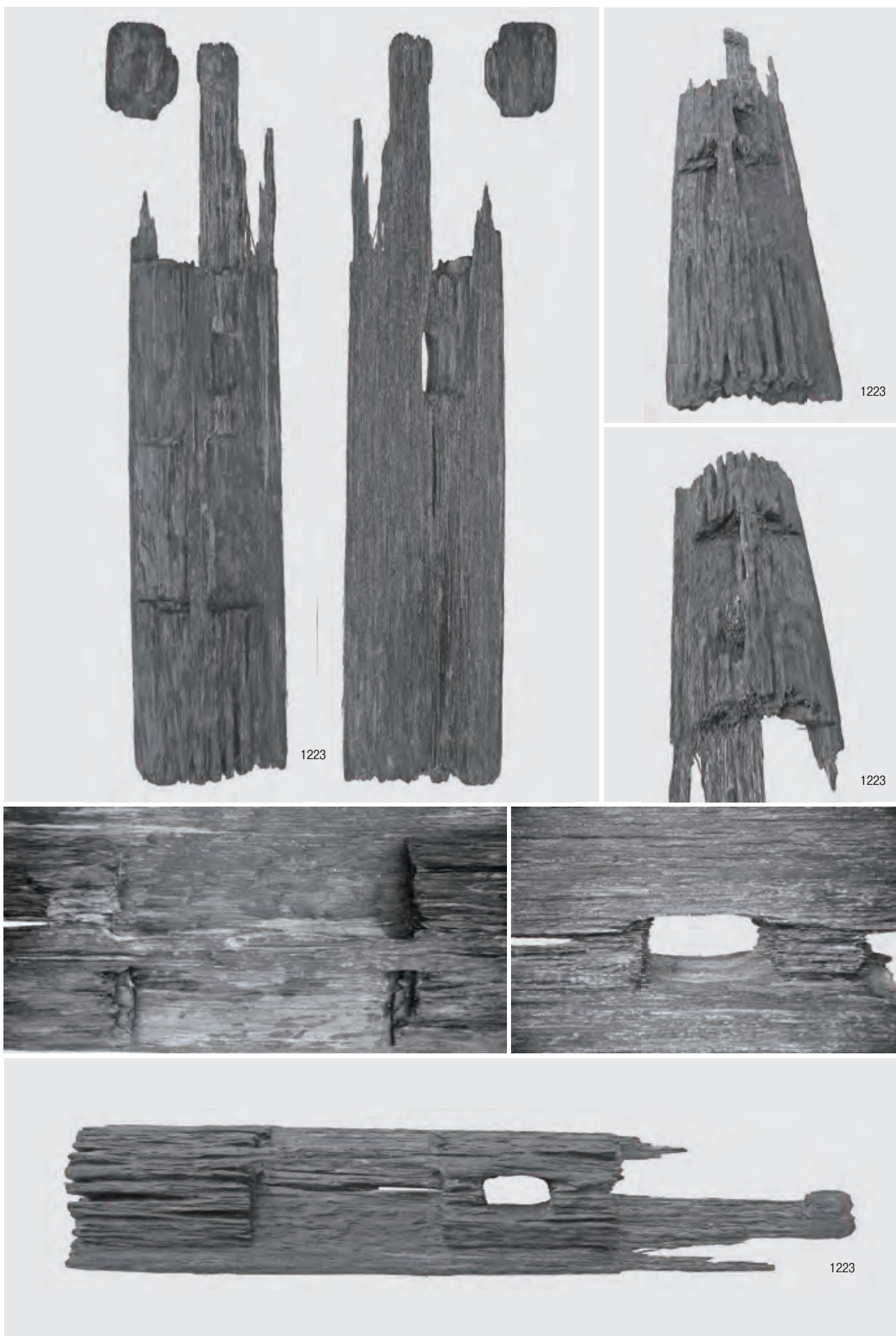
4259 自然流路 下層：1201・1203・1205、上中層：1202・1204

図110・111に対応



4259 自然流路 最下層 : 1215、下層 : 1209・1217・1220、中層 2 : 1214・1218・1221、上中層 : 1206・1207・1211・1212・1216・1219、サブトレ : 1213

図 111・112 に対応



4259 自然流路 中層 : 1223

図 113 に対応



4259 自然流路 中層2:1224・1225・1235・1238、上中層:1226・1229・1237

図113～115に対応

